

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 石黒 敏明	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 過去5年間の修士論文指導と現在の修士&博士論文指導	平成16年4月1日 ~平成21年	過去5年間私の演習で修士論文を書いた学生の数は5名です。私はその間、学生の主査として指導にあたりました。現在(2009年7月)私の演習には博士課程前期に2名、博士課程後期にも2名学生が在籍し、そのうち後期の学生一人は現在博士論文を提出する最終段階ですが、私はその指導に3年間あたっています。	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
米国留学紀行:英語教師の 視点から	単著	平成 17 年 1 月	リトル・ガリヴァー社		207 頁
論文					
English Proficiency Lev- els of College Students in Japan	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学心理教育論 集第 23 号		1-8 頁
アジアにおける英語と文化 の多様性:神奈川大学外国 語学部設立 40 周年記念国 際シンポジウム	単著	平成 17 年 3 月	『神奈川大学評論』50 号		175-182 頁
簡素化使用域としての「野 球トーク」	単著	平成 20 年 2 月	神奈川大学大学院『言語 と文化論集』第 14 号		129-171 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 47 年～現在に至る	語学ラボラトリー学会会員
昭和 47 年～現在に至る	日本音声学会会員
昭和 52 年～現在に至る	大学英語教育学会会員
昭和 57 年～現在に至る	日本英語学会会員
平成 8 年 3 月～現在に至る	TESOL 学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 ウィリアム・マコウミ	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Foreign Images and Experiences of Japan, Vol.1 1st century AD - 1841	単著	平成 17 年 1 月	Global Oriental		
The Opening of Japan, 1853-1855	単著	平成 18 年 6 月	Global Oriental		
論文					
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 61 年 8 月～現在に至る	『English as a World Language : Whose Language is it Anyway ? 』小田原 L10J 日本人の英語教師のための夏期研修にて。
平成 2 年 8 月～現在に至る	『Language , Culture and Communication 』 『English as a World Language 』小田原 L10J , 日本人の英語教師のための夏期研修にて。
平成 2 年 10 月～現在に至る	『Perestroika in Language Teaching 』長崎大学.JALT 長崎支部
平成 2 年 11 月～現在に至る	日本教育大学協会九州地区外国語部門研究協議会
平成 3 年 10 月～現在に至る	『How to teach English and other languages 』九州地区英語教育研究大会長崎大会にて。
平成 4 年 9 月～現在に至る	『A multimedia approach to learning Russian 』長崎.JALT 長崎支部
平成 5 年 8 月～現在に至る	『The Current State of Student Services at Foreign Universities 』(日本語)長崎、全九州大学生サービス課?協会長崎大会にて
平成 5 年 8 月～現在に至る	『Learning Languages : a Polyglot 's Perspective 』小田原.L10J 英語教師のための国際夏期研修にて
平成 6 年 10 月～現在に至る	『The Russian Mission to Nagasaki in 1853 - 1854 and its role compared to the American Perry Mission 』(日本語)東京、一ツ橋大学 ロシア史研究会全国大会にて。
平成 7 年 7 月～現在に至る	『異文化比較研究 1 』長崎、文部省 長崎県教育委員会. 長崎県免許法認定講習にて。3 日間全 12 時間
平成 7 年 7 月～現在に至る	『長崎における日本 - ロシア交流史 - レザノフから日露戦争まで 』(日本語)長崎、出島研究会にて。
平成 8 年 1 月～現在に至る	『異文化理解 』長崎、文部省及び長崎県教育庁学校教育課による JETS と ALTS のための研修会にて。
平成 8 年 2 月～現在に至る	『Russians in Nagasaki , 1853 - 1859 : another look at some Russian , English and Japanese sources 』(日本語)ソ連・東欧史研究会にて(福岡市西南学院大学)
平成 8 年 5 月～現在に至る	『日本と外国の交流史 』神奈川大学人文学研究所講演会にて
平成 9 年 11 月～現在に至る	『日本の開国の再考 』神奈川大学人文研究所、第 7 回日中学术交流シンポジウムにて
平成 11 年 11 月～現在に至る	Association for Asian Studies (アジア研究協会?) 会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 高橋 一幸	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 横浜キャンパス一般英語教育改革の立案と実施、国際文化交流学科英語系カリキュラムの設計		平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日	外国語科目教育協議会会長として、旧英語部会主任鳥越輝昭教授とともに、1. 横浜キャンパス全学部に対する入学時、2 年、3 年進級時の TOEIC テストの導入 2. 外部団体からの Native 講師の一括採用とカリキュラム改革 3. イングリッシュラウンジの設置 4.E ラーニングシステムの導入 など、横浜キャンパスの一般英語改革、及び、2006 年度新設の国際文化交流学科の英語カリキュラムの作成に携わった。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
平成 15 年度版文部科学 省検定高等学校「英語 I」 教科書『Captain English Course 1』	共著	平成 15 年 4 月	東京：大修館書店		
授業づくりと改善の視点 よりコミュニカティブな授 業をめざして	単著	平成 15 年 6 月	東京：教育出版		198 頁
読む、聴く、話す、書く 新基礎英語 1 わくわくス トーリーで英語楽習	共著	平成 16 年 3 月	東京：日本放送出版協会	高橋一幸、リサ・ボンド著	141 頁
平成 16 年度版文部科学 省検定高等学校「英語 II」 教科書『Captain English Course II』	共著	平成 16 年 4 月	東京：大修館書店	佐野正之、高橋一幸、海木幸登、西澤 正幸、平原麻子、Lisa Gayle Bond	
新基礎英語 1 チャンツで ノリノリ英語楽習	単著	平成 17 年 1 月	東京：日本放送出版協会		79 頁
平成 18 年度版文部科学 省検定中学校教科書『One World English Course. 1 ~3』	共著	平成 18 年 4 月	東京：教育出版	松本茂、伊東治巳、高橋一幸他著	
平成 19 年度版 文部科学 省検定 高等学校「英語 I」 教科書『Captain English Course I -Revised』	共著	平成 19 年 4 月	東京：大修館書店	佐野正之、高橋一幸、西澤正幸、平 原麻子、高橋正広、Lisa Gayle Bond 著	
すぐれた英語授業実践 よ りよい授業づくりのために	共著	平成 19 年 5 月	大修館書店	樋口忠彦・緑川日出子・高橋一幸編 著	
基礎英語 チャンツで楽 習！決定版	共著	平成 20 年 3 月	東京：日本放送出版協会	田尻悟郎	
論文					
授業設計と指導の基礎・基 本	単著	平成 18 年 4 月	『英語教育』第 55 巻 1 号、大修館書店		10-12 頁



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
日韓の義務教育における英語教科書の比較研究 小中連携英語教育の将来像検討のために	単著	平成 19 年 3 月	『神奈川大学 心理・教育論集』(神奈川大学教職課程研究室)第 26 号		5-48 頁
これからの英語教育のゆくえ 中学生の学力の現状と授業改善・教育課程改訂の課題と方向	単著	平成 19 年 11 月	関東甲信越地区中学校英語教育研究会・神奈川大会紀要		
教師を動機づける講習を志向して 教員免許更新制の予備講習報告:神奈川大学	単著	平成 20 年 11 月	『英語教育』(東京:大修館書店)57,(9)		17-19 頁
小学校「外国語活動」の必修化と小中の連携	単著	平成 20 年 11 月	『語研フォーラム』(財)語学教育研究所第 7 号		115-120 頁
その他					
2003 年度 NHK ラジオ「新基礎英語 1」講師		平成 15 年 4 月	NHK		
指導助言「自分の意見が述べられる生徒の育成をめざした中学校 3 年間の指導」		平成 15 年 4 月	英語授業研究会 関東支部 第 8 回春季研究大会		
講演「NHK 新基礎英語 1 の創造的活用法」		平成 15 年 5 月	埼玉県立伊奈学園中学校 1 年生講演会		
研究授業助言と講演「英語授業改善の視点と方法」		平成 15 年 6 月	西宮市立中学校教科等研究会英語科教育研究会		
研究授業助言と講演「小学校英語の位置づけと授業の進め方」		平成 15 年 6 月	群馬県沼田市小学校英語活動授業研究会		
講演「積極的態度と実践的能力を育成する指導法 内省と授業改善の基礎資料」		平成 15 年 6 月	平成 15 年度神奈川県「英語教員指導力向上研修講座」第 1 回		
講演「NHK 新基礎英語 1 の創造的活用法」		平成 15 年 7 月	筑波大学附属駒場中等高等学校・中 1 講演会		
講演「授業づくりと改善の視点 実践的能力を育成する授業設計と活動設計」		平成 15 年 7 月	平成 15 年度 大阪府中学校高等学校「英語指導法」研修		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「積極的態度和実践的 能力を育成する指導法 総 合的活動と教科書の創造的 活用」		平成 15 年 7 月	平成 15 年度神奈川県 「英語教員指導力向上研 修講座」第 2 回		
提案「実践的コミュニケー ション能力と基礎学力の育 成」		平成 15 年 8 月	英語授業研究学会 第 15 回全国大会		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授業 設計と授業改善の視点」		平成 15 年 8 月	平成 15 年度 高知県英 語教員指導力向上夏季 集中研修		
研究授業助言と講演「英語 活動から英語教育へ 小・ 中の連携について考える」		平成 15 年 8 月	群馬県沼田市小中英語 授業研究会		
研究授業助言と講演「小学 校英語活動 指導の改善」		平成 15 年 9 月	群馬県沼田市小学校英 語活動授業研究会		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授業 づくりと絶対評価の考え 方」		平成 15 年 10 月	北海道石狩管内教育研 究会 英語部会第二次集 会		
講演「実践的 C 能力を育 成する学習指導 “生徒が” 話せた”と実感できる授業 づくり」		平成 15 年 10 月	第 42 回熊本県中学校英 語教育研究大会		
指導助言「スピーキングの 指導と評価」		平成 15 年 11 月	第 53 回全国英語教育研 究大会(全英連東京大 会)		
指導助言「コミュニケーシ ョンの基礎を作る入門期指 導」		平成 15 年 11 月	英語授業研究学会 関東 支部 第 9 回秋季研究大 会		
指導助言「自立した学習者 を育てるカリキュラム作り 学習の継続を支援する手 だて」		平成 15 年 11 月	平成 15 年度筑波大学附 属中学校第 31 回研究協 議会		
実践報告助言および 講演 「英語教師の専門性につ いて考える」		平成 15 年 12 月	平成 15 年度神奈川県 「英語教員指導力向上研 修講座」第 3 回		
特別授業「新基礎英語 1 を 使って」		平成 16 年 1 月	東京学芸大学附属世田 谷中学校 1 年		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業設計と活動設計」		平成 16 年 1 月	平成 15 年度 川崎市英語教員指導力向上研修講座		
講演「子ども達に英語を学ばせる意義とその方法 なぜ今、小学校で“英語活動”なのか」		平成 16 年 2 月	富山市小学校 PTA「家庭教育学級講演会」		
講演「NHK 新基礎英語 1 の創造的活用法」		平成 16 年 2 月	駒場東邦中高等学校・中 1 講演会		
講演「NHK 新基礎英語 1 の創造的活用法」		平成 16 年 2 月	大阪教育大学附属天王寺中学校・中 1 講演会		
2004 年度 NHK ラジオ「新基礎英語 1」講師		平成 16 年 4 月	NHK		
指導助言「高校・英語 2 : Intake of the Text & Insight into the Topic」		平成 16 年 4 月	英語授業研究会・関東支部第 9 回春季研究大会		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業改善の在り方 絶対評価への対応もふまえて」		平成 16 年 5 月	横浜市教育委員会主催「平成 16 年度 横浜市中学校英語科研修」		
講演「NHK 新基礎英語 1 の創造的活用法」		平成 16 年 6 月	埼玉県立伊奈学園中学校 1 年生講演会		
講演「新基礎英語 1 - 番組のポリシーとその活用法」		平成 16 年 7 月	筑波大学附属駒場中高等学校・中 1 講演会		
講演「コミュニケーションへの積極的態度と実践的能力を育成する授業 4 領域を統合した総合的活動のすすめ」		平成 16 年 7 月	平成 16 年度 神奈川県「英語教員指導力向上研修講座」		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業・活動の設計と改善の視点」		平成 16 年 7 月	平成 16 年度 大阪府中学校高等学校「英語指導法」研修		
講演「英語教師の専門性について考える Roles & Responsibility of a JTE as a Professional」		平成 16 年 7 月	英語授業研究会 関東支部第 110 回例会		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「表現意欲と能力を育成する中学英語の授業設計」		平成 16 年 8 月	平成 16 年度 群馬県沼田市中学校英語教員研修会		
ワークショップ「発音と聴取能力を高めるチャンツと歌の活用法」		平成 16 年 8 月	英語授業研究学会 第 16 回全国大会(設立 15 周年記念大会)		
講演「How to Improve Learners' Listening Ability - Focusing on Listening for Perception」		平成 16 年 8 月	平成 16 年度 京都府英語教員研修講座		
講演「実践的コミュニケーション能力育成のための授業づくりと改善の視点 絶対評価への対応もふまえて」		平成 16 年 8 月	平成 16 年度 福岡県中高英語教員専門研修		
シンポジウム「基礎学力を保証し、コミュニケーション能力を育成する授業を実現するために 中・高生に期待される英語コミュニケーション能力と到達目標」		平成 16 年 8 月	英語授業研究学会 第 9 回サマーセミナー		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業・活動の設計と改善の視点」		平成 16 年 10 月	平成 16 年度 松山市英語教員集中研修会		
授業分析、指導助言「生徒が自ら思考し表現する授業 Homestay Program」		平成 16 年 10 月	(財)語学教育研究所 2004 年度研究大会		
講演「子どもたちに英語を学ばせる意義とその方法 今、なぜ小学校で“英語活動”なのか？」		平成 16 年 11 月	平成 16 年度 福岡女子大学公開フォーラム		
授業分析、指導助言「中学 2 年:ゴールから逆算して組み立てる授業 There be 構文の指導」		平成 16 年 11 月	英語授業研究学会 関東支部 第 10 回秋季研究大会		
授業分析、指導助言「中長期的視点からコミュニケーション能力を育成する中学 3 年生の指導」		平成 16 年 11 月	第 54 回全国英語教育研究大会(全英連大阪大会)		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
研修会指導助言および講演 「中学校の授業改善と教師 の責任」		平成 16 年 12 月	平成 16 年度 神奈川県 「英語教員指導力向上研 修講座」		
授業分析、指導助言「英語 で自己表現する生徒を育成 するための土台作り」		平成 16 年 12 月	英語授業研究会 関東 支部 第 113 回例会		
実践的コミュニケーション 能力を育てる指導 絶対評 価への対応もふまえた授業 づくりと改善の視点		平成 17 年 1 月	平成 16 年度 文京区中 学校教育研究会一斉部 会「英語部会」		
講演「児童の特性をふまえ た”小学校英語活動”の設 計と指導」		平成 17 年 2 月	栃木県 那須町教育振興 会 英語部会		
特別授業「新基礎英語 1 を 使って」		平成 17 年 2 月	東京学芸大学附属世田 谷中学校 1 年		
指導助言、および講演「実 践的コミュニケーション能 力を育てるための英語指導 の基礎・基本」		平成 17 年 2 月	群馬英語授業研究会 第 5 回例会 兼 宿泊研修会		
研究発表会指導助言、講演 「小中連携英語教育カリキ ュラムの開発及び国際感覚 を身に付けた児童、生徒の 育成」		平成 17 年 2 月	平成 16,17 年度川崎市 教育委員会研究推進校、 小中連携研究発表会(中 間発表)		
講演「コミュニケーション への積極的態度と実践的能 力を育成する授業 絶対評 価もふまえた授業づくりと 改善の視点」		平成 17 年 5 月	平成 17 年度 群馬県小 学校中学校教育研究会 中学校英語部会 第 1 回 研究部会		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授 業・活動の設計と改善の視 点」		平成 17 年 5 月	平成 17 年度 松山市英 語教員集中研修会		
講演「英語教師の専門性と 研修の意義」		平成 17 年 6 月	平成 17 年度 神奈川県 英語教員指導力向上研 修講座		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「コミュニケーション への積極的態と実践的能 力を育成する授業 4 技能 を統合した総合的活動のす すめ」		平成 17 年 7 月	平成 17 年度 神奈川県 英語教員指導力向上研 修講座		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授 業・活動の設計と改善の視 点」		平成 17 年 7 月	平成 17 年度 大阪府中 学校高等学校「英語指導 法」研修		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授業 設計と授業改善の視点」		平成 17 年 8 月	平成 17 年度 高知県英 語教員指導力向上夏期 集中研修		
講演「絶対評価、学力調査 もふまえた授業づくりと改 善の視点 授業及び活動の 設計」		平成 17 年 10 月	平成 17 年度 第 3 回高 相管内学校教育指導担 当者連絡協議会		
研修会指導助言「アクショ ンリサーチに基づく中高の 授業改善」		平成 17 年 11 月	平成 17 年度 神奈川県 英語教育推進担当者養 成講座		
シンポジウム提案「より良 い教科書をめざして 著 者の立場から教科書を考え る」		平成 17 年 11 月	英語授業研究会 関西 支部 第 16 回秋季研究 大会		
研修会講師「課題に基づく 中学校の授業改善」		平成 17 年 11 月	平成 17 年度 神奈川県 英語教員指導力向上研 修講座		
研修会指導助言「英語入門 期指導を改めて考察する 中学入学以前の英語体験を 探りながら」		平成 17 年 11 月	筑波大学附属中学校 第 33 回研究協議会		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育てるための 学習指導と評価の工夫改善 中長期的な授業改善と活 動設計の視点」		平成 17 年 11 月	平成 17 年度 厚木愛甲地 区中学校教育研究会 英 語科一斉研究会		
講演「絶対評価もふまえた 授業づくりと改善の視点 実践的コミュニケーション 能力を育成する授業設計と 活動設計」		平成 18 年 1 月	平成 17 年度 川崎市英 語科教員研修講座		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「授業の基本設計と帰納的アプローチによる言語材料(文法事項)の導入」、「授業改善のための相談室 アクションリサーチもふまえて」		平成 18 年 1 月	英語授業研究会 関東支部 英語授業ウィナーセミナー		
研究発表会指導助言、講演「小中連携英語教育カリキュラムの開発に向けて 成果と今後の課題への示唆」		平成 18 年 1 月	平成 16,17 年度川崎市教育委員会研究推進校、小中連携研究発表会(最終発表)		
研究発表助言「4 技能をバランスよく行う授業デザインの研究」		平成 18 年 2 月	平成 17 年度 川崎市総合教育センター 研究報告会		
授業分析、講演「英語授業の基礎・基本 今一度基本に立ち返り、授業を見る眼、創る力を養う」		平成 18 年 2 月	群馬英語授業研究会 第 15 回例会兼合宿研修会		
講演「検定教科書について考える 編集過程とその活用の視点」		平成 18 年 3 月	英語授業研究会 関東支部 第 125 回例会		
研究授業分析・助言「中学 3 年：コミュニケーション能力を育成する後置修飾の指導 教育としての英語授業を考える」		平成 18 年 4 月	英語授業研究会 関東支部 第 11 回春季研究大会		
講演「小学校英語活動の現状と今後の展望 今年度の実践課題を絞り込むために」		平成 18 年 5 月	横浜市立斎藤分小学校「英語活動」重点研究研修会		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業・活動の設計と改善の視点」		平成 18 年 5 月	平成 18 年度 松山市英語教員集中研修会		
研究授業分析・助言「小学校高学年の指導 インチで測ろう！」		平成 18 年 6 月	第 27 回日本児童英語教育学会(JASTEC)全国大会		
講演「基礎学力を保障しコミュニケーション能力を育成する授業とは? すぐれた授業実践に学ぶ」		平成 18 年 7 月	平成 18 年度 東大阪市中高等学校「英語指導法」研修		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「英語科における実践的コミュニケーション能力を育てる指導法の工夫 授業設計と改善の視点」		平成 18 年 7 月	平成 18 年度 八戸市総合教育センター「英語科研修講座」		
講演「コミュニケーションへの積極的態度と実践的能力を育成する授業 4 技能を統合した総合的活動のすすめ」		平成 18 年 7 月	平成 18 年度 神奈川県英語教員指導力向上研修講座		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業・活動の設計と改善の視点」		平成 18 年 7 月	平成 18 年度 大阪府中学校高等学校「英語指導法」研修		
研究授業分析・助言「中 2 : 表現しようとする態度と表現する能力を育てるルーティンワーク 足腰を鍛えるための、聞き、話し、読み、書くことの地道な指導」		平成 18 年 8 月	英語授業研究会 第 18 回全国大会		
講演「コミュニケーションへの積極的態度と実践的能力を育成する指導法 学力調査・絶対評価もふまえた授業づくりと改善の視点」		平成 18 年 8 月	平成 18 年度 高知県英語教員指導力向上夏期集中研修		
講演「生徒が生き生きと活動し、確かな学力に結びつく授業づくりのポイント 1 時間の授業をいかに仕組むか」		平成 18 年 8 月	英語授業研究会 第 11 回英語授業サマーセミナー		
講演「小学校英語教育と中学校英語教育のこれからの連携について考える 小学校英語活動を知り、中学校との望ましい連携を検討する視点」		平成 18 年 11 月	横浜市中区小中学校教育研究会		
全英連大会・分科会、研究発表指導助言「基礎学力をつける指導と評価」		平成 18 年 11 月	全国英語教育研究団体連合会(全英連) 第 56 回全国英語教育研究大会		



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
全英連・中学校授業(ビデオ)発表・分析助言		平成 18 年 11 月	全国英語教育研究団体 連合会(全英連)第 56 回全国英語教育研究大 会		
研究授業分析・助言「中学 1 年:入門期の指導(教科 書を使い始めて 2 回目の授 業) 授業中のしつけ、約 束事の指導は最初が肝心」	単著	平成 18 年 11 月	英語授業研究会 関東 支部第 12 回秋季研究大 会		
講演「コミュニケーションな 授業づくりと改善への指針 絶対評価への対応もふま えた授業設計と活動設計」		平成 18 年 11 月	平成 18 年度 相模原市中 学校教育研究会・英語科 部会		
講演「小学校英語活動の 現状、指導と今後の展望 立野小学校「英語となかよ し」のより良い実践への指 針」		平成 18 年 11 月	横浜市立立野小学校 「英語活動」授業研究会		
研修会指導助言「アクショ ンリサーチによる授業改 善」		平成 18 年 12 月	平成 18 年度 神奈川県 英語教員指導力向上研 修講座		
シンポジウム提案「小中一 貫教育を見すえ、コミュニ ケーション能力を育む学習 を求めて」		平成 18 年 12 月	文部科学省研究開発校 (英語) 横浜市立立野 小学校 平成 18 年度研 究発表会		
講演「絶対評価もふまえた 授業づくりと改善の視点 実践的コミュニケーション 能力を育成する授業設計と 活動設計」		平成 19 年 1 月	平成 18 年度 川崎市英 語科教員研修講座		
研究発表会指導助言「小学 校英語活動ハローワールド の授業実践」		平成 19 年 1 月	横浜市立齋藤分小学校 神奈川区一斉研究会		
基調講演「ゴールを見据え た授業づくり」、対談「今後 の授業づくりと英語教師の 身につけるべき資質につい て考える」、総括講義「明 日からの授業づくりに生か す授業実践のヒント」		平成 19 年 1 月	群馬英語授業研究会 第 24 回例会兼合宿研修 会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
関プロ大会・研究授業指導 助言「実践的コミュニケーション能力育成をめざした 学習活動・言語活動の設計 と指導」		平成 19 年 2 月	第 31 回関東甲信地区中 学校英語教育研究協議 会・第 4 研究部会		
関プロ大会・研究授業指導 助言「実践的コミュニケーション能力育成をめざした 文法事項の導入」		平成 19 年 2 月	第 31 回関東甲信地区中 学校英語教育研究協議 会・第 1 研究部会		
関プロ大会・研究授業指導 助言「実践的コミュニケーション能力育成をめざした 教科書の創造的活用」		平成 19 年 2 月	第 31 回関東甲信地区中 学校英語教育研究協議 会・第 3 研究部会		
講演「実践的コミュニケー ション能力の基礎を築く英 語の音声指導 リスニング 能力育成に向けて」		平成 19 年 2 月	寝屋川市 平成 18 年度 専門研修 中学校英語実 践的コミュニケーション 指導法 [6]		
講演「これからの小学校英 語教育の方向性と小学生 の発達段階に応じた指導 小・中学校英語教育の望ま しい連携を検討する視点」		平成 19 年 2 月	(財) 横浜市国際交流 協会 横浜市小学校に おける英語教育活動サ ポーター研修会		
講演「これからの小学校英 語教育の方向性と児童の発 達段階に応じた指導 小・ 中学校英語教育の望ましい 連携を検討する視点」		平成 19 年 3 月	横浜市立西前小学校職 員研修会(英語)		
研究会指導助言、講演「こ れからの小学校英語教育の 方向性と児童の発達段階に 応じた指導」		平成 19 年 3 月	横浜市神奈川区小学校 英語活動合同研修会		
講演「外国語(英語)を学 ぶことの意義とその方法、 そして広く学ぶことの意味 を考える」		平成 19 年 3 月	大阪教育大学附属天王 寺中学校 第 58 期生卒 業記念講演会		
研究授業分析「中学 1 年: 中学初年度にどんな力をつ けるべきか?」		平成 19 年 4 月	英語授業研究会・関東 支部第 12 回春季研究大 会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業・活動の設計と改善の視点」		平成 19 年 5 月	平成 19 年度 松山市英語教員集中研修会		
講演「教育実習での学び方と実習生の指導法」		平成 19 年 5 月	英語授業研究会関東支部 第 135 回例会		
講演「授業で子どもたちは生き返る 児童の発達段階に応じた指導と小中連携への視点」		平成 19 年 6 月	平成 19 年度第 1 回横浜市英語教育の会		
講演 1「リスニング能力をどう育成するのか?」、講演 2「実践的表現・発信能力を育成する授業と活動とは?」		平成 19 年 7 月	平成 19 年度 東大阪市中高等学校英語指導法研修		
講演「英語科における実践的コミュニケーション能力を育てる指導法の工夫 Part 2:プロジェクトワークの設計」		平成 19 年 7 月	平成 19 年度 八戸市英語科研修講座		
講演「コミュニケーションへの積極的態度と実践的能力を育成する授業設計 4 技能を統合した総合的活動のすすめ」		平成 19 年 7 月	平成 19 年度 神奈川県英語教員指導力向上研修講座		
講演「授業づくりと改善の視点 実践的コミュニケーション能力を育成する授業設計と活動設計」		平成 19 年 7 月	平成 19 年度 大阪府中学校高等学校英語指導法研修		
講演「小学校英語活動の充実に向けて 英語活動の現状と指導実践上の課題」		平成 19 年 7 月	平成 19 年度 南足柄市教育研究開発に係る教科推進部会(英語)		
講演「実践的コミュニケーション能力を育成する授業 付けたい力を見据えたトップダウンの授業設計と改善への視点」		平成 19 年 8 月	藤沢市中学校教育研究会外国語部 夏季研修会		
講演「小学校英語活動をいかに創り進めるか?」		平成 19 年 8 月	川崎市立東小田小学校コミュニティスクール研修会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「生徒のコミュニケーション能力の現状と指導 中学生3年生の学力調査より」		平成19年8月	関東甲信ブロック中学校 英語教育研究大会 神奈 川県研修会		
講演「実践的コミュニケーションへの意欲と能力を育成する授業設計と活動設計 目標評価をめざした 授業を行うために」		平成19年8月	平成19年度 愛媛県英 語教員パワーアップ研修 第2回全体研修		
シンポジウム「これからの 英語教育の行方 中高の英 語教育の質的向上をめざし て」		平成19年8月	英語授業研究学会 第19 回全国大会		
講演「小学校英語活動の現 状と課題 児童の発達段階 に応じた指導と小中連携の 視点」		平成19年8月	平成19年度 枚方市夏 季合同研修会		
講演「コミュニケーション への積極的態度和実践的能 力を育成する指導法 学力 調査・絶対評価もふまえた 授業づくりと改善の視点」		平成19年8月	平成19年度 高知県英 語教員指導力向上夏期 集中研修		
講演「トップダウンによる 授業設計の視点 生徒に変 容を遂げさせる授業をめざ して」		平成19年8月	第12回 英語授業研究 学会 サマーセミナー		
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する授お よび活動設計とその指導」		平成19年8月	町田市中学校教育研究 会 英語部会 第8回夏 のワークショップ		
講演「明日の英語教育・授 業づくりの視点 コミュニ ケーションへの積極的態 度と実践的能力を育む授 業・活動の設計」		平成19年9月	第40回 長野県英語教 育研究大会		
「小学校英語への期待と背 景 世界に開く国際都市横 浜」		平成19年10月	横浜市中区役所・PTA 連絡協議会共催シンポ ジウム		kush 頁
講演「実践的コミュニケー ション能力を育成する指導 と評価の工夫 授業・活動 設計と改善への視点」		平成19年11月	平成19年度 京都府中 学校教育研究会・英語研 究大会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
研究授業分析「中2:生徒 の談話能力と即興スピーチ 能力を育てる授業」		平成19年11月	英語授業研究会・関東 支部第13回秋季研究大 会		
講演「これからの英語教育 のゆくえ 中学生の学力の 現状と授業改善・教育課程 改訂の課題と方向」		平成19年11月	関東甲信越地区中学校 英語教育研究会・神奈川 県大会		
研修会指導助言「アクショ ンリサーチによる授業改 善」、講演「実践的コミュ ニケーション能力の基礎を 築く音声指導」		平成19年12月	平成19年度 神奈川県 英語教員指導力向上研 修講座		
講演「絶対評価もふまえた 授業づくりと改善の視点 実践的コミュニケーション 能力を育成する授業設計と 活動設計」		平成19年12月	平成19年度 川崎市英 語科教員研修講座		
講演「英語コミュニケーション 能力をつけるには 学 習指導要領と全国学力調査 をもとに英語教育の立場か ら考える」		平成19年12月	松山大学大学院・学術講 演会		
講演「小学校「外国語活動」 の展望と指導 児童の発達 段階に応じた指導と小中の 連携への視点」		平成20年1月	横浜市立西前小学校・平 成19年度重点研究発表 会		
講演「横浜市英語教育の小 中連携に向けた検討課題 「しっかり教え、しっかり 引き出す」ための授業、活 動の設計」		平成20年2月	横浜市教育課程 英語・ 外国語部会中間報告会		
講演「小学校英語における 外国語活動必修化とこれか らの英語教育」		平成20年2月	群馬英語授業研究会 第 32回例会兼合宿研修会		
講演「小学校英語の位置づ けと中学校英語教育への接 続 日韓の教科書分析をも とに」		平成20年2月	英語授業研究会・関東 支部第142回例会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「小学校外国語活動の 方向性と小学生の発達段 階に応じた指導法 担任・ ALT・サポーターの連携の あり方」		平成 20 年 3 月	(財) 横浜市国際交流協 会 平成 19 年度「小学 校における英語教育サ ポーター研修会」		
講演「これからの小学校外 国語活動の方向性」		平成 20 年 4 月	2008 年度・横須賀市立 鴨居小学校 第 1 回校内 研修会		
講演「小学校外国語活動の 経緯と展望」		平成 20 年 6 月	平成 20 年度・横須賀市 英語教育推進プロジェク トチーム第 1 回定例会		
講演「小学校外国語活動の 指導と実践 児童の発達 段階と望ましい指導のあり 方」		平成 20 年 6 月	平成 20 年度・神奈川県 小学校英語中核教員養 成研修講座		
講演「小学校外国語活動の 指導と実践」		平成 20 年 8 月	小田原市小学校外国語 活動 授業研究会・講演 会		
講演「小学校外国語活動の 位置づけと指導、中学校英 語教育への接続」		平成 20 年 8 月	座間市教育委員会「今日 的課題研修会」		
講演「小学校外国語活動の 動向と課題」		平成 20 年 8 月	名張市小学校外国語活 動研修講座		
教員免許状更新試行講習 コーディネーター・講師「新 学習指導要領をふまえたコ ミュニケーション能力育成 のための授業設計と指導」		平成 20 年 8 月			
講演「発達段階に応じた指 導のポイントと文科省『英 語ノート』の分析」		平成 20 年 8 月	第 34 回 日本児童英語教 育学会 (JASTEC) 研 修セミナー		
講演「生徒の学力の現状と 授業改善の視点 コミュニ ケーション能力を育成する 授業とタスクの設計」		平成 20 年 8 月	横須賀市中高教員夏季 研修講座 (外国語)		
講演「新学習指導要領と児 童の発達段階に応じた指 導」		平成 20 年 9 月	平成 20 年度・川崎市小 学校国際理解教育研究 会第 11 回英語活動公開 授業研究会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
研究授業指導助言「中学1 年生の入門期指導」		平成20年11月	(財)語学教育研究所 2008年度研究大会		
講演「これからの教師教育 と教員研修」		平成20年11月	アクション・リサーチ交 流会2008 in 松山		
講演「南足柄市英語教育の 小・中連携に向けた検討資 料」		平成20年12月	平成20年度南足柄市立 学校職員研究発表大会		
講演「中学校英語科につな がる小学校英語の在り方」		平成21年1月	平成20年度神奈川県教 育研究所連盟研究協議 会「教育資料調査部会」		
講演「小学校外国語活動の 位置づけと望ましい指導 法」		平成21年1月	平成20年度川崎市小学 校英語中核教員研修講 座		
講演とワークショップ「指 導案分析から、問題点を探 り、改善案を検討する」		平成21年2月	群馬英語授業研究会・第 41回例会兼合宿研修会		
講演「小学校外国語活動の 必修化と望ましい指導のあ り方」		平成21年2月	横浜市戸塚区近隣校英 語活動研修会		
講演「これからの小学校外 国語活動」		平成21年2月	小田原市立千代小学校 英語活動研究発表会		
講演「これからの小学校外 国語活動のあり方」		平成21年2月	横須賀市立鴨居小学校 外国語活動研究発表会		
講演「小学校外国語活動の 方向性と小学生の発達段 階に応じた指導法 担任・ ALT・サポーターの連携の あり方」		平成21年3月	(財)横浜市国際交流協 会 平成20年度「小学 校英語活動サポーター 第2回研修会」		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 62 年 4 月～現在に至る	(財) 語学教育研究所会員
平成 3 年 8 月～現在に至る	英語授業研究会理事
平成 8 年 4 月～現在に至る	(財) 語学教育研究所評議員
平成 10 年 4 月～現在に至る	(財) 語学教育研究所パーマー賞選考委員
平成 12 年 6 月～現在に至る	日本児童英語教育学会 (JASTEC) 理事
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	NHK ラジオ第 2 放送 「新基礎英語 1」 語学番組講師
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	神奈川県総合教育センター 「英語教員指導力研修講座」 研修コーディネーター
平成 15 年 8 月～平成 19 年 7 月	英語授業研究会関東支部長
平成 15 年 8 月～平成 19 年 7 月	英語授業研究会関東支部長
平成 17 年 4 月～現在に至る	横浜市立斎藤分小学校拠点研究 - 英語活動「ハローワールド」 支援指導講師
平成 17 年 7 月～平成 19 年 3 月	横浜市教育委員会 「横浜市英語教育推進協力者会議」 委員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 11 月	第 31 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会 (2007 年 11 月 16 日開催) 分科会研究発表・研究授業指導講師
平成 19 年 4 月～現在に至る	南足柄市教育委員会 「文部科学省研究開発学校」 指導助言運営指導委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	横浜市教育課程研究委員会外国語部会外部委員
平成 19 年 8 月～現在に至る	英語授業研究会副会長
平成 20 年 4 月～現在に至る	横須賀市教育委員会 「文部科学省研究開発学校」 指導助言運営指導委員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 武内 道子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 英語英文学科で4年間学ぶための基礎学力涵養のため、学科として取り 組んでいること	平成20年4月1日 ～現在に至る	(基礎演習)TEFLE/TOEIC 自習課題を、毎週授業外でこなすことを義務付 け、評価に組み入れている。毎時間個人的にチェックし、授業内では、こな していることを確認する。アンケートによると、学生はこのクラスは2・3倍の 勉強量であることを評価している(およそ7割)。	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『副詞的表現をめぐって一 対照研究』	共著	平成 17 年 3 月	ひつじ書房		252 頁
『思考と発話 明示的伝達 の語用論』	共著	平成 20 年 3 月	研究社	内田聖二、西山佑司、山崎英一、松 井智子	279-393 頁
『言語の個別性と普遍性』 『神奈川大学言語研究』	共著	平成 20 年 3 月	神奈川大学言語セン ター特集号		217 頁
論文					
手続の記号化:「やはり・ やっぱり」の場合	単著	平成 15 年 12 月	『語用論研究』第 5 号 日本語用論学会		73-84 頁
文献解題	単著	平成 17 年 2 月	『英語学文献課題 第 7 巻 - 意味論』 研究社		162-163,171-174 頁
関連性への意味論的制約 - 「しょせん」と「どうせ」を めぐって	単著	平成 17 年 3 月	『副詞的表現をめぐって 一対照研究』ひつじ書房		63-87 頁
言語学の興味と方法	単著	平成 18 年 2 月	『神奈川大学大学院 言語と文化論集』(第 13 号)		1-14 頁
認知語彙論への試み - 「や ばい」をめぐって -	単著	平成 19 年 3 月	『人文学研究所報』 (No.40)		1-9 頁
Japanese Conces- sives:KEDO and DEMO in utterance-initialuse.	単著	平成 20 年 3 月	『言語の個別性と普遍 性』神奈川大学言語研 究センター		171-195 頁
その他					
Semantics and Pragmat- ics of SOREDE		平成 19 年 7 月	11 t h International Pragmatics Associ- ation (国際語用論 学会第 11 回大会) Goeteborg, Sweden		
Refereeing for Journal of Linguistics	単著	平成 20 年 8 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 54 年 6 月～現在に至る	日本言語学会会員
昭和 56 年 12 月～現在に至る	ふじみ英語英文学同人会会員
昭和 57 年 11 月～現在に至る	日本英語学会会員
昭和 60 年 7 月～現在に至る	日本認知科学会会員
昭和 62 年 6 月～現在に至る	東京言語学研究会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	国連大学女性協会 (UNUWA) 会員
平成 7 年 2 月～現在に至る	イギリス言語学会 (LAGB) 会員
平成 7 年 4 月～現在に至る	大学婦人協会 (JAUW)・国際大学婦人連盟 (IFUW) 会員
平成 7 年 9 月～現在に至る	日本青年国際交流機構 (IYEO) 会員
平成 8 年 10 月～現在に至る	国際語用論学会 (IPrA) 会員
平成 11 年 12 月～現在に至る	日本語用論学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター「言語の普遍性と個別性」(120 千円)
平成 12 年 11 月～現在に至る	英語語法文法学会会員
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター「(日) 国際文化交流と言語科学」(2,830 千円)
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語センター「(国際シンポジウム) 国際文化交流と言語科学」(2,830 千円) 代表
平成 19 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究) 関連性理論関東集会代表
平成 19 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究) 日本語用論学会「認知語用理論としての関連性理論の日本語分析への応用」
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学共同研究奨励金「モダリティの統語論的アプローチ語用論的アプローチによる対照研究」(6,000 千円) 代表
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学共同研究奨励助成金交付制度「統語論的および語用論的アプローチによるモダリティの対照研究」(6,000 千円)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 橋本 侃	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
イギリスアメリカ児童文学 ガイド	共著	平成 15 年 4 月	荒地出版社		
論文					
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (16)	単著	平成 15 年 9 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』150 号		163-98 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (17)	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』151 号		67-97 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (18)	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』152 号		83-119 頁
シェイクスピアドラマの世界(愛と憎しみの果てに - シェイクスピアの抒情悲劇 『ロミオとジュリエット』		平成 16 年 8 月	神奈川大学・生涯学習・ エクステンション講座		
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (19)	単著	平成 16 年 9 月	『人文研究』153 号		155-97 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (20)	単著	平成 16 年 12 月	『人文研究』154 号		1-37 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (21)	単著	平成 17 年 3 月	『人文研究』155 号		245-81 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (22)	単著	平成 17 年 9 月	「人文研究」156 号		53-91 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (23)	単著	平成 17 年 12 月	「人文研究」157 号		203-235 頁
用意が一番(The readi- ness is all) - ハムレット の選択肢 -	単著	平成 18 年 3 月	「神奈川大学言語研究」 28 号		207-227 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (24)	単著	平成 18 年 3 月	「人文研究」158 号		19-56 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (25)	単著	平成 18 年 9 月	「人文研究」159 号		1-37 頁
ローマのほうをより大事に したからだ - 比較対照構文 に見るブルータスの選択肢	単著	平成 19 年 2 月	神奈川大学大学院『言語 と文化論集』13 号		145-194 頁
ルーダス・コヴェントリー = サイクル劇 (26)	単著	平成 19 年 3 月	「人文研究」160 号		1-28 頁
英語文学事典	共著	平成 19 年 4 月	ミネルヴァ書房		
『ヘキュバのために! シェ イクスピアの主人公へ与え た選択肢 』	単著	平成 19 年 9 月	欧友社		323 頁
タウンリー = サイクル劇 (1)	単著	平成 19 年 9 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』162 号		125-47 頁
タウンリー = サイクル劇 (2)	単著	平成 19 年 12 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』 163 号		95-127 頁
タウンリー = サイクル劇 (3)	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学人文学会『人 文研究』 164 号		1-2925-47 頁
その他					
映画「恋に落ちたシェイク スピア」を観ながらシェイク スピアを楽しむ	単著	平成 18 年 7 月	神奈川大学 生涯学習 エクステンション講座		
キリスト教とその文化遺産 日本とイギリスの場合	単著	平成 20 年 5 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 41 年 4 月～現在に至る	中世英文学談話会（現日本中世英語英文学会）会員
昭和 41 年 4 月～現在に至る	日本シェークスピア学会会員
昭和 41 年 4 月～現在に至る	日本英文学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 深澤 俊昭	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 英語英文学科新カリキュラムの導入と運用		平成 18 年 4 月 1 日	
2 作成した教科書、教材 Senior Total English 1 Senior Total English 1 Teacher's Manual Senior Total English 2 Senior Total english 2 Teacher's Manual		昭和 57 年 昭和 57 年 昭和 58 年 昭和 58 年	高等学校英語教科書 高等学校英語教科書教師用指導書 高等学校英語教科書 高等学校英語教科書教師用指導書
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			



II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
「英語におけるストレス (stress)、アクセント(ac- cent)、イントネーション (intonation)(1)」	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学言語研究セ ンター『神奈川大学言語 研究』第 26 号		
「英語におけるストレス (stress)、アクセント(ac- cent)、イントネーション (intonation)(2)」	単著	平成 18 年 3 月			
その他					
高校英語における音声指導 - 理論と実践(講演)	単著	平成 15 年 12 月	横浜北支部英語教育研 究会(横浜創英中学高等 学校)		
コミュニケーションのため の教育音声学(講演)	単著	平成 15 年 12 月	英語教育研究大会(神奈 川大学外国語学部英語 英文学科主催)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 53 年～現在に至る	International Society of Phonetic Science
昭和 62 年 2 月～現在に至る	日本音声学会会員
平成 2 年～現在に至る	International Phonetic Association 終生会員
平成 2 年 10 月～現在に至る	国際音声学会その他（終生会員）
平成 4 年 1 月～現在に至る	Advisor to the Examination Board (PhD Examination), Univercity of Wales College of Cardiff に任命される（イギリス）
平成 4 年 1 月～現在に至る	Honorary Visiting Lecturer at Univercity of Wales College of Cardiff の称号を受ける（イギリス）

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 山口 ヨシ子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 「基礎研究」における多読指導の試み	平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 20 年 1 月	「基礎研究」では、英語英文学科の初年次教育の要であり、コンピュータによる自習課題と学年末の TOEFL 受験を連動させるなど、学生が 4 年間の到達目標を明確化できるよう配慮している。担当者全員が行うこのようなプログラムに加えて、独自のプログラムとして、多読自習課題を課し、一定の成果を得た。学生が英語を読むことを「楽しみ」とすることを目的としたもので、学生は各自の興味と英語力に従ってやさしい英語の本を次つぎと読み、1 冊ごとに 1 枚のレポートを書き提出、教員はそれにコメントをつけて返すというものである。辞書を引いて難しい英語を読むことから解放され、英語を読むことを楽しみとする学生も増え、それを専門ゼミにつなげることができた。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『アメリカ文学にみる女性 と仕事 ハウスキーパーか らワーキングガールまで』	共著	平成 18 年 2 月	彩流社	共編著者野口啓子	286 頁
『女詐欺師たちのアメリカ 十九世紀女性小説とジ ャーナリズム』	単著	平成 18 年 3 月	彩流社		
『「アンクル・トムの小屋」 を読む 反奴隷制小説の多 様性と文化的衝撃』	共著	平成 19 年 4 月	彩流社	高野フミ、板橋好枝、野口啓子他 6 名	
『表象としての日本』	共著	平成 21 年 3 月	御茶の水書房	日高昭二編者他 8 名。	
論文					
“ An ‘ Unnatural Daugh- ter’s Revolution: Benigna Machiavelli as a Confide- nce Woman ”	単著	平成 15 年 7 月	『津田塾大学言語文化研 究所報』18 号		5-14 頁
「女の職業としての詐欺師 - オルコット『仮面の陰で』 『V・V』など」	単著	平成 15 年 9 月	『神奈川大学人文研究』 第 150 号		47-88 頁
「奴隷制に打ち勝つ屋根裏 の女詐欺師 - ストー『アン クル・トムの小屋』」	単著	平成 16 年 3 月	『神奈川大学人文研究』 第 152 号		1-38 頁
「『新しい女』の模範を示 す詐欺師-ギルマン『ベニ グナ・マキャヴェリ』」	単著	平成 16 年 9 月	神奈川大学『人文研究』 第 153 集		109-146 頁
「ヨーロッパを征服する アメリカン・コンフィデン ス・ウーマン ウォート ン『国の慣習』」	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学『人文研究』 第 155 集		171-215 頁
「『アンクル・トムの小屋』 と『アント・フィリスの小 屋』」	単著	平成 19 年 3 月	『神奈川大学人文研究』 (161 号)		9-36 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
「マダム」バタフライをこ える試み ヨネ・ノグチの 「ミス」モーニング・グロー リー	単著	平成 19 年 9 月	神奈川大学『人文研究』 (162)		87-123 頁
ワーキングガールから遺産 相続人へ ローラ・ジーン・ リビーのロマンスをめぐっ て	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学『人文学研究 所報』(41)		11-29 頁
「ダイムノヴェルの戦略ー スティーヴンズ『マラエス カ』とエリス『セス・ジョー ンズ』を中心に」	単著	平成 20 年 9 月	神奈川大学『人文研究』 (165)		1-45 頁
「女性改革者たちの社会福 祉ネットワーク アダムズ 『ハルハウスの二十年』」	単著	平成 21 年 3 月	神奈川大学『人文研究』 (167)		1-28 頁
その他					
「19 世紀アメリカ女性文 学について 家庭小説から 『新しい女』の登場まで」	共著	平成 15 年 12 月			
「マダム」バタフライをこ える試み ヨネ・ノグチの 「ミス」モーニング・グロー リー	単著	平成 19 年 3 月	津田塾大学言語文化研 究所「アメリカ文学に おける女性像」		
ワーキングガールから遺産 相続人へ ローラ・ジーン・ リビーのロマンスをめぐっ て	単著	平成 19 年 9 月	日本アメリカ文学会東 京支部口頭発表(於 慶 応義塾大学)		
『アンクル・トムの小屋』 を読む 反奴隷制小説の多 様性と文化的衝撃	共著	平成 20 年 3 月	津田塾大学交流館主催 シンポジウム(於津田 ホール)	板橋好枝、野口啓子、前田陽子、梅 垣代枝野、中村千鶴、藤井久仁子、池 野みさお、伊藤淑子、山口ヨシ子	
女性改革者たちの社会福 祉ネットワーク アダムズ 『ハルハウスの二十年』	単著	平成 20 年 12 月	津田塾大学言語文化研 究所「アメリカ文学にお ける女性像」		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 57 年 4 月～現在に至る	津田塾大学大学院英文学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本アメリカ文学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本英文学会会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	日本ナサニエル・ホーソン協会会員
昭和 62 年 4 月～現在に至る	日本ナサニエル・ホーソン協会会員
平成 8 年 3 月～現在に至る	M L A 会員
平成 8 年 3 月～現在に至る	Modern Language Association of America 会員
平成 8 年 7 月～現在に至る	米国 Edith Wharton Society 会員
平成 9 年 7 月～現在に至る	イーディス・ウォートン協会会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究)津田塾大学言語文化研究所「アメリカ文学における文性像」
平成 19 年 9 月～現在に至る	日本ポー学会会員
平成 20 年 4 月～現在に至る	アメリカ学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 E .カーマイケル	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
2 作成した教科書、教材 制作した教材の概要	平成 2 年 ～ 現在に至る	1年に渡って個々人が使用する、教育用オーディオビジュアルE S Lプログラムを作成。これは英語英文専攻学生用で、各学年毎に一年を通して毎週L Lにおいて使用される。教材は文化、社会、経済、知的主題で占められ、一単元一時間の授業である。毎年新しい話題が紹介されるので、プログラムの数は一年毎に増えていく。このプログラム使用により、各学年毎に、語学力ならびに知的向上がみられ、それはテストに明白に表れている。(～至現在)	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Establishing a Reference for a Co m prehe n sive Universiy Online Course System	単著	平成 18 年 1 月	神奈川大学言語研究 (28)		
その他					
Establishing a Reference for a Co m prehen- sive University Online Course System	単著	平成 17 年 7 月	第 1 回神奈川大学 メ ディア教育シンポジウム		



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 6 年 9 月～現在に至る	Semiotic Society of America 学会会員
平成 11 年～現在に至る	在内外研究出張に関するガイドライン草稿
平成 16 年 3 月～現在に至る	American Society of 18th Century Studies 会員
平成 18 年 8 月～現在に至る	Film and History Society 会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 小川 水尾	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>教科書として原典を採用する。</p> <p>授業</p> <p>Sight Translation</p> <p>英語の最新情報を伝える</p> <p>授業</p>	<p>～現在に至る</p> <p>～現在に至る</p> <p>～現在に至る</p>	<p>教科書として原典を採用する。「日本の大学生用」という枠組みを外して、英語に現われる英米文化の発想・構想の違いを感覚的・認識的に嗅ぎとってもらおう。ただし専門英語に限る。(授業科目：英語研究講読演習；卒業研究Ⅰ・Ⅱ)「英語で考える」とはいかないにせよ、「英語を考える」方向にはしたい。</p> <p>英語、アメリカ研究、卒業研究のクラスで文化・文学・言語ではなく法律・政治・経済}を前面に打ちだした教材を使用している。大学レベルでの英語の実務・実践性の優先度の高さ、英語が初習外国語ではない点に鑑み、少々硬く骨っぽい実務的な英語の初歩を体験してもらっている。日本の高校レベルでは「社会」とされる内容を言語・外国語で扱うのだが21世紀の国際・学際性を織り込みたい意図による。ちなみに米連邦最高裁の憲法判例から米国史を迎る教授方法は米国のロースクールの憲法1、2だけでなく学院・学部の歴史系、法律系、政治系のクラスで広くみられる定着した手法である。</p> <p>講読をクラスでする場合、学生に予習してきたものを読んでもらうのではなくSight Translationを、その場でしてもらい、思考しながら、意味内容を再表現してもらおう。英文が原典[英語が起点言語]の場合、眼でみつつ口頭で、目標言語たる日本語で、再構築してもらおう。教員個人が中・高時代、自己発見的に実践しており、ずっと後日サイマルの通訳者訓練課程でも採用されているのを知った方式。(授業科目：英米研究講読研究、卒業研究Ⅰ・Ⅱだけに止まらず、一般外国語の英語にも採用)全クラスで指導し、テストでも誘導するが、強制はしない。</p> <p>NYタイムズ(週刊)、Atlantic Monthly(月刊)の内容を、妥当性に鑑みて、教科書に折り込み、授業に取り込み、学生に話し聞かせる。日本語圏の情報と英語圏のそれは、視点の現象に対する角度が異なる。情報の不完全性は致しかたがないとしても複眼的な理解は学生の間観、社会観、世界観を広く深くすると思う。</p> <p>資格検定英語の担当も2年目となった。文字通りの受験マニュアル(『即戦力!英検準1級・一次試験 単語・イディオム問題集』山口昌彦著、南雲堂フェニックス、2004年)を、ひたすら実務性・必要性ゆえに採択しているが、2年目の今年からは無味乾燥の実務性に血を通わせ情感を添える工夫を、応用レベルでしている。すなわち上述の受験マニュアルに登場する表現の運用例として、学術出版・古典からの具体的引用を dictation(聴き取り・書き取り)してもらおう。</p>	

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
2 作成した教科書、教材		なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 教務部委員	~平成 15 年 5 月 1 日	<p>教務部委員 2 年目であるが学校法人・神奈川大学の運営の内容および環境に対する視力が飛躍的に上がってきたと思う。資格試験（もっとも一般的に英検・TOEFL）の資格取得状況（「各種検定試験単位認定申請者数表」による）が思わしくなく、英語の一教員として内心じくじたる思いを禁じえない。確認したわけではないし、内部告発をするつもりも更にはないが、一部、教員側の言語能力の実務性を合理的に疑う時期に来ているのではないか。教員の世代、研究の地域、研究の言語により一律には語れないが、自ら上述のような資格・検定を体験していない場合、その何たるかを知らないから学生に指導や方向づけ・動機づけは行えない。求められているのは特殊な英語ではなく、一般的妥当性のある英語のはずであり、そのかなり圧倒的な物差し・基準が英検・TOEFL に他ならない。学位・資格の質と内容が人事に十分に反映されるべきである。学生の言語能力の実務性を問う前に教員のそれが先に、問われてしかるべきである。</p>

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
米連邦公民権法七編下の 雇用差別撤廃訴訟の中の 同意判決手続の構造と機能 (The Structure & Func- tions of Consent Decree Procedure within Title 7 Affirmative Action Cases in the 80s')			神奈川法学(未稿)		
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 58 年 4 月～現在に至る	日米法学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 久保野 雅史	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目: 英作文)ピア・コレクションによる気づきを生かしたライティング指導。下書きしてきた文章を交換してコメントを記入してもらい、それを生かして推敲する。自分では気づかない文法・語法の誤り等に気づく力の向上に効果があった。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英文法演習)学校文法と英語学の接続。高校までに学んできた学校文法と英語学の落差を埋めるために、自主教材を用意して説明方法や用例の提示を工夫した。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(LL 演習)音変化に焦点を当てたりリスニング指導。読めば分かる語句であっても音声変化があると聞き取れない。そこで、音変化に焦点化した自主教材を作成してディクテーション練習を行い、聞き取り能力の向上を目指した。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英語教育学概論)学校現場と応用言語学の接続。中学校や高校で使用されている検定教科書や、実際のテスト問題の分析を通して、英語教育について実践的に学ぶために自主教材を作成した。理論と実践を一体化させる上で効果があった。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目: 英語科教育法 III)卒業生による授業評価の記述アンケート内容を参考に、マイクロティーチングの事前事後指導の内容を改善した。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(基礎演習)再履修者を対象とした授業だったので、各自の学習履歴を面接等で把握し、個別に課題を与えることで能力の伸長を図った。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(資格検定英語)授業外での学習を促進するために、毎時間復習課題を与え、授業冒頭の小テストを通して定着を確認した。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2008 年度前期授業評価アンケート結果		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(資格検定英語)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英作文演習)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(LL 演習)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。
2008 年度後期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英語教育学概論)「教員に熱意を感じた」という項目で極めて高い評価を得た。
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英文法演習)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(基礎演習)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。
2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(英語科教育法)「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 公立小学校の英語活動支援	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	公立小学校の英語活動支援。横浜市立南神大寺小学校の英語活動を支援するため、授業を見て指導・助言を行う。
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
平成13年度小中学校教育 課程実施状況調査報告書 (中学校・英語)	共著	平成15年6月	ぎょうせい	平田和人、伊藤敏明、金沢宏、金谷 憲、久保野雅史 他11名	
児童英語キーワードハンド ブック	共著	平成15年12月	ピアソン・エデュケーシ ョン	大久保洋子、磯部修一、小串雅則、 久保野雅史、小泉仁、関口和弘編著	
センター試験コーパスによ るフレーズで英単語3000	共著	平成16年10月	浜島書店	久保野雅史 他3名で執筆	
平成18年度版文部科学 省検定中学校教科書 Sun- shine English Course 1-3	共著	平成18年4月	開隆堂出版	佐野正之・山岡俊比古・松本青也・佐 藤寧・北原延晃・久保野雅史 他著。	
新しい英語教育のために－ 理論と実践の接点を求めて	共著	平成19年3月	成美堂	磐崎弘貞・卯城祐司・大嶋秀樹、太 田垣正義、岡秀夫、久保田章、久保 野雅史 他17名	
特定の課題に関する調査 (英語:「話すこと」)調査 結果(中学校)	共著	平成19年4月	国立教育政策研究所 教育課程センター	平田和人、阿野幸一、加瀬政美、金 谷憲、金子朝子、木野逸美、久保野 雅史 他9名	
すぐれた授業実践－より よい授業づくりのために	共著	平成19年5月	大修館書店	阿野幸一、泉恵美子、稲岡章代、太 田洋、久保野雅史、向後秀明、田尻 悟郎 他15名。	
論文					
中高6年間の一貫性・段階 制を踏まえた指導の工夫	単著	平成15年8月	『英語展望』第110号、 英語教育協議会 28-33		
武力行使に反対票を投じた 2人の下院議員	単著	平成16年	UNICORN JOUR- NAL, No.54 文英 堂		
文法指導を見直す－言語 形式に焦点を当てたトレ ーニングを－	単著	平成16年7月	『STEP 英語情報』第7 巻6号、英語検定協会 20-23		



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
英語のギモン Q&A	単著	平成 18 年 7 月	『NHK ラジオ・レベル アップ英文法』第 1 巻 4 号、日本放送出版協会 毎月 3-4 頁(2006 年 7 月～2007 年 10 月 [連載 中])		
文法の「応用力」を測るテ スト	単著	平成 18 年 10 月	『英語教育』第 55 巻 8 号、大修館書店 20-22		
歌詞をかみしめて歌いたい 「風に吹かれて」	単著	平成 19 年 10 月	『英語教育』第 56 巻 8 号、大修館書店 16-17		
その他					
教員研修用 DVD 「6-way Street -何を教えて何を学 ぶのか-」(全 2 巻)	共著	平成 15 年	バンブルビー&メディコ ム		
講演「コミュニケーション と大学受験は両立できる」	単著	平成 18 年 9 月	島根県教育委員会 高 等学校英語科授業力向 上セミナー		
講演「新しい教科書で生徒 を鍛えるために」	単著	平成 18 年 10 月	秋田県教育研究会横手 連絡協議会英語部会		
講演「基礎基本の徹底とコ ミュニケーション能力の育 成」	単著	平成 18 年 11 月	網走管内英語教育研究 大会		
講演「中高の接続から入試 までを見通した高校生の鍛 え方」	単著	平成 18 年 11 月	石川県高等学校教育研 究会・英語部会研修会		
講演「音読・暗唱と口頭練 習で生徒を鍛える」	単著	平成 18 年 11 月	宮崎県高等学校教育研 究会・英語部会 日南・ 串間地区研究大会		
口頭発表「中高 6 年間を見 通したスピーキング力の育 成と評価」	単著	平成 18 年 11 月	第 56 回全国英語教育研 究大会東京大会		
講演「コミュニケーション と大学受験は両立できる」	単著	平成 18 年 12 月	長野県総合教育セン ター 高等学校英語指導 力養成講座		
講演「中高 6 年間を見通し たスピーキング力の育成」	単著	平成 18 年 12 月	語学教育研究所 第 20 回 冬期講習会		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
教員研修用DVD「スピーキングの指導とその評価・高等学校編Ⅱ」	単著	平成19年	ジャパンライム		
ワークショップ「授業と家庭学習のパラダイムシフト」	単著	平成19年1月	英語授業研究会関東支部 第132回例会		
講演「出口を見据えた英語のカリキュラムを考える」	単著	平成19年2月	第6回全国中高一貫教育研究大会		
講演「テストが変われば学習スタイルが変わる」	単著	平成19年2月	北海道函館中部高等学校 SELHi 特別講演会		
講演「中高6年間を見通した指導と評価の構造改革」	単著	平成19年3月	立命館中・高等学校英語科教育研究会		
シンポジウム「教育実習での学び方と実習生の指導」	共著	平成19年5月	英語授業研究会関東支部 第135回例会		
講演「スピーチ/暗唱指導を通して授業を改善する」	単著	平成19年6月	世田谷区立中学校教育研究会英語研究部・前期研究集会		
講演「中高6年間を見通したコミュニケーション能力の育成」	単著	平成19年6月	佐賀県教育センター 高校英語科講座		
口頭発表「作成・分析者が語る、わが国初の全国スピーキングテスト」	単著	平成19年6月	英語授業研究会関東支部 第136回例会		
講演「『あたりまえのこと』から創造的言語活動へ」	単著	平成19年7月	寝屋川市 英語指導法研修		
講演「音読・暗唱からスピーキングへ」	単著	平成19年7月	第46回九州地区私学教育研修会・大分大会		
講演・演習「スピーキング能力の育成と評価－音読・暗唱からスピーチへ－」	単著	平成19年7月	大阪府 中学校・高等学校「英語指導法」研修		
講演「中高6年間を見通した文法指導」	単著	平成19年7月	ELEC 夏期英語教育研修会		
ワークショップ「スピーキング力の育成と評価－厳しく楽しく、中高生を鍛える－」	単著	平成19年8月	栃木県英語教員研修		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演・演習「コミュニケーション能力の評価とテスト ングの工夫」	単著	平成 19 年 8 月	神奈川県英語教育推進 担当者養成講座		
講演・ワークショップ「リス ニング指導を問い直す－ 『やり繰り上手』だけで終 わらないために－」	単著	平成 19 年 8 月	ELEC 同友会英語教育 学会サマーワークショッ プ		
講演・ワークショップ「『測 る+伸ばす』テストで家庭 学習をシステム化する」	単著	平成 19 年 8 月	神奈川県高校英語部会 サマーワークショップ		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 62 年 6 月～現在に至る	(財) 語学教育研究所会員
昭和 62 年 7 月～平成 16 年 3 月	外国語教育メディア学会 ( L E T ) 会員
昭和 62 年 9 月～現在に至る	関東甲信越英語教育学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	英語授業研究学会会員
平成 2 年 4 月～平成 17 年 3 月	(財) 語学教育研究所研究員
平成 4 年 11 月～現在に至る	世田谷区中学校英語スピーチコンテスト審査員
平成 5 年 10 月～現在に至る	英語語法文法学会会員
平成 9 年 8 月～現在に至る	英語授業研究学会理事
平成 10 年 10 月～現在に至る	ELEC 同友会英語教育学会会員
平成 10 年 10 月～現在に至る	ELEC 同友会英語教育学会理事
平成 16 年 4 月～現在に至る	(財) 語学教育研究所・外国語教育研究賞選考委員
平成 16 年 7 月～平成 19 年 8 月	大阪府教育センター中学校・高等学校「英語指導法」研修講師
平成 18 年 4 月～平成 19 年 8 月	栃木県総合教育センター中学校・高等学校英語教員研修講師
平成 18 年 4 月～現在に至る	長野県総合教育センター高等学校英語指導力養成講座講師
平成 18 年 9 月～現在に至る	島根県教育委員会中学校・高等学校英語科指導力向上セミナー講師

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 佐藤 裕美	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 英語読解力向上のための取り組み	平成 20 年 4 月 1 日	( 授業科目：基礎演習 I,II) 比較的平易な英語で書かれた小説の抜粋を授業で読み、それぞれの作品の続きを学生が自分で読み、定期的に読書報告を提出するよう指導している。英語で書かれた書物を読む機会を増やし、英語読解力を向上させ、また言語や文学についての学問的関心を促す上で効果が得られている。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Selection for Clausal Complements and Tense Features	単著	平成 15 年 6 月	Ph.D.Dissertation,the University of Wash- ington		
英語の発話におけるポーズ の頻度と自然な音声への影 響 - 日本人学習者とネイテ ィブ・スピーカーの発話の 比較 -	単著	平成 15 年 10 月	東海大学外国語教育セ ンター所報第 23 号、東 海大学		19-27 頁
時の副詞節と時間項の統語 構造	単著	平成 17 年 3 月	『副詞的表現をめぐって 対照研究』ひつじ書 房		1-28 頁
Tense, VP and Tem- poral Argument Chains: The Case of Perception Bare Infinitival Comple- ment Constructions	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学言語研究 No.27 2004 神奈川 大学言語研究センター		1-26 頁
Nominal and Verbal Cat- egories: A Study Based on English Gerunds and Japanese Verbal Noun Clauses	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』神奈川大 学人文学会 (No. 157)		139-175 頁
Infinitival Complements A Preliminary Study of 'Restructuring' and Causative Constructions in Italian	単著	平成 19 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 (神奈川大学言語研究 センター)(No.29)		1-27 頁
Verbal Noun Comple- ments and Complex Predicates in Japanese	単著	平成 20 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 (神奈川大学言語研究 センター)2007, (30)		1-26 頁
The Past Tense in the Perfect	単著	平成 21 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 神奈川大学言語研究 センター (No.31)		1-28 頁
その他					

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
中学学習指導要領における 接触節と関係代名詞節の扱 いとその問題点	単著	平成 15 年 11 月	外国語教育メディア学会 関東支部第 113 回研究 大会		
Perception Bare Infini- tival Complement Con- struction and Temporal Argument Chains	単著	平成 16 年 8 月	Linguistic Association of Great Britain An- nual Meeting 2004		
The Light Verb and Complex Predicate For- mation in Japanese	単著	平成 19 年 8 月	The Linguistics As- sociation of Great Britain (LAGB) annual meeting (at KIng's College Lon- don)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 7 年 11 月～現在に至る	日本英語学会会員
平成 14 年 5 月～現在に至る	英語語法文法学会会員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	(学内共同研究) 対照言語学研究会「言語の普遍性と個別性に関する研究」
平成 20 年 4 月～現在に至る	(学内共同研究) 対照県語学研究会「統語的アプローチと語用論的アプローチによるモダリティの対照研究」



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 村井 まや子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目:基礎演習、英作文、英米文学演習、英語会話、英語、英米文学概論、英米文学購読演習)前年度の授業評価アンケート評価を受け、内容をわかりやすく伝えるため、パワーポイント、映像資料などの補助教材を使用するなど、授業運営の改善を行った。
E ラーニング教材の採用		平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目:基礎演習)英語英文学科全体の取り組みとして、1 年次生が全員履修する「基礎演習」の授業において、授業時間外での自習の習慣をつけるために E ラーニング教材を毎週課題とし、各学生の自習状況を随時確認して指導に役立てた。
2 作成した教科書、教材			
「卒業研究」の教材作成		平成 17 年 4 月 1 日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。
「基礎研究」の教材作成		平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。
「専門研究」の教材作成		平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2005 年授業評価アンケート結果		平成 17 年 2 月 28 日	(授業科目:英語(文化))学生による授業評価アンケートにおいて、「授業の内容に興味が持てましたか」、「教員の話し方は、明瞭で学生をひきつけるものでしたか」、「この授業は総合的にみて満足のいくものでしたか」の 3 つの項目の評価が、全学・学部・学科の平均を大きく上回る 4.8 であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Defining Moments in Books	共著	平成 19 年 10 月	Cassell Illustrated	Lucy Daniel 編	
表象としての日本 移動と越境の文化学	共著	平成 21 年 3 月	御茶の水書房	日高昭二、村井まや子他	
論文					
赤ずきんの内なる狼 - Angela Carter, 'The Company of Wolves'	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学人文学会『人文研究』第 154 集		159-75 頁
Passion and the Mirror: Angela Carter's Souvenir of Japan	単著	平成 19 年 3 月	神奈川大学『人文研究』第 161 集		1-19 頁
その他					
(口頭発表) 'Into Somebody Else's Dream': Angela Carter's Souvenir of Japan	単著	平成 17 年 9 月	British Comparative Literature Association International Conference (University of Wolverhampton, UK)		
(映画パンフレット監修) ママの遺したラヴソング		平成 19 年 2 月			
(報告) イギリスにおける日本研究の現状 ロンドン大学, シェフィールド大学, オックスフォード大学の日本研究機関を訪ねて	単著	平成 19 年 3 月	人文学研究所報 40		112-114 頁
(翻訳) 世界から見た日本: 多文化共生社会の構築のために	共著	平成 19 年 3 月	御茶の水書房	神奈川大学人文学研究所	
(翻訳) 無垢なるモンスター: ダニエル・ジョンストン物語	共著	平成 19 年 4 月	プレスポップギャラリー		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
(字幕翻訳)チャーリー・ エーハンのアーティスト達 の肖像	単著	平成 20 年 11 月	Presspop Music		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 10 年 1 月～現在に至る	日本英文学会会員
平成 10 年 1 月～現在に至る	イギリス比較文学学会会員
平成 10 年 1 月～現在に至る	国際比較文学学会会員
平成 14 年 1 月～現在に至る	日本ヴァージニア・ウルフ協会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	テキスト研究学会会員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	神奈川大学（表象としての 日本）(研究分担者)
平成 18 年 4 月～現在に至る	査読委員テキスト研究学会
平成 18 年 10 月～現在に至る	テキスト研究学会紀要査読委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 師岡 淳也	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『英検準1級教本』	共著	平成17年4月	旺文社		
『英検1級教本』	共著	平成17年4月	旺文社		
The Rhetoric of the Foreign Worker Problem in Contemporary Japan	単著	平成18年3月	Doctoral Dissertation (University of Pittsburgh)		
論文					
Between Two Evils, I Refuse to Choose the Lesser	共著	平成15年5月	Cultural Studies17, (3・4)	Carol A. Stabile, <u>Junya Morooka</u>	326-348 頁
Rhetorical Criticism as a World-Disclosing Critique: A Nietzschean Perspective	単著	平成19年3月	『ヒューマンコミュニケーション研究』第35号		109-125 頁
Documenting the Undocumented: A Case of the Special Residence Permission Campaign in 1999 through 2000	単著	平成20年8月	Proceedings of the Third Tokyo Conference on Argumentation		
その他					
米国コミュニケーション研究におけるレトリック学の位置付け-ピッツバーグ大学の事例を中心に	単著	平成16年5月	『日本コミュニケーション学会関東支部2003年度研究会報告書』		
教育ディベートは誰のもの?エンパワメントとしてのディベートの試み(学会発表)	単著	平成16年8月	第2回議論学国際会議、東京		
Rhetorical Criticism as a World-Disclosing Critique: A Nietzschean Perspective (学会発表)	単著	平成18年6月	日本コミュニケーション学会第36回年次大会、東京		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
JDA 論題委員会の今後の 方向性に対する試案	単著	平成 18 年 8 月	『日本ディベート協会通 信』(日本ディベート 協会) 21, (1)		3-6 頁
レトリック研究とコミュニ ケーション教育の接点を探 る(シンポジウム)	共著	平成 19 年 6 月	日本コミュニケーション 学会第 37 回年次大会、 福岡	松本茂、白井直人、吉武正樹、 <u>師岡 淳也</u>	
ピエール・ブルデューとコ ミュニケーション研究(学 会発表)	単著	平成 19 年 6 月	日本コミュニケーション 学会第 37 回年次大会、 福岡		
レトリック研究とコミュニ ケーション教育の接点を探 る	共著	平成 20 年 5 月	『スピーチコミュニケー ション教育』第 21 号	松本茂、白井直人、吉武正樹	

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 8 年 10 月～現在に至る	全米コミュニケーション学会会員
平成 16 年 7 月～現在に至る	日本ディベート協会会員
平成 16 年 7 月～平成 18 年 6 月	日本ディベート協会推薦論題担当理事
平成 16 年 10 月～現在に至る	日本コミュニケーション学会会員
平成 17 年 6 月～平成 18 年 5 月	日本コミュニケーション学会関東支部運営委員
平成 18 年 3 月～現在に至る	国際コミュニケーション学会会員
平成 18 年 6 月～現在に至る	日本コミュニケーション学会関東支部支部長
平成 18 年 7 月～現在に至る	日本ディベート協会副会長



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 特任助教	氏名 白須 康子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 学生による授業評価アンケートの活用	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	通訳演習：前年度の授業評価アンケートの結果および学生とのインフォーマルなやり取りを通して、語彙の力を伸ばしたいという彼らの要望に応えるため、毎回授業の最初に前回の授業で扱った教材の中に出てくる単語のテストを実施した。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
子どもの目を通して見た日本とイギリス - 日英比較研究 -	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学人文学会『人文研究』(151)		1-25 頁
中学校の英語教育における絵本・児童文学の活用	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学人文学会『人文研究』(154)		83-111 頁
”The Shadow - Cage”におけるストーリーテラーとしての Philippa Pearce	単著	平成 17 年 12 月	神奈川大学人文学会『人文研究』(No.157)		1-28 頁
Selecting Books for Children Up To Age 3:In Response to Psychological vs.Morphological Development	単著	平成 18 年 9 月	神奈川大学人文学会『人文研究』(159)		59-86 頁
Lucy Boston’s Kaleidoscopic World of Fantasy in “ The Guardians of the House ”	単著	平成 19 年 12 月	神奈川大学人文学会『人文研究』(163)		227-246 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 14 年 12 月～現在に至る	日本国際児童図書評議会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	絵本・児童文学研究センター会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	日本イギリス児童文学学会会員
平成 20 年 4 月～現在に至る	NPO 法人山梨子ども図書館講師

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 特任助教	氏名 ラクエルA - Lヒル	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 メーリングリストの活用、スピーチ・コンテスト、授業満足度		平成 16 年 4 月 1 日	学生全員の email アドレスを知っているので、欠席して受け取れなかった資料等重要な情報を連絡している。欠席の連絡や質問なども email で受けている。Advanced English Conversation 3、4 は、毎年恒例の英語英文学科で行われるスピーチ・コンテストに向けての準備を行っている。過去 5 年毎年、このクラスから優勝者が出ている。私の授業満足度は、全ての評価項目について、特に授業への熱意、工夫は、平均よりも常に、かなり高い。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「ニューージーランド人(パ ケハ)から見たマオリ文化 のかたち」	単著	平成 17 年	『新しい文化のかたち - 言語・思想・くらし - 』 神奈川大学人文学研究 所編(御茶の水書房)		141-171 頁
「ジャネット・フレイムの 『カルパチア山脈』におけ るディスプレイメント - 揺れ動くニューージーラン ド人のアイデンティティ - 」	単著	平成 17 年	『太平洋世界の文化とア メリカ - 多文化主義・土 着・ジェンダ - 』瀧田佳 子編(彩流社)		231-260 頁
「南島の周縁性とジャネッ ト・フレイムの文学 - 自叙 伝と『包囲の状態』を中 心に」	単著	平成 19 年	『周縁地域の自己認識 - 津軽とオタゴの知識 人を中心に』郭南燕編著 (弘前大学出版会)		77-103 頁
論文					
“ ‘ A Mobile Phone of One’s Own ’:Japan’s Generation M ”	単著	平成 15 年 6 月	New Zealand Journal Of Asian Studies, (New Zealand Association of Asian Studies)Vol.5,No.1.		178-194 頁
“ ‘ A Little Land With No History’ - Pakeha Ident- ity in Aotearoa New Zealand. ”	単著	平成 16 年	神奈川大学人文学会『人 文研究』第 153 集		113-144 頁
“ ‘ This World,’ ‘ That World,’and ‘ The Third Place’ in Janet Frame’s <i>Faces in Water.</i> ”	単著	平成 16 年	東京大学大学院総合文 化研究科『超域文化科学 紀要』第 9 号		84-97 頁
“ Displacements in Oba Minako’s <i>Urashimaso: The Magic of the Third Space.</i> ”	単著	平成 17 年	神奈川大学人文学会『人 文研究』第 154 集		19-50 頁
その他					

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
書評 <i>Modern Japanese Culture</i>	単著	平成 15 年 12 月	New Zealand Journal Of Asian Studies,(New Zealand Association of Asian Studies)Vol.5,No.2.		
書評 <i>Wrestling with the Angel:A Life of Janet Frame.</i>	単著	平成 17 年 3 月	Studies in English Literature(『英文学研究』)English No.46		275-283 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 13 年 4 月～現在に至る	オーストラリア・ニュージーランド文学会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	東大比較文学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本比較文学界および International Comparative Literature Association 会員
平成 18 年 4 月～現在に至る	ニュージーランド学会 ( The New Zealand Studies Society - Japan ) 会員
平成 18 年 4 月～現在に至る	Association for Japanese Studies 会員
平成 19 年 4 月～現在に至る	SWET(Society of Writers, Editors and Translators) 会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 教授	氏名 青木 康征	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 スペイン語会話練習ソフトの開発	~平成 16 年 5 月	パソコン(インターネット)を利用したスペイン語会話練習ソフト(”Spanish with Me”)(基礎・応用編)を開発し、学生向けに試験供用を開始した。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『ホセ・マルティ選集 飛翔する思想』第2巻	共著	平成17年2月	日本経済評論社	青木康征、柳沼孝一郎	424頁
『歴史学辞典13 所有と生産』	共著	平成18年4月	弘文社		
論文					
その他					
(取材協力)「没後500年 コロンブスってどんな人だったの」		平成18年5月	朝日新聞社朝日中学生ウイークリ - (2006年5月7日)		
(監修・解説)『コロンブス』小学館版学習まんが人物館	単著	平成20年9月	小学館		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 49 年 4 月～現在に至る	日本イスパニア学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本ラテンアメリカ学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 教授	氏名 岩根 園和	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	スペイン文学：平成 20 年度前期授業評価アンケートを受け、古典文学の内容 ならび作者の理解を深めるために背景となる歴史の説明を大幅に取り入れた。	
2 作成した教科書、教材 中級の講読教科書	平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	スペイン現代作家の著名な作品に訳注をつけて中級から上級の使用に耐えるテ キストを作成した。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
物語スペインの歴史 人物 編	単著	平成 16 年 5 月	中公新書		
現代スペイン	共著	平成 16 年 5 月	三修社		
蝶の舌	共著	平成 19 年 10 月	朝日出版	菊田和佳子	
論文					
セルバンテスと無敵艦隊		平成 18 年 3 月	『スペイン語世界のこ とばと文化』 京都外国語 大学		95-113 頁
スペイン艦隊のイギリス遠 征ーロサリオ号のプリマス 沖放置事件の真相ー	単著	平成 19 年 9 月	神奈川大学人文学会・人 文研究 1 6 2 号		1-28 頁
スペイン艦隊のイギリス遠 征ーメディナ・シドニア公 は臆病者か？ -	単著	平成 19 年 12 月	神奈川大学人文学会・人 文研究 1 6 3 号		
ドレイクのカディス襲撃ー スペイン艦隊総司令官メデ イナ・シドニア公ー	単著	平成 20 年 3 月	『人文研究』(164)		
スペイン艦隊のイギリス遠 征ーバルマ公は何をためら ったのか？	単著	平成 20 年 9 月	神奈川大学人文研究 165 号		32-59 頁
スペイン艦隊のイギリス遠 征ーアイルランド沖難破ー	単著	平成 21 年 1 月	『人文研究』(No.166)		p.27-54 頁
その他					
トレドからリスボンへ	単著	平成 15 年 4 月	神奈川大学評論「評論の 言葉」		
鷹作ドン・キホーテについ て		平成 17 年 12 月	『ドン・キホーテ』辞典		pp.365-372 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本イスパニア学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 教授	氏名 太田 強正	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 文法学習の工夫	平成 20 年 4 月 1 日	スペイン語の授業において、文法の例文を学習する際も、ネイティブの発音を録音し、学生に聞かせている。	
2 作成した教科書、教材 1 年時用共通テキスト <i>Español Actual</i> 「現代標準スペイン語」第三書房	平成 7 年 3 月 10 日	担当教員による専門課程 1 年次用共通テキストを作成することにより、講義内容の重複を避け、スムーズ且効果的に授業を進めることができるようになった。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
～現在に至る	日本イスパニア学会会員
～現在に至る	日本ロマンス語学会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 教授	氏名 後藤 政子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例  「メディア教材作成プロジェクト」  スペイン語学科新生生に対するアンケート実施		平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日  平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日	地域事情の学習とスペイン語コミュニケーションの実践的学習を兼ねた学生自身の手になるメディア教材作成の指導、実行。2004 年度は『軍隊のないコスタリカってどんな国?』、2005 年度は『キューバの野球はなぜ強い?』、2006 年度は『メキシコ - 経済発展の光と影』、2007 年度は『新自由主義経済成功の国から 隠された課題を探る旅』を制作。  授業評価アンケートが全学学生を対象とした一般的なものであるため、スペイン語学科の新 1 年生全員に対し、アンケートを実施した。その内容は、本学入学の動機、他大学・学部・学科の受験状況、スペイン語圏諸国に関する理解度、将来の希望等、本学科にかかわる具体的項目を取り上げた。その結果、かなり重要な事柄が明らかになった。そのひとつに新生生については、スペイン語を公用語とする国をスペインのみと考える学生が圧倒的であることが判明した。そのため、学修への動機付けとして、中南米および米国への関心を高めることが必要であることを痛感した。
2 作成した教科書、教材  ラテンアメリカ地域事情学習のためのメディア教材 (DVD) 作成		平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 3 月 31 日	2004 年度『軍隊のないコスタリカってどんな国?』。2005 年度『キューバの野球はなぜ強い?』。2006 年度『メキシコはどこへ～経済発展の光と影～』。2007 年度『『新自由主義』成功』の国から』
3 教育上の能力に関する大学等の評価  学生による授業評価アンケートの活用		平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 1 月 31 日	(スペイン語演習 1) 近年は、学修意欲の低下、学修動機の欠如、理解力の低下が目立つ。動機付けにたいしては、スペイン語が国際的に非常に需要が多くなっていることをさまざまな形で伝える。理解力の低下に対しては、(1)できるだけ授業中に知識を定着させる。そのために、その場で動詞の活用等を覚えさせ、その場で極小さなテストを行う、(2)小テストを頻繁に行い理解度を見る。理解できていない場合は別にプリントを用意し、再度文法の説明、練習等を行う。その他、学科として弁論大会への参加、スポーツ大会実施などにより、教員と学生、学生間の接触を高める、など。

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>学生による授業評価アンケートの活用</p> <p>学生による授業評価アンケートの活用</p>	<p>平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 1 月 31 日</p> <p>平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 21 年 1 月 31 日</p>	<p>スペイン語演習 2 学生間の能力格差が拡大しているため習熟度別クラス編成を行っている。担当している上級クラスでは、社会に通用するスペイン語長文の読解力をつけるため、学生にとっては初めての長文読解であるが、最初は簡単なものから初め、次第にネイティブ特有の文章に慣れるようにもっていく。その際、文法の説明・実践的定着、単語の意味についての考え方、辞書に引き方等、基本的な事項から、文章を読むとは同様なことを、それぞれ文章に沿って、理解させるよう、授業を進めている。この方法は、最初は大変難しいと感じているようであるが、急速に力がついている。</p> <p>(現代ラテンアメリカ研究 1) 学生は 1, 2 年次で地域研究入門科目を履修しているにもかかわらず、ラテンアメリカについての極常識的知識をもたない。そのため、本授業では授業内容を絞り込み、1 項目に時間をかけて行っている。また、ノートを取る力がない学生が多いため、パワーポイントを利用するとともに、配布資料を配り、本人が必要と気づいたメモを入れるだけでよいようにしている。授業のはじめに、当日のテーマと、聞いてほしい内容を伝え、授業終了後、その概要を、小さなメモ(ミニミニ・レポート)にまとめさせる。これにより、学生の理解度がわかるとともに、学生も何を聞かなければならないのか、何が問題なのかを考えながら、授業を聞くことができる。学期末までには理解力も増し、文章力も向上している。数回の事前授業ののちに、講演会(2008 年度は駐日ボリビア大使)、ビデオ上演などを行い、その概要をまとめるミニレポートを提出させている。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p>		<p>なし</p>
<p>5 その他</p> <p>外国語学部スペイン語学科カリキュラム作成</p> <p>カリキュラム委員</p> <p>副専攻コース検討委員会委員長</p>	<p>平成 14 年 4 月 ～平成 17 年 11 月</p> <p>平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 22 年 3 月 31 日</p> <p>平成 20 年 4 月 1 日 ～平成 22 年 3 月 31 日</p>	<p>2003 年度および 2006 年度の新カリキュラムの作成にあたった。</p> <p>カリキュラム委員として授業内容の調査、検討、時期カリキュラムへ向けての準備、クラス編成等の実行。2007 年度からは少人数クラス・習熟度別クラスへの移行した。2010 年度に向け、カリキュラム改革を実施した。</p> <p>全学の副専攻コース導入のための委員会を主宰し、大学側に委員会方針を提出した。</p>

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ラテンアメリカの女性群像	共著	平成 15 年 12 月	行路社		
ラテンアメリカ開発の思想	共著	平成 16 年 11 月	日本経済評論社		285-302 頁
グローバリゼーションとは 何か(翻訳)	単著	平成 17 年 7 月	赤石書店		
在日外国人と日本社会のグ ローバル化	共著	平成 20 年 2 月	御茶ノ水書房	横倉節夫、平井誠、永野善子、尹亭 仁、後藤晃、福元雄二郎、富谷玲子	
「わが夫、チェ・ゲバラ」	単著	平成 20 年 5 月	朝日新聞出版		
論文					
「ラディカル・フェミニズ ム」を超えた底辺層女性の 社会運動	単著	平成 15 年 7 月	神奈川大学評論 No.45		
カストロとゲバラ - 二人の マルティ主義者」	共著	平成 16 年 10 月	現代思想		57-72-161-176 頁
「平等主義体制」から「公 正な社会」へ	単著	平成 19 年 2 月	海外事情(拓殖大学)2 月号		
「ステレオタイプにとらわ れない」ことの難しさ	単著	平成 19 年 4 月	アジア・アフリカ研究所 2007 年第 2 号		70-76 頁
経済的制約に苛まれた平等 主義の 50 年 「革命理念 の維持」が 「革命」を蝕 む	単著	平成 20 年 5 月	5 月臨時増刊号		74-85 頁
その他					
イミダス 2004	共著	平成 15 年 11 月	集英社		
イミダス 2005	共著	平成 16 年 11 月			
イミダス 2006 『各国情勢 - ラテンアメリカ』	共著	平成 17 年 11 月	『イミダス 2006』(集英 社) 2006 年版	高橋均	
「世界の国々 4 - キューバ」		平成 18 年 3 月	ポプラ社		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
イミダス 2007 『各国情勢 - ラテンアメリカ』	共著	平成 18 年 11 月	イミダス 2007(集英社) 2007 年版	高橋均	
講演「キューバは今 そし てカストロ以後のゆくえ」	単著	平成 19 年 6 月	町田市教育委員会		
講演「ゲバラとキューバ革 命」	単著	平成 19 年 10 月	立教大学ラテンアメリ カ研究所		
講演「キューバは今」	単著	平成 19 年 10 月	国際交流基金		
イミダス 2007 『各国情 勢 - ラテンアメリカ』		平成 19 年 11 月	イミダス 2008		
講演『チェ・ゲバラの知ら れざる素顔 ~妻が明かす 「歴史」の真実~』		平成 20 年 6 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 55 年 6 月～現在に至る	日本ラテンアメリカ学会会員
昭和 59 年 10 月～現在に至る	ラテンアメリカ政経学会会員
平成 10 年 6 月～現在に至る	日本比較政治学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会『世界史史料』編集編集委員
平成 14 年 6 月～平成 16 年 6 月	日本ラテンアメリカ学会理事

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 教授	氏名 藤田 一成	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>ゼミナールの強化合宿 (3-4泊)</p> <p>歴史用語の原語での表記</p> <p>授業評価アンケートの活用 (板書について)</p>	<p>昭和 49 年 4 月 ~ 平成 21 年 3 月</p> <p>昭和 49 年 4 月 ~ 平成 21 年 3 月</p> <p>平成 20 年 4 月</p>	<p>当学に奉職してから、中断なく続けてきたハードな授業外活動である。合宿の準備は学生主体で4月から7カ月かけてなされる。6月末までにテーマの選定、参考文献の検索が班分けされたグループでなされ、発表の骨格を提示して、皆の論評を仰ぐ。これで夏休み中の研究は楽になる。10月に最終的な目次を皆に提示し、出発前に皆に各班のレジユメを渡す。合宿はハードである。各班の持ち時間は3時間で、4-5班あるとすれば、合宿中は12-15時間机に向かうことになる。へとへとになるが、終わった後の充足感は何物にも代えがたい。最終日は反省会で締めくくる。このようにして、学生にテーマの決め方、資料の検索方法、レジユメの作り方、発表の仕方、仲間との協調方法などを体感してもらっている。</p> <p>スペイン史の授業では、歴史用語をできるだけスペイン語で表記することを心掛けている。和訳をすると言語の微妙なニュアンスが伝わらない場合もあり、誤解のもとになる可能性があるからであり、また、学生の語彙をできるだけ増やす機会を与えたいためである。</p> <p>私の板書が判りにくいという指摘があった。学生に見やすいようにと善意で黒板の中央部の狭いスペースに書いたのだが、よく消すことになり、前とのつながりが判りにくくなったようだ。最近では口頭で十分説明しながら広いスペースを使って板書している。</p>	
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>世界の中の日本人たち (大学書林) : 時事スペイン語用教科書</p> <p>スペインこぼれ話 (芸林書房) : 中級購読用教科書</p> <p>現代標準スペイン語 (第三書房) : スペイン語専攻学生用の詳細な教科書</p> <p>こんにちは、スペイン (大学書林) : 第二外国語としてのスペイン語学習用教科書</p> <p>1年次共通の教科書の作成と使用ー1995年から2006年度まで「現代標準スペイン語」(第三書房)、それ以後「スペイン語文法入門」(自家出版)</p>	<p>平成 3 年 3 月</p> <p>平成 6 年 2 月</p> <p>平成 7 年 3 月</p> <p>平成 8 年 3 月</p>	<p>授業内容を統一し、学生の知識の習得に一貫性を持たせることができるばかりでなく、教師間の連携を密にすることが可能となる。</p>	

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 外国語学部昇任人事選考委員会委員長としての活動	平成 19 年 10 月 ～平成 20 年 1 月	当学部は 2007 年度より昇任人事について点数制を導入するなど抜本的な制度の改革を行った。今回は新規定を適用する最初の年にあたり、8 名の候補者について綿密な検討を行った。だが、この内容が先例のない新機軸であり、人数も多かったこともあって作業は難渋したものの、なんとか新しい公平な基準を作り上げて、結論を出すことができた。審議の終了後、教授会は拍手をもって評価していただき、感動した。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
講演：旅の歴史を考えるー カルロス 5 世の旅ー		平成 17 年 7 月	神奈川大学横浜市民講 座		
講演：言葉と文化ースペイ ン語の世界		平成 19 年 6 月	高校生向け公開講座		



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 48 年 10 月～現在に至る	日本イスパニヤ学会会員
昭和 51 年 4 月～現在に至る	社会経済史学会会員
昭和 54 年 10 月～現在に至る	日本イスラエル文化研究会会員
昭和 54 年 11 月～現在に至る	スペイン史学会会員
昭和 56 年 3 月～現在に至る	セファルディーの系譜 (日本イスラエル文化研究会)
昭和 61 年 10 月～現在に至る	帝国時代のスペインーマドリッドへの首都決定をめぐるー (神奈川大学横浜市民講座)
昭和 63 年 5 月～現在に至る	反ユダヤ主義の建前と本音ー中世スペインにおけるユダヤ人医師の処遇をめぐるー (日本イスラエル文化研究会)
昭和 63 年 11 月～現在に至る	スペインとヨーロッパー17世紀前半における対外関係を通じてー (清泉女子大学西文学会)
平成 2 年 3 月～現在に至る	日本西洋史学会会員
平成 2 年 5 月～現在に至る	ディアスポラの一局面ーセファルディと植民地時代の南アメリカー (日本イスラエル文化研究会)
平成 3 年 4 月～現在に至る	日本イスラエル文化研究会理事
平成 3 年 11 月～現在に至る	大航海時代のスペインー辺境より世界へー (横浜市栄区役所、横浜市教育委員会)
平成 3 年 11 月～現在に至る	スペインの没落ー拡張主義の終焉ー、1992年が問いかけるもの (横浜市栄区役所、横浜市教育委員会)
平成 4 年 10 月～現在に至る	スペインと地域分立主義 (横浜市栄区役所、横浜市教育委員会)
平成 6 年 11 月～現在に至る	西洋と日本の出会いー南蛮人の到来ー (中国 杭州大学、国際シンポジウム)
平成 9 年 9 月～現在に至る	スペインを考えるーハブスブルクの中のスペインー (朝日カルチャーセンター、新宿)
平成 12 年 3 月～現在に至る	カルロス 5 世の旅の周辺 (横浜スペイン交流教会)
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本イスパニヤ学会監査役
平成 13 年 12 月～現在に至る	ユダヤ人の民族問題ーI. 古代から中世までの歴史 : 中世スペインのユダヤ人 (朝日カルチャーセンター、横浜)
平成 14 年 12 月～現在に至る	スペインという国は存在するかーマドリッドとバルセロナの相克ー (神奈川大学横浜市民講座)
平成 17 年 7 月～現在に至る	旅の歴史を考えるーカルロス 5 世の旅ー (神奈川大学横浜市民講座)
平成 18 年 7 月～現在に至る	日本ユダヤ学会 (日本イスラエル文化研究会から改称) 会員

年月	内 容
平成 18 年 7 月～平成 19 年 6 月	日本ユダヤ学会 (日本イスラエル文化研究会から改称) 理事
平成 19 年 6 月～現在に至る	スペイン語の世界 (高校生向け公開講座)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 特任教授	氏名 寺崎 英樹	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育方法の実践例 パワーポイント文書を利用した授業実践と教材配布		平成 19 年 4 月 1 日	3~4 年生を対象とする専門科目「スペイン語学研究 II」についてパワーポイントによる独自の教材を新規に執筆し、作成したスライドを映写し、事前に教材プリントを配布して、授業を行っている。これにより学生の理解度が高まり、効率的に授業運営が行えるようになった。教材は本年度に3分の1程度改訂し、差し替えを行っている。
2 作成した教科書、教材 スペイン語文法教科書の編纂		平成 19 年 4 月 1 日	スペイン語学科の要請により教科書編纂委員会を立ち上げ、1年演習の文法教科書を共同執筆し、学内出版を行って授業で使用、授業担当者全員の実践に基づく意見を取り入れて今年度修正・改善を行った。次年度はさらに改訂を行って学外出版を行うことが決定し、準備を進めている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
クラウン西和辞典	共著	平成 17 年 2 月	三省堂	原誠、E.Contreras、寺崎英樹、秋山 紀一、阿部三男、高垣敏博	2065 頁
世界のことば・辞書の辞典、 ヨーロッパ編	共著	平成 20 年 4 月	三省堂	石井米雄編	
論文					
スペイン語における語につ いて	単著	平成 16 年 3 月	東京外国語大学語学研 究所論集 9		39-57 頁
スペイン語の動詞由来名詞 の形成	単著	平成 16 年 8 月	スペイン語学研究,東京 スペイン語学研究会 19		95-113 頁
フランス語とスペイン語に おける主語の倒置	単著	平成 18 年 3 月	「神奈川大学言語研究」 28号(神奈川大学言語 研究センター)		37-58 頁
形態論的に見たスペイン語 の色彩表現	単著	平成 20 年 5 月	『ロマンス語学研究』 (日本ロマンス語学会) 41号		1-10 頁
その他					
自立言語学批判をめぐって (研究発表)	単著	平成 16 年 3 月	東京外国語大学語学研 究所研究会		
書評: Real Academia Es- pan ola: Diccionario del estudiante, Madrid, San- tillana, 2005, 1537pa'gs.; Real Academia Es- pan ola: Diccionario panhispa'nico de dudas, Madrid, Santillana, 2005, 848 pa'gs.	単著	平成 18 年 8 月	『スペイン語学研究』 (東京スペイン語学研 究会) 21		65-72 頁
スペイン語(辞書項目執 筆)	共著	平成 19 年 1 月	『日本語学研究事典』 (明治書院)	飛田良文他編	86 頁
形態論的に見たスペイン語 の色彩表現(研究発表)	単著	平成 19 年 5 月	日本ロマンス語学会第 45回大会(長崎県立大 学)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 46 年 11 月～現在に至る	日本イスパニヤ学会会員
昭和 49 年 4 月～現在に至る	日本ロマンス語学会会員
昭和 51 年 8 月～現在に至る	東京スペイン語学研究会会員
平成 15 年 6 月～平成 19 年 5 月	財団法人日本スペイン協会評議員
平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本イスパニヤ学会監査
平成 19 年 5 月～現在に至る	日本ロマンス語学会理事
平成 19 年 5 月～現在に至る	財団法人日本スペイン協会理事

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 准教授	氏名 新木 秀和	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育方法の実践例			
小テストの活用		平成 17 年 4 月 ～現在に至る	(授業科目:スペイン語初級)ほぼ2回の講義に1回のペースで、授業内容の小テストを実施して、採点し、学生に返却することにより、きめ細かい学習指導を行なっている。
ビデオ教材の活用および記入レポートの実施		平成 18 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目:ラテンアメリカ研究)具体的イメージの提供による理解力の増進をねらいとして、いくつかのテーマでビデオを活用し、その度、受講生に感想や意見を書かせ、あるいは記述式設問に解答させて、コメントを付して返却した。受講生の理解度を把握することができ、同時に出席チェックや成績評価の材料としても役立っている。
2 作成した教科書、教材			
演習 1 共通テキスト「スペイン語文法読本」の作成および活用		平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	学科全教員の協力で、スペイン語演習 1 用の共通テキスト「スペイン語文法読本」を作成し、授業で使用してきた。これにより、授業内容および進路の統一と連携をはかるとともに、クラス担当教員ごとに密接な連絡を取りつつ効果的に授業運営を実施して、教育上の効果を高めることができています。本テキストは、2 年間の試用期間に内容を検討しつつ改訂をはかり、2009 年 2 月に『スペイン語の世界へ - スペイン語文法入門』として同学社から出版された。2009 度より授業で使用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
エクアドル共和国に関する赴任国概要講義		平成 16 年 4 月 ～現在に至る	エクアドル共和国に関わる実務経験・研究実績(外務省専門調査員時代および以降の調査研究活動期間)を活かして、国際協力事業団(現 国際協力機構)の委託で、エクアドルへの長期派遣専門家に対する赴任国概要講義を毎年あるいは数年ごとに実施してきた。
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
[全面改訂版]ラテンアメリカ 政治と社会	共著	平成 16 年 6 月	新評論	松下洋・乗浩子編。松下マルタ、岸川毅、遅野井茂雄、鈴木茂、浦部浩之、出岡直也、狐崎知己、松下日奈子、小池康弘、 <u>新木秀和</u>	273-291 頁
植民地都市の研究	共著	平成 17 年 3 月	国立民族学博物館地域 研究企画交流センター	中川文雄・山田睦男編。志柿光浩、横山和加子、中岡義介、金七紀男、富田与、石井久夫、萩原八朗、幡谷則子、山崎圭一、日野瞬也、村山祐司、佐藤慎吾、安藤正士、大橋厚子、高田洋子、 <u>新木秀和</u>	187-203 頁
現代ペルーの社会変動	共著	平成 17 年 3 月	国立民族学博物館地域 研究企画交流センター	遅野井茂雄・村上勇介編。後藤雄介、佐々木直美、細谷広美、山脇千賀子、富田与、安原毅、小倉英敬、小林芳樹、 <u>新木秀和</u>	301-314 頁
グローバル化に抵抗するラテンアメリカの先住民族	共著	平成 17 年 4 月	現代企画室	藤岡美恵子・中野憲志編。太田昌国、小林致広、藤岡亜美、狐崎知己、青西靖夫、実松克義、藤田護、石橋純、 <u>新木秀和</u>	20-30 頁
ラテン・アメリカは警告する	共著	平成 17 年 4 月	新評論	内橋克人・佐野誠編。山崎圭一、宇佐見耕一、安原毅、小倉英敬、吾郷健二、岡本哲史、子安昭子、篠田武司、小池洋一、山本純一、 <u>新木秀和</u>	315-336 頁
ラテンアメリカの一次産品輸出産業 - 資料集	共著	平成 18 年 3 月	アジア経済研究所	星野妙子編。小池洋一、植木靖、清水達也、北野浩一、坂口安紀、 <u>新木秀和</u>	117-142 頁
エクアドルを知るための 60 章(編著)	共著	平成 18 年 6 月	明石書店	<u>新木秀和</u> 編。全 60 章のうち 22 の章、および 9 つのコラムを執筆。他 23 名の共著者。	
ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論	共著	平成 19 年 10 月	アジア経済研究所	星野妙子編。小池洋一、植木靖、清水達也、北野浩一、坂口安紀、 <u>新木秀和</u>	253-281 頁
発展途上国における石油産業の政治経済学的分析 - 資料集	共著	平成 20 年 3 月	アジア経済研究所	坂口安紀編。伊藤庄一、堀井伸浩、佐藤百合、吉岡明子、望月克哉、 <u>新木秀和</u>	199-231 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
現代アンデス諸国の政治変動 ガバナビリティの模索	共著	平成 21 年 2 月	明石書店	村上勇介・遅野井茂雄編。岡田勇、富田与、坂口安紀、小倉英敬、藤田護、新木秀和、二村久則	315-341 頁
論文					
エクアドル - 政治変動とネオリベラル経済改革	単著	平成 15 年 11 月	ラテンアメリカ・レポート第 20 巻第 2 号アジア経済研究所		12-19 頁
ガラバゴスにおける社会紛争 - 海洋資源管理問題を中心に	単著	平成 16 年 12 月	人文研究 154 号 神奈川大学人文学会		1-27 頁
グティエレス政権の崩壊とキト住民の反乱 - エクアドルの政治危機	単著	平成 17 年 11 月	ラテンアメリカ・レポート 第 22 巻第 2 号 アジア経済研究所		25-32 頁
エクアドル: コレア政権の政策課題	単著	平成 19 年 5 月	ラテンアメリカ・レポート 第 24 巻 1 号 アジア経済研究所		38-45 頁
その他					
グティエレス政権と先住民運動の現在	単著	平成 15 年 4 月	そんりさ 第 80 号 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク		7-10 頁
オルタナティブを生み出すエクアドル社会の底流	単著	平成 15 年 12 月	月刊オルタ 2003 年 12 月号アジア太平洋資料センター		8-11 頁
現代都市の差別と統合 - キト旧市街における権力とエスニシティ(口頭発表)	単著	平成 16 年 3 月	山田睦男教授退官記念ワークショップ「変動するラテンアメリカ都市と都市システム」於: 国立民族学博物館地域研究企画交流センター		
エクアドル共和国に関する赴任国概要講義	単著	平成 16 年 4 月	国際協力機構 国際協力総合研修所		
エクアドル政治における先住民運動の役割(口頭発表)	単著	平成 16 年 6 月	日本ラテンアメリカ学会第 25 回定期大会(於: 同志社大学)		
エクアドル共和国に関する赴任国概要講義	単著	平成 17 年 9 月	国際協力機構 国際協力総合研修所		



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
エクアドル共和国に関する 赴任国概要講義	単著	平成 18 年 2 月	国際協力機構 国際協 力総合研修所		
大統領選挙に見るエクアド ル情勢(口頭発表)		平成 18 年 12 月	日本ラテンアメリカ学 会東日本研究会(於: 上智大学)		
エクアドル共和国に関する 赴任国概要講義	単著	平成 19 年 4 月	国際協力機構 国際協 力総合研修所		
エクアドルのバナナ産業に おける新しい動向	単著	平成 19 年 6 月	日本ラテンアメリカ学 会第 28 会定期大会(於: 南山大学)		
エクアドル コレア政権の 内政と外交	単著	平成 19 年 7 月	そんりさ 第 108 号 日本ラテンアメリカ協 力ネットワーク 13-16		13-16 頁
ガラパゴスの人間社会を考 える - 最近の関係書から	単著	平成 19 年 10 月	ガラパゴス諸島 第 5 号 日本ガラパゴス研 究会		17-20 頁
( 書 評 ) Deborah J. Yashar 著, Contesting Citizenship in Latin America: The Rise of Indigenous Move- ments and Postliberal Challenge	単著	平成 20 年 3 月	アジア経済 第 49 巻第 3 号 アジア経済研究所 90-96		90-96 頁
エクアドル・コレア政権を どう見るか(口頭発表)	単著	平成 20 年 6 月	日本ラテンアメリカ学 会第 29 回定期大会 (於: 筑波大学)		
エクアドル共和国に関する 赴任国概要講義	単著	平成 20 年 10 月	国際協力機構 国際協 力総合研修所		
バナナ: 農園と食卓をむす ぶグローバル・フルーツ	単著	平成 21 年 2 月	国際交流基金中南米理 解講座「農産物から見る 中南米」		
エクアドルの資源開発と先 住民族運動(口頭発表)	単著	平成 21 年 3 月	日本ラテンアメリカ協 力ネットワーク		
先住民運動と政治社会の 関係 - エクアドルを中心に (口頭発表)	単著	平成 21 年 3 月	「中東欧とラテンアメ リカを比較する」研究会 於: 京都大学地域研究統 合情報センター		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 62 年 6 月～現在に至る	日本ラテンアメリカ学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	歴史人類学会会員
平成 5 年 3 月～現在に至る	米国ラテンアメリカ学会 (LASA) 会員
平成 11 年 3 月～平成 19 年 3 月	(国際共同研究) 国立民族学博物館地域研究企画交流センター「現代ペルーの総合的地域研究」
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A)(1) 54,443 千円 (現代ペルーの社会動態に関する学際的調査研究-比較研究のための視角構築)(研究分担者)
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	(国内共同研究) 国立民族学博物館地域研究企画交流センター「ラテンアメリカ都市における差別と統合」
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	(国内共同研究) 国立民族学博物館地域研究企画交流センター「現代ペルー社会の構造と動態」
平成 14 年 6 月～平成 16 年 5 月	日本ラテンアメリカ学会運営委員
平成 14 年 10 月～現在に至る	歴史人類学会運営委員
平成 14 年 10 月～平成 16 年 3 月	国際協力事業団作業監理委員会(「エクアドル国シエラ南部地域生産活性化・貧困削減計画調査」) 委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 5 月	独立行政法人国際協力機構国内支援委員会(「エクアドル国シエラ南部地域生産活性化・貧困削減計画調査」) 委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	アジア経済研究所研究会(「ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論」) 委員
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	(国内共同研究) アジア経済研究所「ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論」
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	(国内共同研究) 京都大学地域研究統合情報センター「現代アンデスの社会変動」
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 B 12,000 千円 (グローバル化時代の多文化主義と社会運動 - 南北アメリカにおけるアイデンティティ再構築に関する比較研究)(研究分担者)
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A)(1) 30,000 千円 (グローバル化と開発途上国のガバナンス構築 アンデス諸国の比較研究)(研究分担者)
平成 18 年 10 月～現在に至る	日本ガラパゴスの会 (NPO 法人) 会員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	アジア経済研究所研究会(「発展途上国における石油産業の政治経済学的分析」) 委員
平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	(国内共同研究) アジア経済研究所「発展途上国における石油産業の政治経済学的分析」
平成 19 年 4 月～現在に至る	(学内共同研究) 神奈川大学人文学研究所「神々のコスモロジー」
平成 19 年 4 月～現在に至る	(学内共同研究) 神奈川大学人文学研究所「色彩と文化」

年月	内 容
平成 19 年 10 月～現在に至る	日本ガラパゴスの会 (NPO 法人) 評議員
平成 20 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究) 京都大学地域研究統合情報センター「ポスト新自由主義時代のラテンアメリカにおける国家・社会関係の動態に関する比較研究」

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 准教授	氏名 V・カルデロン	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 「21世紀 COE プログラム成果 言語モジュール」—スペイン語	平成 15 年 4 月	東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とした言語情報学 拠点」TUFS 言語モジュール (e ラーニング発音・会話教材) 校閲・作成・出 演 アクセス： <a href="http://www.tufs.ac.jp/">http://www.tufs.ac.jp/</a>	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
ルイス・ブニュエルDVD - BOX 2特製ブックレ ット	単著	平成 18 年 7 月	紀伊国屋書店		16-35 頁
その他					
プログレッシブ西和・和西 辞典		平成 15 年 7 月	小学館		
西和中辞典〔第二版〕	共著	平成 19 年 4 月	小学館	高垣敏博その他	

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
～現在に至る	日本イスパニヤ学会スペイン史学会：カネラ学会会員
平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月	「NHK ラジオスペイン語講座 応用編」日本放送出版協会 原稿執筆協力・校正
平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月	「NHK ラジオスペイン語講座 応用編」NHK ラジオ第二放送ゲスト出演「再掲」

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 助教	氏名 A. バロン・ロペス	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 ゼミ論文		平成 18 年 4 月 1 日	私のゼミでは、3年生からグループと個人で「教育」と「言語」について発表や討論を実践し、4年生ではスペイン語圏に関する卒業論文を、私の監督の下にスペイン語で作成します。それらの経験により、アカデミックな研究方法に慣れる事ができます。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Subete al espanol! 「ス ペイン語で行こう!」	共著	平成 18 年 4 月	朝日出版社	アルトゥーロパロンロペス・高松英 樹・佐藤麻里乃・二宮哲	76p. 頁
Plaza Mayor 2 ソフ ト版	共著	平成 20 年 1 月	朝日出版	パロマ・トレナド/アルトゥーロ・パ ロン/青砥清一/落合佐枝/佐藤邦彦/ 高松英樹/二宮哲/柳沼孝一郎	
論文					
Diccionarios Mono- lingues de Espanol como Lengua Extranjera	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学言語研究セ ンター「神奈川大学言語 研究」第 26 号		
Fosilizacion y Adquisi- cion de Segundas Lenguas (ASL)	単著	平成 20 年 12 月	神奈川大学人文学会人 文研究 166 号		101 頁
その他					
高校生英語弁論大会 (All Kanagawa Inter-senior High school English Oratorical Contest) に おいて講演 「なぜスペ インには BAR がたくさん あるのか?」	単著	平成 17 年 11 月			



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 11 年 5 月～平成 19 年 11 月	DELE (国際スペイン語研究会) 試験官委員会
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本イスパニア学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	東京スペイン語学研究会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	AESLA (スペイン語応用言語協会) 会員
平成 17 年 5 月～現在に至る	CANELA (日本・スペイン・ラテンアメリカ学会) 会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部スペイン語学科	職名 助教	氏名 菊田 和佳子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 文法および学習事項確認の小テストの実施	平成 18 年 4 月 1 日	自宅学習の機会を増やすため、また継続的学習を実践させるために、専攻語の演習科目のすべてで文法および学習事項確認のための小テストを毎回実施している。	
2 作成した教科書、教材 第二外国語学習者向けテキスト「二つの世界で」の作成(共著)	平成 19 年 4 月 1 日	第二外国語学習者用にテキスト「二つの世界で」を作成した。現在は入門スペイン語(B)において使用している。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ポケットプログレッシブ西 和・和西辞典	共著	平成 15 年 11 月	小学館		
Entre dos mundos (二つ の世界で)	共著	平成 18 年 11 月	同学社	丹波美佐子	
西和中辞典(第 2 版)	共著	平成 19 年 4 月	小学館	監修高垣敏博、編集委員大森洋子、落 合佐枝、宮本正美、上野勝広、木村 琢也、長谷川信弥、内田兆史、菊田 和佳子、齋藤華子、中本香、西村君 代、廣康好美、松本健二	
La lengua de las mari- posas (中級読み物「蝶の 舌」- 詳細は注釈付き)	共著	平成 20 年 1 月	朝日出版社	岩根園和, 菊田和佳子	
【晴山式】スペイン語基本 単語速習術	単著	平成 20 年 4 月	語研		
レベル別スペイン語文法ド リル	共著	平成 21 年 1 月	朝日出版	西村君代、菊田和佳子、齋藤華子、高 垣敏博、宮本正美、フランシスコ・バ レラ	
論文					
黄金世紀以降のスペイン語 における人称代名詞弱勢形 の位置の変遷(1)	単著	平成 16 年 3 月	くろしお出版		61-78, 61-78 頁
黄金世紀以降のスペイン語 における人称代名詞弱勢形 の位置の変遷(2)	単著	平成 16 年 8 月	スペイン語学研究第 19 号		
スペイン語の「(助)動詞+ 不定詞」に対する無強勢代 名詞の位置の変遷について の一考察	単著	平成 20 年 3 月	「言語の個性と普遍 性」, 神奈川大学言語研 究センター「言語研究」 特集号		
その他					

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
《口頭発表》黄金世紀以降 のスペイン語における人称 代名詞弱勢形の位置の変遷	単著	平成 16 年 2 月	東京スペイン語学研究 会(東京)		
《口頭発表》スペイン語に おける無強勢代名詞の位置 の変遷について - 近代の文 学作品における代名詞後置 の実態についての予備調査 -	単著	平成 17 年 2 月	東京スペイン語学研究 会(東京)		
《口頭発表》スペイン語に おける不定詞と無強勢代名 詞の融合		平成 18 年 6 月			
《口頭発表》黄金世紀以降 のスペイン語における無強 勢代名詞の位置について		平成 19 年 8 月			
《口頭発表》不定詞に対す る無強勢代名詞の位置の変 遷について		平成 19 年 9 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 4 年 4 月～現在に至る	東京スペイン語学研究会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	日本イスパニア学会会員
平成 11 年 4 月～平成 20 年 3 月	東京スペイン語学研究会編集委員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 (B) 1,300 千円 (スペイン語史における不定詞と無強勢代名詞の融合現象)(研究代表者)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 大里 浩秋	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			なし
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他 中国の大学での講義		平成 17 年 3 月	上海華東師範大学歴史系にて、学部生、大学院生への講義を 2 回行う。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
中国における日本租界 重慶・漢口・杭州・上海	共著	平成 18 年 3 月	御茶の水書房		
環境に刻印された人間活動 および災害の痕跡解説	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進 会議		17-52 頁
論文					
杭州日本租界について	単著	平成 15 年 6 月	人文研究 149 号		
上海歴史研究所所蔵宗方小 太郎資料について	単著	平成 16 年 3 月	人文学研究所報 No.37		
漢口楽善堂の歴史(上)	単著	平成 17 年 3 月	人文研究 155 号		
日華学報	単著	平成 17 年 3 月	人文学研究所報 No.38		
戦前の横浜中華学校での教 科書問題	単著	平成 17 年 4 月	中国研究月報 No.686		
杭州に関わる二つのテーマ	単著	平成 17 年 6 月	『非文字資料研究』No.8		
同仁会と『同仁』	単著	平成 18 年 3 月	人文学研究所報 No.39		
宗方小太郎日記、明治 22 ~25 年	単著	平成 19 年 3 月	人 文 学 研 究 所 報 (No.40)		
在華本邦補給生、第一種か ら第三種まで	単著	平成 19 年 9 月	中国研究月報 61, (9)		17-39 頁
宗方小太郎日記、明治 26 年~29 年	単著	平成 20 年 3 月	人文学研究所報 NO. 41		31-107 頁
その他					
上海の片隅に暮して	単著	平成 15 年 6 月	中国研究月報 03 年 6 月 号		
書評『反逆の獅子 浅原健 三の生涯』	単著	平成 15 年 7 月	神奈川大学評論 45 号		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
歴史問題と日中関係の現在	単著	平成 15 年 11 月	神奈川大学評論 46 号		
書評「黄土の村の性暴力 - 大娘たちの戦争は終わらな い」	単著	平成 16 年 7 月	神奈川大学評論 48 号		
書評「明治前期日中学術交 流の研究」	単著	平成 16 年 12 月	日本歴史		
中国人の歴史認識	単著	平成 17 年 12 月	神奈川大学評論 52		
袁偉時『近代化と歴史教科 書』を読む	単著	平成 18 年 5 月	中国研究月報 06 年 5 月 号		



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 58 年 4 月～現在に至る	中国社会文化学会会員
昭和 60 年 5 月～現在に至る	中国研究所所員
昭和 60 年 11 月～現在に至る	孫文研究会会員
昭和 62 年 1 月～現在に至る	日本現代中国学会会員
平成 5 年 6 月～現在に至る	中国研究所理事
平成 7 年 4 月～現在に至る	中国研究所編集委員会委員
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	日本歴史センター（日中近現代史に関する研究助成）5,560 千円（戦前期日中間における教科書問題の研究）（研究分担者）
平成 14 年 12 月～平成 15 年 12 月	秋田県鹿角市先人顕彰館における展示「石川伍一」で、展示資料を提供し、コメントを作成した。
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（B）10,400 千円（東アジアにおける「学」の連鎖 - 中華民国期の日中間の留学生派遣に関する比較研究）（研究代表者）
平成 16 年 4 月～現在に至る	「中国年鑑」編集委員会委員
平成 18 年 10 月～現在に至る	日本現代中国学会理事

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 鈴木 陽一	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
小説的読法	単著	平成 15 年 12 月	(北京)文聯出版社		
中国の英雄豪傑を読む		平成 15 年 12 月	大修館書店		
歴史と文学の境界		平成 16 年 3 月	頸草書房		
金庸を語る 武俠小説の 魅力		平成 16 年 5 月	御茶の水書房		
論文					
中国の図像についてのノート	単著	平成 16 年 3 月	人類文化研究のための 非文字資料の体系化第一号		
物語の復権を目指して 『中国四大奇書の世界』を 読む		平成 16 年 4 月	丸善『學燈』5月号		
姑蘇繁華圖と 18 世紀中国 における中国リアリズムの 曙光	単著	平成 18 年 6 月	『図像から読み解く東ア ジアの生活文化』		
東アジア生活絵引 中国江 南編	共著	平成 20 年 1 月		福田アジオ、佐々木睦、金美貞、王 京、彭偉文	
その他					
白話小説に見える語り物芸 能に固有の語彙について		平成 15 年 11 月	社会科学院主催「第二回 中国古典小説国際シン ポジウム」(於上海師範 大学)		
COE 第一班公開研究会 「図像から読み解く東アジ アの生活文化」主旨説明	単著	平成 18 年 3 月	COE 人類文化研究のた めの非文字資料の体系 化ニュースレター第 11 号		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 49 年 10 月～現在に至る	日本中国学会会員
昭和 49 年 11 月～現在に至る	中国語学研究会（後、中国語学会）会員
平成元年 6 月～現在に至る	東大中国学会（現中国社会文化学会）会員
平成元年 10 月～現在に至る	東方学会会員
平成 3 年 10 月～現在に至る	現代中国学会会員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	（学内共同研究）神奈川大学「近代東アジアにおける探偵小説の研究」
平成 15 年 4 月～現在に至る	（国際共同研究）文部省 COE「人類文化研究における非文字文化資料の体系化」
平成 15 年 4 月～現在に至る	（学内共同研究）神奈川大学奨励助成金「アジアにおける探偵小説の起源」
平成 19 年 6 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 拠点形成研究（東アジア出版文化の研究）（研究分担者）

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 孫 安石	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
詳細な授業内容の作成と討論の採用		平成 15 年 5 月 1 日	(授業科目:中国近代史特講、孫安石ゼミナル)学生自身の興味、関心を高め、自主的な学習を行うねらいとして、詳細な授業内容を紹介するシラバスを作成し、授業では毎回の進捗をチェックしている。
授業アンケートと E-mail による質問・回答		平成 15 年 5 月 1 日	授業評価についてアンケートを実施し、学生の意見を積極的に取り入れる方向で授業内容を改善した。また、授業中の質問を E-mail から受け付ける方法を採用し、学習内容の共有、相互学習の意義を確認した。
2 作成した教科書、教材			
学生発のメディア教材の作成(中国語学科)		平成 16 年 2 月	中国語学科 3、4 年生を中心に中国社会の様々な問題を取り上げたビデオ教材を制作している。平成 15 年度には「上海の大学生の生活」を取り上げたビデオ教材(45 分)を制作し、平成 16 年度は「大都市上海のゴミ問題とリサイクル」を取り上げたビデオ教材を制作した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			
オフィスアワーの設定		平成 15 年 5 月 1 日	学生に対する学習効果を高める工夫としてオフィスアワーを設定し、学生の相談(教育、生活など)に積極的に応じている。これによって1、2 年生からの学究面からの相談が飛躍的に増加したことを実感できた。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「明六雑誌」とその周辺	共著	平成 16 年 3 月	御茶の水書房		125-144 頁
日中戦争時期における上海 総領事館警察	単著	平成 17 年 4 月	「戦時上海」研文出版社		136-166 頁
「防衛庁防衛研究所史料室 所蔵の無線通信・ラジオ放 送関連文書」	単著	平成 18 年	『戦争・ラジオ・記憶』 勉誠出版社		
「上海市档案馆 ラジオ関 連資料と日中関係史」	単著	平成 18 年	『戦争・ラジオ・記憶』 勉誠出版社		
「外務省外交資料館 無線 電信・ラジオ関連資料」	単著	平成 18 年	『戦争・ラジオ・記憶』 勉誠出版社		
「日中戦争と上海の日本語 放送」	単著	平成 18 年	『戦争・ラジオ・記憶』 勉誠出版社		
「漢口日本租界関係資料」	単著	平成 18 年	『中国における日本租 界』お茶の水書房		
「漢口の都市発展と日本租 界」	単著	平成 18 年	『中国における日本租 界』お茶の水書房		
論文					
上海市档案馆と上海市図書 館のラジオ・無線電関連資 料の調査報告	単著	平成 15 年 4 月	島根県立大学メディア センター『メディアセン ター年報』		
移民都市 - 上海	単著	平成 15 年 4 月	『神奈川大学評論』第 44 号		71-84 頁
漢口の都市発展と日本租界	単著	平成 15 年 5 月	神奈川大学『人文研究』		219-251 頁
「1920 年代の中国におけ る無線電信・ラジオ講演会」		平成 15 年 8 月	『アジア遊学』第 54 号		12-22 頁
「上海的無線広播与日語大 東広播電台」		平成 15 年 10 月	上海市档案馆『租界里的 上海』上海社会科学出版 社		121-130 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
上海市研究と『良友』画報 について	単著	平成 16 年 9 月	非文字資料研究NO.5 (神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議)		
「声音の歴史研究 - 日本所 蔵の中国ラジオ放送関連資 料について」	単著	平成 17 年	神奈川大学『人文研究』		
「歴史研究と図像資料のデ ジタル化」	単著	平成 17 年	『非文字資料研究』 (No.8)		
米国人宣教師と日中戦争、 上海の敵国人集団生活所	単著	平成 17 年	「人文学研究所」第 38 号		79-89 頁
声音の歴史研究	単著	平成 17 年	「人文研究」第 155 号		89-108 頁
「租界と居留地に刻印され た人間活動の営み」	単著	平成 18 年	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム『非文 字資料研究』ニュースレ ター(第 12 号)		
書評『八月十五日の神話』 - 終戦記念日のメディア学 (ちくま新書、2005 年)	単著	平成 18 年	『神奈川大学評論』(第 54 号)		
「戦前中国留学生の『実習』 と『見学』について」	単著	平成 18 年 3 月	『人文学研究所報』		23-31 頁
その他					
「『ベストと近代中国 - 衛生の「制度化」と社会変 容』」(飯島渉著、研文出 版)		平成 15 年 11 月	『中国研究月報』2003 年 11 月号		46-47 頁
「米 国 国 立 公 文 書 館 (NARA) の調査報告」		平成 15 年 12 月	『界限』(鳥根県立大学 メディアセンター報)		4-5 頁
「精緻な歴史研究に出会う 喜び - 中国人留学生と五四 運動」	単著	平成 15 年 12 月	『東方』2003 年 12 月号		24-27 頁
新聞記名記「東アジア共 通の歴史教科書 - 『自国主 義』を超える一歩を期待」	単著	平成 19 年 1 月	『京郷新聞』		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成元年 4 月～現在に至る	韓国現代中国学会会員
平成 7 年 9 月～現在に至る	日本中国社会と文化学会会員
平成 7 年 9 月～現在に至る	日本上海史研究会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本「歴史学研究会」会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本東アジア近代史研究会会員
平成 10 年 4 月～現在に至る	日本上海史研究会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	現代中国学会会員
平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 国際学術研究 1,800 千円（明治期から昭和 20 までの日中文化交流に関する資料の収集と分析）(研究分担者)
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	横浜開港資料館（横浜華僑華人史研究）(研究分担者)
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 B 一般 10,700 千円（20 世紀東アジアにおけるメディア産業の形成と地域社会の変容に関する国際共同研究）(研究代表者)
平成 18 年 4 月～現在に至る	東アジア近代史研究会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 彭 国躍	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 現代中国語入門(共著) 白帝社	平成 17 年 4 月		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
リアルタイムのビジネス中国語入門	共著	平成 15 年 4 月	白帝社	彭国躍、徐峰	
現代中国語入門	共著	平成 17 年 4 月	白帝社	彭国躍監修、松村文芳、徐峰、加藤宏紀編	
神奈川大学入門テキストシリーズ 中国語を学ぶ魅力	共著	平成 20 年 9 月	御茶の水書房	山口建治、松村文芳、加藤宏紀	
論文					
中国語の謝罪発話行為の研究 - 「道歉」のプロトタイプ	単著	平成 15 年 12 月	語用論研究日本語用論学会 (5)		1-16 頁
中国の言語政策とイデオロギー - 「文字革命の発生と挫折」	単著	平成 17 年 3 月	「言語」(3月号)大修館 34, (3)		76-85 頁
現代日本語の謝罪発話行為の類型と機能	単著	平成 17 年 4 月	日本語学(4月号)明治書院 (24)		78-90 頁
中国語の謝罪発話行為のコンテキスト制約 - 大学製の言語意識調査に基づいて	単著	平成 17 年 6 月	『中国語学研究・開篇』早稲田大学文学部 好文出版 (24)		200-212 頁
上海の道路命名年表 - 社会言語学的命名論の基礎研究	単著	平成 19 年 3 月	人文学研究所報 神奈川大学 (40)		31-41 頁
近代上海の路名と戦争 - 歴史社会言語学	単著	平成 19 年 4 月	言語 大修館 36, (4)		92-99 頁
漢代鄭玄が訓釈した古代中国語の対人関係機能について 歴史語用論のアプローチ	単著	平成 19 年 12 月	『語用論研究』(日本語用論学会) 第 9 号		17-36 頁
現代上海の路名と社会命名の社会言語学	単著	平成 21 年 3 月	『中国語研究論集 神奈川大学中国語学科創設 20 周年記念』(神奈川大学外国語学部中国語学科)		115-125 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
その他					
中国語社会語用論の通時的 研究 「年齢質問」発話行 為の事例分析		平成 19 年 12 月	2007 年度日本語用論学 会大会口頭発表		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成元年 4 月～現在に至る	日本語学会会員
平成元年 9 月～現在に至る	日本中国語学会会員
平成 10 年 1 月～現在に至る	日本社会言語科学会会員
平成 14 年 10 月～現在に至る	日本語用論学会会員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	神奈川大学共同研究奨励金 3,000 千円 (20 世紀における中国の言語政策の研究)(研究代表者)
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本語学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 松村 文芳	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 中国語自動学習室1・2の設置と運用		平成11年4月1日	神奈川大学外国語学部中国語学科の学生・院生全員のためのWindows NTによるサーバー・クライアントシステムを作成し、インターネットの閲覧、メールの交換、マルチメディア教材による中国語学習、卒業論文・レポートの作成が実施できる環境を実現し、運用中。
2 作成した教科書、教材 マイクロ・コンピュータの音声情報を利用した中国語自動研修システムの作成		昭和62年8月	・神戸商科大学情報処理センター井内善臣との共同研究により、パソコンを利用して、中国語式ローマ字、簡体字、日本語訳と中国語音声と同調させた中国語自動学習システムを開発・実用化した。関連論文及び新聞記事：①神戸商大『人文論集』第23巻第1号、pp.59-77、②大阪科学技術センター『第6回ソフトウェアコンファランスプロシーディングズ』pp.67-68(1990年3月)、③朝日新聞1986年11月12日(水)夕刊「肉声もでる中国語マイコン」、④神戸新聞1988年6月23日朝刊「中国語の研修システム開発」、⑤神戸新聞1989年12月12日「コンピュータ使った中国語学習」
「王老師の標準中国語シリーズ・発音編」の監修		平成9年8月	株式会社マネージの依頼により、パソコンを使用して中国語の発音を学習するマルチメディア用ソフトウェアを作成し、教材として使用。
「王老師の標準中国語シリーズ・基礎編」の監修		平成10年12月	株式会社マネージの依頼により、パソコンを使用して、中国語の会話及び基礎的文法を学習するマルチメディアソフトを作成し、教材として使用した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
「把構文」と「被構文」に 用いられる「給」の意味と 論理	単著	平成 17 年	語学教育研究論叢、大東 文化大学語学教育研究 所第 22 巻		1-36 頁
現代中国語の魅力にせまる (動詞の基本形式)	単著	平成 20 年 9 月	『中国語を学ぶ魅力』 (御茶ノ水書房)		37-50 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 43 年 12 月～平成 17 年 3 月	日本中国語学会会員
昭和 49 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本中国語学会理事
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本中国語学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本中国語学会評議員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 教授	氏名 山口 建治	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 ゼミ(中国都市伝説研究)のブログ開設	平成 20 年	都市伝説を翻訳し、web 上に載せ、翻訳をチェックするシステムを作って実践している。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『歴史と文学の境界』	共著	平成 15 年 5 月			
論文					
「散楽」日本伝来について の覚え書き	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学<人文研究 >第 1 5 5 集		
その他					
非文字資料としての日本語 を考える――音訓、当て 字、語源――	単著	平成 16 年 6 月	『非文字資料研究』no. 4		
「散楽」の語義の変容	単著	平成 16 年 12 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』第 2 号		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 44 年 5 月～現在に至る	東北中国学会会員
昭和 46 年 10 月～現在に至る	日本中国学会会員
昭和 61 年 10 月～現在に至る	東方学会会員
平成 15 年～平成 20 年 3 月	(受託研究)文部科学省 21 世紀 COE「人類文化研究のための非文学資料の体系化」

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 准教授	氏名 加藤 宏紀	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			なし
2 作成した教科書、教材			
パソコンを利用した授業サポート		平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目：中国語表現法演習Ⅲa(情報))授業で使用した中国語聞き取り教材の音源をデジタル化し、中国語自動学習室でいつでも復習できるように学生の学習環境の整備を図った。同時に、これを利用して、毎週、学生に課題を出し、聞き取り能力の向上に成果を上げた。(平成 15 年 4 月 1 日～)
視聴覚資料の収集・整備と授業への活用		平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	テレビやラジオで放送されている中国番組を録画・録音し、教材の資料として活用する。中国国内のニュースや時事問題を扱った番組からドラマやトーク番組といったものまで幅広い内容をカバーすることで、学生に多様なニーズへの対応を図っている。(平成 15 年 4 月 1 日～)
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
現代中国語の二重目的語構 文とヴォイス構文における 「授与」と「取得」	単著	平成 18 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 第 28 号		25-36 頁
現代中国語の“了 <sub>2</sub> ”の意 味機能の集合論モデル	単著	平成 19 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 (29)		29-42 頁
その他					
二重目的語構文とヴォイ ス構文における「授与」と 「取得」	単著	平成 16 年 11 月	『日本中国語学会第 54 回全国大会予稿集』		130-134 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
	なし

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 准教授	氏名 村井 寛志	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「戦争記憶與民族主義在東 亜的交錯」	単著	平成 17 年 6 月	陳光興・李朝津編『反思 《台湾論》 台日批判圈 的内部對話』、台湾社 会研究季刊社		95-101 頁
「良友畫報與華僑關係網 關於民国時期的上海文化産 業的個案研究」	単著	平成 19 年 7 月	姜進主編《都市文化中的 現代中国》(華東師範大 学出版社)		419-435 頁
論文					
「両大戦間期の中国におけ るメディア論のポリティク ス - 公共圏概念をめぐる両 義性を手がかりに - 」	単著	平成 16 年 1 月	『思想』957 岩波書店		55-72 頁
「民国時期上海の広告とメ ディア」	単著	平成 17 年 1 月	『史学雑誌』114-1、史 学会		1-33 頁
「“地上最強”のポストコ ロニアル トランスアジア 空手研究に向けて」	単著	平成 17 年 12 月	『神奈川大学評論』52、 神奈川大学		87-95 頁
「『良友』画報と華僑ネッ トワーク 香港・華僑圏と の関連からみた“上海”大 衆文化史」	単著	平成 19 年 6 月	『東洋史研究』(東洋史 研究会) 66, (1)		32-60 頁
「上海大衆文化と香港・華 僑資本 『良友』画報の事 例から」	単著	平成 19 年 9 月	『アジア遊学』(勉誠出 版) 103		80-86 頁
その他					
口頭報告「カンダハールを 読む - 映像と他者表象のポ リティクス - 」	単著	平成 15 年 6 月	カルチュラル・タイフー ン 2003 於 早稲田大 学		
書評『摩擦と合作 - 新四軍 1937 ~ 1941』(三好章 著 創土社)	単著	平成 15 年 9 月	中国研究月報 667 号 社団法人中国研究所		51-53 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
翻訳・汪民安「壁の上にか かれた文字」	単著	平成 15 年 10 月	『現代思想』vol.31-12 青土社		146-148 頁
セッションレポート「今、 東アジアをどう見るのか」	単著	平成 16 年 5 月	文化の実践、文化の研究 せりか書房		182 頁
口頭報告「モダンとポスト モダンの裏側で - 「鉄西 区」から - 」	単著	平成 16 年 7 月	カルチュラル・タイフー ン 2004in 沖縄 於 琉 球大学		
口頭報告「20 世紀上海画 報與華僑関係網 關於《良 友》画報的個案研究 」	単著	平成 17 年 12 月	現代中国都市大衆文化 與社会変遷国際検討会、 於華東師範大学		
翻訳・羅素文「近代租界の 欧米建築の文化遺産につい ての試論 上海、天津の二 都市の事例から 」	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学人文学研究 所編『中国における日本 租界 重慶・漢口・杭州・ 上海 』、御茶の水書房		265-290 頁
「中国現代大衆文化与社会 変遷国際検討会」参加報告	単著	平成 18 年 12 月	『近きに在りて』第 50 号		130-132 頁
「戦後も続いていた『良 友』」	単著	平成 19 年 9 月	『アジア遊学』103		88-90 頁



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
	なし

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部中国語学科	職名 外特任助教	氏名 史 芬茹	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
中文心理詞典理 対外 語詞 教学	共著	平成 16 年	『第七届国際 語教学検 討会論文選』		568-576 頁
試 対外 語听力教学	単著	平成 17 年	語言学 用語言学研 究(1)		335-340 頁
建立一 面向欧美学 者的 語口語能力測試	共著	平成 18 年	『語言文字 用増刊』		159-162 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
	なし

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 伊坂 青司	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 パワーポイントの活用	平成 18 年 4 月 1 日	大人数の講義における学生の集中度向上や画像を使用する講義の必要性から、パワーポイントを活用することによって授業運営の改善を行っている。その効果については、学生による授業評価アンケートにも現れている。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
明六雑誌とその周辺	共著	平成 16 年 3 月	御茶の水書房		3-33 頁
生命と人生の倫理	共著	平成 17 年 3 月	放送大学教育振興会		
監訳『シェリング著作集・ 第 3 巻・同一哲学と芸術哲 学』	共著	平成 18 年 3 月	燈影社		167-205 頁
編著『ドイツ・ロマン主義 研究』	共著	平成 19 年 1 月	御茶の水書房	伊坂青司、中井章子、久保陽一、松 山壽一、高橋義人、今泉文子、小田 部胤久、神林恒道	
芸術の始まる時、尽きる時	共著	平成 19 年 3 月	東北大学出版会	栗原隆、神林恒道、加藤尚武、他	
哲学の歴史 第 7 巻 理性 の劇場	共著	平成 19 年 7 月		加藤尚武、小田部胤久、栗原隆、座 小田豊、他	
「徳」の教育論	共著	平成 21 年 2 月	芙蓉書房出版	加藤尚武、草原克豪	
表象としての日本	共著	平成 21 年 3 月	御茶の水書房	日高昭二他	
論文					
ドイツ自然哲学者バーダー に学ぶ「生命エネルギー」 理論	単著	平成 15 年 12 月	『人間会議』冬号		192-195 頁
現代思想と溶解する生と死	単著	平成 16 年 3 月	『神奈川大学評論』第 47 号		33-42 頁
新しい神話の理念とヘーゲ ルの神話論 - 一般哲学概説 講義草稿(1803)の考 察	単著	平成 16 年 9 月	『人文研究』第 153 集 (神奈川大学人文学会)		13-37 頁
Klima und Geschichte bei Herder und Hegel	単著	平成 16 年 12 月	Herder-Studien (10)		111-134 頁
同一哲学における「絶対 者」 - スピノザ哲学との 関連において	単著	平成 17 年 3 月	『理想』第 674 号・理 想社		41-50 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
社会のなかの生命と倫理 - 移植再生医療の最前線	単著	平成 17 年 3 月	『神奈川大学評論』50 号(神奈川大学)		93-100 頁
シェリング同一哲学とヘー ゲル初期哲学体系構想の差 異	単著	平成 18 年 12 月	『ヘーゲル哲学研究』(日 本ヘーゲル学会)(12)		139-154 頁
Identitaetsphilosophie Schellings und die frue- hen Systementwuerfe der Philosophie Hegels	単著	平成 20 年 3 月	Journal of the Faculty of Letters the Univer- sity of Tokyo (32)		
「新しい神話」構想とクリ スト教 - シェリングとヘー ゲルの分岐 -	単著	平成 20 年 10 月	『シェリング年報』(こ ぶし書房)第 16 号		43-47 頁
その他					
シンポジウム「ポストモダ ンとシェリング」司会報告	共著	平成 15 年 7 月	『シェリング年報』第 11 号		46-48 頁
科研費成果報告「ドイツ・ ロマン主義における闇と感 情 - - C・フリードリヒの 絵画を手掛かりにして」	単著	平成 18 年 3 月	『芸術終焉論の持つ歴 史的な文脈と現代的な 意味についての研究』科 研費研究成果報告書		39-51 頁
日本文化と自然哲学 - ヨー ロッパでの体験から		平成 18 年 12 月	あきつ (31)		
現代の生殖医療と家族意識 の変容	単著	平成 20 年 3 月			11-24 頁
進歩史観再考 - ヘーゲル歴 史哲学の自然哲学的基礎づ け -	単著	平成 20 年 3 月			49-60 頁
日本の家庭教育と道徳教育 はどのように変貌してきた か	単著	平成 20 年 6 月	倫理的観点に立った日本 の教育の問題点の解明 及び求められる基本戦 略の研究報告書		54-69 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
～現在に至る	(国内共同研究)「生命倫理と自然哲学」
昭和 49 年 4 月～現在に至る	東北大学哲学研究会会員
昭和 49 年 4 月～現在に至る	東北哲学会会員
昭和 51 年 4 月～現在に至る	日本哲学会会員
平成 4 年 7 月～現在に至る	日本ヘルダー学会会員
平成 4 年 7 月～現在に至る	日本シェリング協会会員
平成 4 年 7 月～現在に至る	日本シェリング協会理事
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本ヘルダー学会理事
平成 9 年 4 月～現在に至る	東北哲学会常任委員
平成 15 年 11 月～現在に至る	社会思想史学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	日本生命倫理学会会員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 ( A ) 1,036 千円 ( 芸術終焉論の持つ歴史的な文脈と現代的な意味についての研究 )( 研究分担者 )
平成 17 年 4 月～現在に至る	日本ヘーゲル学会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 石井 美樹子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 英語教育教材作成	平成 20 年 4 月 1 日 ～ 現在に至る	(授業科目：英語) 英語授業科目全体について。市販の教科書を各授業に応じて使用しているが、BBC や ABC のワールド・ニュースのなかから学生たちの身近な話題や国際関係問題を収録して見せている。また、15 分くらいでできる文法問題を作成し。補助教材として用いている。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
聖母のルネサンス	単著	平成 17 年 9 月	岩波書店		
ヨーロッパの王妃	単著	平成 18 年 6 月	河出書房新社		
イギリスの王室	単著	平成 19 年 8 月	河出書房新社		
マージェリー・ケンプの 書ーイギリス最古の自伝	共著	平成 21 年 1 月	慶応大学出版会	久木田直江	
論文					
白い手のハーマイオニ - 『冬物語における王妃の裁 判と三つの国の文化摩擦』	単著	平成 15 年 9 月	神奈川大学人文学会人 文研究 150 号		
ルネサンスの華エリザベス 一世とホームレスの女性 - 無名の女性たち		平成 15 年 12 月	神奈川大学人文学会人 文研究 151 号		
A Spoon and the Christ Child	単著	平成 17 年	The Dramatic Tradi- tion of the Middle AgesAMS Studies in the Middle Ages		128-139 頁
The Weeping Mothers in Sumidagawa, Curlew River, and Medieval Eu- ropean Religious Plays	単著	平成 18 年	Comparative Drama39, (3,4)		287-305 頁
『オセロ』ーデズデモーナ の白いハンカチ	単著	平成 19 年 9 月	人文研究・神奈川大学 162		5-59 頁
その他					
発表:The Weeping Moth- ers in Noh and Medieval English Religious Drama	単著	平成 16 年 5 月	第 40 回国際中世学会 (西ミシガン大学)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 50 年 10 月～現在に至る	イギリス・フォークロア・ソサイアティ会員
昭和 53 年 10 月～現在に至る	中世英語英文学会（旧中世談話会）会員
昭和 53 年 10 月～現在に至る	日本英文学会会員
昭和 57 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 研究成果公開促進費 850 千円（『中世イギリス劇集』）（研究代表者）
昭和 60 年 10 月～現在に至る	国際学会誌 Comparative Drama 編集委員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 研究成果公開促進費 1,060 千円（『中世ウェイクフィールド劇集』）（研究代表者）
平成 3 年 10 月～現在に至る	イギリス、ケンブリッジ大学クレア・ホール・コレッジの終身特別研究員に推挙される。
平成 20 年 4 月～平成 20 年 12 月	科学研究費補助金 学術図書、研究成果刊行費 240 千円（マージェリー・ケンプの書ーイギリス最古の自伝）（研究代表者）

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 岩本 典子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他 外国語科目教育協議会運営委員  一般英語カリキュラム委員  外国語科目教育協議会ニューズレター「複眼」編集委員  TOEIC 実施小委員会委員  予算委員  国際文化交流学科予算委員長  外国語学研究科英語英文学専攻 入試作問委員  大学院外国語学研究科英語英文学専攻 カリキュラム委員		平成 14 年 4 月 1 日 ~平成 16 年 3 月 31 日  平成 14 年 4 月 1 日 ~平成 17 年 3 月 31 日  平成 15 年 4 月 1 日 ~平成 16 年 3 月 31 日  平成 15 年 4 月 1 日 ~平成 17 年 3 月 31 日  平成 17 年 4 月 1 日 ~平成 18 年 3 月 31 日  平成 18 年 4 月 1 日 ~平成 19 年 3 月 31 日  平成 19 年 4 月 1 日  平成 20 年 4 月 1 日	運営委員として、習熟度別クラス導入等（新たに中国語科、スペイン語科）カリキュラムの調整を行った。（平成 14 年 4 月 1 日～）  工学部の JABEE 対応に伴うカリキュラムの改革を含み、新しい教育目標に対応すべく、横浜キャンパスにおける一般英語全クラスの編成を行なった。（平成 14 年 4 月 1 日～）  外教協のニューズレターの編集を担当。（平成 15 年 4 月 1 日～）  横浜キャンパスの 1 年生を対象に TOEIC BRIDGE TEST を初めての試みとして実施した。（平成 15 年 4 月 1 日～）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
------------	-----	-----

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
副詞的表現をめぐって	共著	平成 17 年 3 月	ひつじ書房 233-250		
論文					
Making offers, accepting and turning down offers: doing it politely in English and Japanese	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学言語研究センター「神奈川大学言語研究」第 26 号		133-160 頁
Speech Act Theory and its usefulness in Applied Linguistics	単著	平成 16 年 6 月	英語学論説資料第 36 号 2 分冊 [語用論]		64-88 頁
The role of language in advancing nationalism	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学人文学研究所 人文学研究所報 No.38		91-113 頁
Making offers, accepting and turning down offers: doing it politely in English and Japanese	単著	平成 18 年 6 月	英語学論説資料第 38 号 6 分冊 [英語教育]		35-49 頁
Making offers, accepting and turning down offers	単著	平成 18 年 9 月	日本語学論説資料第 41 号 5 分冊 二 言語学		791-805 頁
Stylistic and linguistic analysis of a literary text using systemic functional grammar	単著	平成 19 年 9 月	『人文研究』 神奈川大学人文学会 No. 162		61-96 頁
『LIFE』の伝えた真珠湾攻撃	単著	平成 19 年 9 月	『アジア遊学』 勉誠出版 103		134-41 頁
観念構成的比喩について	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学言語研究センター「神奈川大学言語研究」『言語の個別性と普遍性』『言語の個別性と普遍性』特集号		217-238 頁
Modality and point of view in media discourse	単著	平成 20 年 3 月	『人文研究』神奈川大学人文学会 No. 163		
その他					

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
新聞の文体に見られるナシ ヨナリズム - ワールドカッ プと戦争	単著	平成 15 年 11 月	横浜「言語と人間」研究 会 11 月例会、30 周年記 念講演会、神奈川大学に て		
カリキュラム委員より - 現 状報告とお願い -	単著	平成 15 年 11 月	神奈川大学外国語科 目教育協議会ニューズ レター「複眼」No.5, 2003.11.7		
Japanese wartime and peacetime newspaper discourses: World War Two and FIFA World Cup Games in Japan	単著	平成 16 年 9 月	第 37 回 英国応用言 語学会 ロンドン大学 King's College にお いて		
依頼・提供表現の日英比較: スピーチ・アクトと敬意表 現の観点から	単著	平成 17 年 1 月	対照言語行動学第 3 回 研究会 江戸川総合区 民ホールにて		
新聞の文体にみられるナシ ヨナリズム: ワールド・カッ プと戦争	単著	平成 17 年 2 月	「言語と人間」研究会 会報 No.40		4 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 6 年 4 月～現在に至る	大学英語教育学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本言語学会会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	英国応用言語学会 (British Association for Applied Linguistics) 会員
平成 7 年 7 月～現在に至る	日本機能言語学会会員
平成 10 年 7 月～平成 15 年	英国 Poetics and Linguistics Association 会員
平成 12 年 12 月～現在に至る	語学教育研究所 (語研) 会員
平成 17 年 9 月～現在に至る	日本語用論学会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 岡島 千幸	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 教育方法の実践例	平成 20 年 4 月 1 日	学生による授業評価アンケートにより、板書方法や配布資料の改善、また、月に1回程のsmallテストを兼ねたアンケートを行い、学生の要望を講義に反映させている。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「社会」という訳語について	共著	平成 16 年 3 月	神奈川大学人文研究所 叢書 20『『明六雑誌』と その周辺』(御茶の水書 房)		
論文					
「西部の蜂起」について (2)	単著	平成 17 年 12 月	「人文研究」157 集神奈 川大学		
「ヨーロッパ悪魔学と近代 社会の誕生」	単著	平成 18 年 7 月	神奈川大学評論 第 54 号(特集 科学文明と魔 術の森)		
その他					
「(ヘンリ 5 世妃) キャサ リン・オブ・ヴェロア」	単著	平成 16 年 10 月	「プリンセス・ダイアナ と英国王室物語」別冊歴 史読本第 29 巻 28 号、 No.690 新人物往来社		
神奈川大学の基本科目と基 礎ゼミナールの改編および 廃止によせて『神奈川大学 基本科目教育協議会 13 年 間の歩み』	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学基本科目教 育協議会		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
	なし

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 奥田 宏子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例  大学院学生の研究発表会  独自の授業アンケートの作成と実施  インターネット利用の英作文指導  学生用授業日誌の考案  小クラスにおける発表能力の訓練  基礎英語力育成メソッドの考案  学生による授業評価アンケートの結果活用	平成 11 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日  平成 11 年 4 月 1 日  平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日  平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日  平成 16 年 4 月 1 日 ~ 現在に至る  平成 16 年 4 月 1 日 ~ 現在に至る  平成 16 年 4 月 1 日 ~ 現在に至る	大学院での講義において学生各自の知的な独立心を育成するため、一年かかって自己のテーマを追求させ、その成果を2月に研究発表で皆の前で発表、その課程で配布資料の作成法を学ばせる。  大学が例年実施する授業評価アンケートに加えて、独自に作成したより詳細なアンケートを前期と後期にすべてのクラスで実施し、学生のニーズを把握する手立てとし、また今後の授業改善への手掛かりとして積極的に活用している。  英作文(初級クラス)でインターネットのeメールによる作文提出を求め、添削を画面上で行なって返送することにより、授業にマルチメディア機器を活用した。学生が学習面でもeメールを活用するきっかけになると同時に、学生とのコミュニケーションの効果もあった。  英語クラスの全学生にクラスごとに短い授業日誌をつけさせ、毎回の授業で最重要と思われる点を確認、キーワード2語を選択させる。授業中に聞けなかった質問などにその日誌を読むことで答えることができ、学生とのコミュニケーションにも役立っている。  1年生対象のFYSにおいて20人程度の小集団における討論の導入、発表能力の育成、意見形成の促進、などを目指す中で、討論をリードする訓練、討論の結果を報告する訓練、口頭によるプレゼンテーションの訓練、パワーポイントなどを使用して資料を提示する訓練など、を行う。  専門課程に進む前の1、2年生の英語基礎力育成のために、3年次以降に必要な専門書の読解力と実用的な会話力のバランスの達成をめざす独自の授業法(速読の訓練、時事英語への関心強化、自由作文の訓練など)を工夫して実践する。  学生による授業評価アンケートにおいてスライドやDVDなどヴィジュアル教材の教育効果を確認し、また学生のヴィジュアル教材への高い関心を受けて、講義科目(「聖書と文化」「文化比較論」など)において、これまでより更にヴィジュアル面の充実を図っている。パワーポイントを使ってパソコンのファイルに常時蓄積している視聴覚資料や教材を提示、また海外から取り寄せたDVDなど珍しいヴィジュアル教材を用いて、講義に新鮮味と具体性を加え、ヴィジュアル時代を生きる学生が授業内容に関心をもつよう努力している。	

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>チームワーク体制による英語指導</p> <p>クラス活性化のためのペア単位のトレーニング</p> <p>英語授業における副読本の活用による文法の復習</p> <p>学生の主体的授業参与を促進する工夫</p>	<p>平成 17 年 4 月 1 日</p> <p>平成 18 年 4 月</p> <p>平成 18 年 4 月</p> <p>平成 18 年 4 月 1 日</p>	<p>30人サイズの英語授業で1チーム5人ぐらいの学生から成るチームを6ぐらい作り、1ページ程度の英文を速読させて、チーム体制でキーワードの発見、内容の要約、をさせると、個々の学生が神妙に勉強するよりも、楽しくチームで課題に取り組むので、クラスが活性化し教育効果も上げることができた。</p> <p>30名規模の英語クラスの場合、クラス活性化の工夫として学生に2名ずつのペアを組ませることにより積極的な授業参加を促進させることができる。読解クラスではペア内でテキストの英文内容を短い時間で要約して相互チェックさせる、会話クラスではペア単位でテーマ毎に役割を演じさせる、など受身の授業からの脱却に向かって徐々に成果を上げている。</p> <p>習熟度別の英語クラス（とくに1年生）で初級レベルの学生には高校3年までの英語を総復習し再度基礎固めの必要があるケースも多いため、このレベルの授業では主テキストの他に文法事項を中心とする副読本を使用し毎回の授業の冒頭で練習問題をさせ、小テストなどを実施して、集中的な基礎力アップを図る。</p> <p>クラスサイズにもよるが、すべての学生に発言する機会を与える授業や講義はなかなか困難であるため、学生は受身になりがちであるが、教育効果を上げるためには学生の主体的参与が求められる。そこで毎回の講義で白紙を配布し、講義の中核部分を展開した直後、問題提起をし、10分以内で各自の主体的な意見・コメントを書かせている。講義後すぐに目を通し、コメントを書いて翌週に返却する。学生の理解度を把握できるうえ、学生が主体的に問題を受けとめ、思考を掘り下げる訓練となり、成果を上げている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>ゼミ《討論資料》の作成</p> <p>教材《小テスト》</p> <p>教材《学習のヒント》</p>	<p>平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る</p> <p>平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る</p> <p>平成 16 年 4 月 1 日 ～現在に至る</p>	<p>講義や演習科目において 受講生を討論に参入させるべく、毎回テーマを選んで、そのための資料を作成、配布する一方、討論後に結果をゼミ生に記録させて提出させる。</p> <p>1、2年生向けの英語授業において、前週のレッスンの理解度を確認するために&lt;小テスト&gt;を考案し、実施する。翌週に答案を返却することで学生自らの進歩のきっかけを作る</p> <p>英語の授業で使用しているテキストの各章に対してオリジナルの《学習ヒントと設問》を作成し、授業開始時にまずそれに15分かけて解答させることで予習のチェックと同時に授業を受ける前に独力で理解に至らせる工夫</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>2002 年度前期授業評価アンケート結果</p> <p>2002 年度後期授業評価アンケート結果</p>	<p>平成 14 年 7 月</p> <p>平成 14 年 12 月</p>	<p>[授業科目：英語作文・初級Ⅰ] 学生による授業評価アンケートの項目「教員は学生を積極的に授業に参加させようとした」で高く評価された（満足度90%；5点満点の4.5点）</p> <p>[授業科目：英語（理解）上級] 学生による授業評価アンケートの項目「教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか」で高い評価を得た（満足度90%；5点満点の4.5点）</p>

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
2002 年度後期授業評価アンケート結果	平成 14 年 12 月	[授業科目：英語理解・上級] 学生による授業評価アンケートの4項目「教員の板書の仕方、補助教材の使い方は適切だったか」「教員は学生を積極的に授業に参加させようとしたか」「指定された教科書または参考書および配布された資料は授業の理解に役立ったか」「この授業を受講して新たな発見があったか」で高い評価を得た（満足度90%；5点満点でいずれも4.5点）
2002 年度後期授業評価アンケート結果	平成 14 年 12 月	[授業科目：英語作文・初級] 学生による授業評価アンケートの項目「教員は学生を積極的に授業に参加させようとしたか」「この授業を受講して新たな発見があったか」の項目でそれぞれ高い評価を得た（満足度90%；5点満点でいずれも4.5点）
2004 年度前期授業評価アンケート結果	平成 16 年 7 月	[授業科目：英語（理解）ⅠA] 学生による授業評価アンケートの項目「教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか」で高い評価を得た（満足度90%；5点満点の4.5点）
2004 年度後期授業評価アンケート結果	平成 16 年 12 月	[授業科目：英語（理解）上級] 学生による授業評価アンケートの項目「教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか」で高い評価を得た（満足度90%；5点満点で4.5点）
2006 年度後期授業評価アンケート結果	平成 18 年 12 月	[授業科目：英語作文・初級] 学生による授業評価アンケートの9項目「教員はこの授業のねらいや達成目標を常に明確に示したか」「この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか」「教員の話し方は明確で学生を引き付けるものだったか」「この授業は学習意欲や興味が増すように創意工夫されていたか」「教員に授業に取り組む熱意を感じたか」「教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか」「使用した教科書、参考書、配布資料は授業の理解に役立ったか」「教員は授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか」「この授業は全体として満足な内容だったか」で高い評価を得た（満足度94%；5点満点でいずれも4.7点）
2006 年度後期授業評価アンケート結果	平成 18 年 12 月	[授業科目：英語リスニング・初級] 学生による授業評価アンケートの10項目「教員はこの授業のねらいや達成目標を常に明確に示したか」「この授業の内容に興味もしくは関心が持てたか」「教員の話し方は明確で学生を引き付けるものだったか」「教員の板書の仕方や視聴覚教材（スライド、OHP、VTR等）は分かりやすかったか」「この授業は学習意欲や興味が増すように創意工夫されていたか」「教員に授業に取り組む熱意を感じたか」「教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしたか」「使用した教科書、参考書、配布資料は授業の理解に役立ったか」「教員は授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示したか」「この授業は全体として満足な内容だったか」で高い評価を得た（満足度94%；5点満点でいずれも4.7点）
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 学生による授業評価アンケートの実施（前期・後期）	平成 14 年 7 月 ～平成 20 年 12 月	神奈川大学自己点検・評価全学委員会による全学レベルの授業評価（アンケート）に参加して、担当課目の学生による評価を実施した。項目として「教員の熱意」および「積極的授業参加への工夫」において、良い評価を得た。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
チヨースー中世イタリアへの旅	単著	平成 15 年 7 月	御茶の水書房(神奈川大学評論ブックレット 23)		
論文					
「墓と飼葉桶 ヨーロッパ中世における演劇の発生」	単著	平成 17 年 6 月	『能と狂言』(能楽学会)第 3 号		119-124 頁
その他					
この世という舞台で	単著	平成 15 年 4 月	週言(神奈川新聞 4 月 6 日号)		
イタリアの新聞をウォッチング(視座「情報を読み解く第 1 回」)	単著	平成 15 年 5 月	神大通信「神大スタイル」No. 243		
母の名	単著	平成 15 年 5 月	週言(神奈川新聞 5 月 11 日号)		
日本語を忘れた人	単著	平成 15 年 6 月	週言(神奈川新聞 6 月 15 日号)		
王者の宿と貧者の宿	単著	平成 15 年 7 月	週言(神奈川新聞 7 月 20 日号)		
子供に甘い社会	単著	平成 15 年 8 月	週言(神奈川新聞 8 月 24 日号)		
カリフォルニアのバラ	単著	平成 15 年 9 月	週言(神奈川新聞 9 月 28 日号)		
日本じゃないみたい	単著	平成 15 年 11 月	週言(神奈川新聞 11 月 2 日号)		
「遠い人」へ	単著	平成 15 年 12 月	週言(神奈川新聞)12 月 7 日号		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 56 年 4 月～現在に至る	中世英語英文学会会員
昭和 56 年 4 月～現在に至る	日本英文学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	シェイクスピア学会会員
昭和 61 年 9 月～現在に至る	弁論大会審査員（審査員）静岡県高等学校英語弁論大会審査員
昭和 61 年 9 月～現在に至る	講演同時通訳・国際社会福祉会議静岡大会講演会通訳
昭和 62 年 5 月～現在に至る	新チヨ－サー学会会員
平成元年～現在に至る	人文学会常任委員（部会外選出）平成 1・2、5・6、11・12 年度委員
平成 2 年～現在に至る	アストン大学派遣学生面接委員（部会外選出）平成 2 年度委員
平成 2 年～現在に至る	入試作問委員（部会外選出）平成 2・3、7・8、10 年度委員
平成 3 年～現在に至る	運営委員（英語部会選出）平成 3 年度委員
平成 3 年 10 月～現在に至る	日本比較文学会会員
平成 3 年 11 月～現在に至る	中世劇国際学会会員
平成 4 年～現在に至る	カリキュラム委員（英語部会選出）平成 4・5 年度委員
平成 5 年～現在に至る	「学問への誘い」編集委員（部会外選出）平成 5 年度委員
平成 5 年～現在に至る	昇任人事委員会委員（部会外選出）平成 5、10 年度委員
平成 5 年 2 月～現在に至る	チヨ－サー研究会会員
平成 5 年 4 月～現在に至る	国際ア－サー王学会会員
平成 6 年～現在に至る	連絡委員（英語部会選出）平成 6 年度委員
平成 7 年～現在に至る	図書館運営委員（部会外選出）平成 7・8 年度委員
平成 8 年～現在に至る	採用人事選考委員（英語部会選出）平成 8、12 年度委員
平成 11 年 2 月～現在に至る	神奈川大学人文学会懸賞論文「論文部門」審査審査員
平成 11 年 4 月～現在に至る	大学院入試作問委員会委員



年月	内 容
平成 13 年～現在に至る	予算委員（英語部会選出）平成 13 年度委員
平成 13 年 2 月～現在に至る	神奈川大学人文学会懸賞論文「小説部門」審査審査員
平成 14 年 3 月～現在に至る	修士論文副査（大学院）論文審査員
平成 14 年 3 月～現在に至る	修士論文主査（大学院）論文審査員
平成 15 年 2 月～現在に至る	修士論文副査（大学院）論文審査員
平成 16 年 4 月～現在に至る	（学内共同研究）神奈川大学人文学研究所「自然観研究」グループ「自然観の研究」
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	大学基準協会相互評価分科会主査
平成 18 年 4 月～現在に至る	大学基準協会評価委員
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	大学基準協会相互評価分科会主査
平成 20 年 4 月～現在に至る	セクシュアル・ハラスメント対策委員会対策委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 佐藤 夏生	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 レポート執筆指導	平成 14 年	<p>(授業科目：基礎ゼミナール)ヨーロッパの歴史の中から各自自主的にテーマを見つけて、30 枚レポートを夏休みの課題とし、秋に発表させた。教員の講評を配布したら、その時から学生たちの目の色が変わったような気がした。苦労して執筆したものについて加えられる批評にじっと耳を傾けたようだった。冬休みにはヨーロッパと日本をテーマに 5 枚まとめる課題。図書の利用法・レポートの書き方(30 枚と 5 枚でとでは何が違うのか、も含めて)をヨーロッパ史を学びながら教えることができた。</p>	
2 作成した教科書、教材 フランス語教授法改革にともなう共通科書作成	平成 15 年 3 月	<p>従来の文法・講読中心の教授法を廃して、コミュニケーション主体の教育に変革。初級 A をコミュニケーション(表現)とし、B をコミュニケーション(理解)とする。A で平易な口語表現を学ばせ、意志疎通のために必要最低限の文法を B で教える。このようなシステムのプランを立ち上げ、教材 A をフランス人講師と日本人講師に執筆してもらい、教材 B を西野助教授と佐藤で執筆する。平成 12 年度前期、後期を作成し、13 年度には改良版を出した。さらに 14 年度、15 年度も改良版を作成。これらの改良のためには、授業での学生アンケート結果をまとめ、使用する非常勤講師の方々のご意見をうかがい、その上で執筆者 4 人が討論を重ねた。</p>	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 語学教育協議会運営委員 語学教育協議会運営委員会自己点検評価委員 語学教育協議会運営委員会自己点検評価委員	平成 8 年 7 月 平成 10 年 6 月 平成 12 年 3 月	<p>犬飼委員長のもとで、運営委員会で初習外国語教育について検討。 自己点検評価報告書の一般外国語部分の執筆担当。 次期委員長の執筆した報告書のうち、一般外国語の部分について検討。</p>	

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
語学 (外国語) 教育協議会副会長	平成 12 年 4 月	会長とともに協議会の運営にあたる。
一般外国語検討委員会座長	平成 12 年 5 月	協議会のなかの小委員会を発足させる。月 3 回にわたり、学期制への移行のための検討、各外国語科目の教育内容についての説明により相互理解、履修のための学内配布物の検討、本学におけるこれからの外国語教育、その他。出席者第 1 回は 12 名。第 1 回、第 3 回に教務課から旗本氏の出席。討議時間合計 6 時間 20 分。討議内容はまとめとして記録、平成 12 年度第 2 回総会資料として配布。(平成 12 年 5 月、6 月、9 月)
一般外国語検討委員会座長	平成 13 年 10 月	10 月 24 日開催、出席者 12 名、討議内容はまとめとして記録。平成 13 年度第 2 回総会資料として配布される。
教育上の能力に関する大学等の評価	平成 14 年 12 月	初級クラス A および B (学生数 30 名・26 名) の授業評価が高かった。仕事だから当たり前前で、本当は書きたくない。(上級、中級は学生数が少なかったため、評価が良くても悪くても正当な評価かどうか?)

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
スタール夫人、人と思想 185	単著	平成 17 年	清水書院		
論文					
その他					
プロムナード・アン・フラ ンセ - 表現・文法・コミュ ニケーション -	共著	平成 16 年 4 月	駿河台出版社		
神奈川大学人文研究所・自 然観研究グループ発表会 セナンクール其自然観 - オーベルマン(第2版)を 中心にして-		平成 20 年 9 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会会員
昭和 54 年 4 月～現在に至る	日本十八世紀学会会員
昭和 60 年 3 月～現在に至る	スタール夫人学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 鈴木 修一	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 18 年 4 月 1 日	(哲学Ⅰ)平成 17 年前期授業評価アンケート評価を受け、内容をわかりやすくするため、板書の工夫、補助テキストを使用するなど、授業運営の改善活動を行った。	
問答法の採用	平成 18 年 4 月 1 日	(文化受容論/国際文化論Ⅲ) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるために学生との問答法をとり入れ、改善をはかった。考えながら授業に出てもらうようになった。	
テキストの音読	平成 18 年 4 月 1 日	(哲学Ⅰ/文化受容論/国際文化論Ⅲ) テキスト・補助テキストを声を出して読んでもらう。アトランダムに指名して音読してもらうので予め、漢字等の読み、意味を調べてもらうため、授業での緊張感が持続できるようになった。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『明六雑誌』とその周辺	共著	平成 16 年 3 月	御茶の水書房		35-94 頁
論文					
西周「人生三宝説」を読む	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学人文学研究所編(『明六雑誌』とその周辺)		35-94 頁
西周「人生三宝説」を読む (二)	単著	平成 17 年 12 月	神奈川大学『人文研究』 157 号		29-57 頁
西周「人生三宝説」を読む (二)	単著	平成 17 年 12 月	神奈川大学人文学会「人 文研究」第 157 号		29-57 頁
西周「人生三宝説」を読む (三)	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学人文学会「人 文研究」第 158 号		1-24 頁
西周「人生三宝説」を読む (四)	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学人文学会「人 文研究」第 164 号		1-27 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 44 年 4 月～現在に至る	東京都立大学哲学会会員
昭和 48 年 4 月～現在に至る	日仏哲学会会員
昭和 50 年 4 月～現在に至る	日本現象学会会員
昭和 51 年 4 月～現在に至る	日本哲学会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 塚田 眞幸	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 「ドイツ語ハンドブック」 「ドイツ語大好き！」	昭和 62 年 2 月 平成 18 年 4 月	ドイツ語入門用文法教科書 ドイツ語入門用文法教科書	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 外国語科目教育協議会 一般外国語検討小委員会委員長としての活動	平成 14 年 10 月	「外国語科目に関するアンケート」を実施した。学生の学習動向を知るためである。一般外国語 1420 名(中 425, 独 304, 西 189, 仏 206, 朝 192, 露 104)、英語 466 (サンプリング数) 名の履習者から回答を得た。この集計をもとに、これからの外国語教育のあり方に生かすべく、検討・分析の作業中をした。(平成 15 年 4 月 1 日～)	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ハロー！ドイツ語を話してみようか	共著	平成 16 年 2 月	三修社		
ドイツ語大好き！	共著	平成 18 年 4 月	郁文堂		
論文					
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
～現在に至る	日本比較文学会会員
昭和 44 年 4 月～現在に至る	日本独文学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 堤 正典	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 ロシア語履修者のための懇談会の開催	平成 12 年 12 月 19 日 ～現在に至る	ロシア語を履修する学生のロシア及び関連地域に関する知識を深めるためにロシア等の関係者を招いて「ロシア言語文化懇談会」を年数回開催している。(平成 12 年 12 月 19 日～)	
2 作成した教科書、教材 『21 世紀のロシア語』(大学書林) 「現代ロシア語の諸相」(PowerPoint による)	平成 15 年 4 月 1 日 平成 17 年 5 月 14 日	予備知識を持たない人を対象としたロシア語についての概説。PowerPoint によりプレゼンテーションするために作成した。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 外国語科目教育協議会委員および運営委員としての活動	平成 8 年 6 月 7 日 ～現在に至る	本学横浜キャンパスにおける外国語科目教育の充実と円滑な運営を行うため、その計画・立案等を行ってきた。(平成 8 年 6 月 7 日～平成 15 年 3 月 31 日、平成 16 年 4 月 1 日～)	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
21世紀のロシア語	共著	平成15年4月	大学書林	安德二一ナ、木村英明、柴田信子、杉山秀子、堤正典、中本信幸	70頁
新しい文化のかたち 言語・思想・暮らし	共著	平成17年1月	御茶の水書房	水野晴光、中本信幸、堤正典、他	47-62頁
副詞的表現をめぐって 対照研究	共著	平成17年3月	ひつじ書房	武内道子、国広哲弥、堤正典、他	47-63頁
世界のロシア語2003 口上 シア連邦外務省報告書 巻	共著	平成18年3月	東京外国語大学語学研 究所・筑波大学外国語セ ンター	中澤英彦、白山利信、堤正典、他	127-134, 135-154頁
世界のロシア語2003 口下 シア連邦外務省報告書 巻	共著	平成19年3月	東京外国語大学語学研 究所・筑波大学外国語セ ンター	中澤英彦、白山利信、堤正典、他	16, 20-21, 94, 103頁
世界から見た日本文化 多文化共生社会の構築のため に	共著	平成19年3月	御茶の水書房	伊坂青司、ドミトリ・ラゴージン、 堤正典、他	153-161頁
ロシア語学と言語教育	共著	平成19年10月	東京外国語大学	中澤英彦、小林潔、堤正典、他	27-34頁
ロシア語学と言語教育 II	共著	平成20年3月	東京外国語大学	堤正典、匹田剛、他	79-87頁
論文					
ロシア語初等学習者のための 文法と語彙 名詞	単著	平成16年3月	『神奈川大学言語研究』 (神奈川大学言語研究セ ンター)第26号		47-64頁
その他					
書評: Alan Timberlake, A Reference Grammar of Russian, Cambridge UP, 2004, v + 503p.	共著	平成17年10月	『ロシア語ロシア文学研 究』(日本ロシア文学会) 第37号	堤正典、匹田剛	149-152頁
ロシア語における記述文法 と参照文法	共著	平成19年10月	日本ロシア文学会2007 年度(第57回)定例総 会・研究発表会 於千 葉大学(西千葉キャンパ ス)	堤正典、匹田剛	

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
受容の語学から文化の発信 へ(討論者を担当)	単著	平成 21 年 3 月	日本スラヴ人文学会 設立記念シンポジウム 「スラヴ人文学の幕開 け」 於神奈川県(横 浜キャンパス)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 59 年 5 月～現在に至る	日本ロシア文学会会員
昭和 60 年 4 月～現在に至る	岩崎研究会会員
平成 2 年 5 月～現在に至る	日本音声学会会員
平成 2 年 6 月～現在に至る	日本言語学会会員
平成 7 年 4 月～現在に至る	(学内共同研究) 神奈川大学人文学研究所共同研究グループ「文化のかたち」
平成 7 年 10 月～現在に至る	JSSEES ( Japanese Society for Slavic and East European Studies 日本スラブ東欧学会) 会員
平成 7 年 10 月～現在に至る	ロシア・東欧学会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	日本西スラヴ学研究会会員
平成 13 年 3 月～現在に至る	アメリカ言語学会 ( Linguistic Society of America) 会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	JSSEES ( Japanese Society for Slavic and East European Studies 日本スラブ東欧学会) 理事
平成 13 年 10 月～平成 15 年 9 月	日本ロシア文学会評議員
平成 13 年 10 月～現在に至る	日本ロシア文学会関東支部運営委員
平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学共同研究奨励金「言語における普遍性と個別性 いわゆる「副詞」の研究」
平成 15 年 10 月～平成 19 年 9 月	日本ロシア文学会学会誌編集委員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	(受託研究) 科学研究費補助金 基盤研究 ( B ) 「日露新時代の社会的・言語的現状に対応したロシア語教育文法構築に関する総合的研究」 ( 12,400 千円 )
平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター共同研究グループ「CALLシステムに対応するロシア語教材開発の研究」
平成 17 年 4 月～平成 8011 年	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター共同研究グループ「言語の普遍性と個別性 文法論と語用論との接点現象」
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 ( B ) 1,240 千円 ( 日露新時代の社会的・言語的現状に対応したロシア語教育文法構築に関する研究 ) ( 研究分担者 )
平成 18 年 7 月～現在に至る	日本ロシア文学会ロシア語教育委員
平成 19 年 4 月～平成 8011 年	(学内共同研究) 神奈川大学共同研究奨励金「世界の色の記号に関する実証研究 - 自然・言語・文化の諸相 - 」
平成 19 年 5 月～現在に至る	JSSEES ( Japanese Society for Slavic and East European Studies 日本スラブ東欧学会) 編集委員

年月	内 容
平成 20 年 4 月～平成 30 年 3 月	(受託研究) 科学研究費助成金 基盤研究(C)「非専攻課程のための新しいロシア語習得基準と教育内容に関する総合的研究」(3,400 千円)
平成 20 年 4 月～平成 30 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学共同研究奨励金「統語論的および御用的アプローチによるモダリティの対照研究」
平成 20 年 4 月～平成 30 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター共同研究グループ「ロシア語習得基準の研究  新しいロシア語習得基準策定のための諸問題の検討」
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究(C) 340 千円 (非専攻課程のための新しいロシア語習得基準と教育内容に関する総合的研究)(研究代表者)



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 デビッド・アリン	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Literacy in American education and its relation to teaching English as a second language	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学言語研究第 26 号(26)		182-190 頁
English activities in Japanese public elementary schools: An observational study.	共著	平成 17 年 1 月	Proceedings of the 9th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics		15-25 頁
Applying Rasch measurement to the analysis of entrance exam item types	共著	平成 17 年 3 月	神奈川大学言語研究(27)		85-105 頁
Student orientation to grammatical aspects of interaction in group work.	共著	平成 17 年 3 月	神奈川大学言語研究(27)		45-59 頁
Meeting the challenges of English activities in Japanese public elementary schools.	共著	平成 17 年 4 月	The Language Teacher, 29(4)		15-19 頁
Challenges of group work production in Japan: Solutions via conversation analysis.	共著	平成 17 年 6 月	Conference proceedings of PAC5 at FEELTA 2004		195-197 頁
The effects of technology on language learning research in Japanese elementary school English classes	共著	平成 17 年 8 月	Foreign Language Education and Technology (FLEAT) 5 Proceedings		113-114 頁
Observing Japanese public elementary school English activities.	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of the Japan Association for Language Teaching (JALT), Nara, Japan, 2004		129-138 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Turn-taking timing in English activity classes in Japanese public elementary schools	共著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究 (28)		89-105 頁
Analyzing entrance exam item types with Rasch.	共著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究 (28)		125-142 頁
Team teaching participation patterns of homeroom teachers in English activities classes in Japanese public elementary schools	共著	平成 18 年 5 月	JALT Journal28(1)		5-21 頁
その他					
Item analysis of a university entrance examination listening test	共著	平成 16 年 2 月	Temple University Applied Linguistics Colloquium2004		
Contrasting entrance exam item types	共著	平成 16 年 5 月	Annual Pan-SIG JALT Conference		
Challenges of group work production in Japan: Solutions through conversation analysis	共著	平成 16 年 6 月	FEELTA 2004		
Item analysis of entrance exam item types: An application of Rasch measurement	共著	平成 16 年 7 月	神奈川大学比較言語研究会		
Student management of grammatical problems through self-repair and peer-assistance during group work discussion tasks: A conversation analysis approach	共著	平成 16 年 7 月	神奈川大学比較言語研究会		
English activities in Japanese public elementary schools: An observational study.	共著	平成 16 年 8 月	9th Conference of the Pan-Pacific Association of Applied Linguistics.		
Applying Rasch measurement to entrance exams.	共著	平成 16 年 9 月	Japan Language Testing Association Conference		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Using item analysis to improve entrance exams	共著	平成 16 年 11 月	JALT 2004		
Observing Japanese public elementary school English activities.	共著	平成 16 年 11 月	JALT2004		
Turn-taking in English activity classes in Japanese public elementary schools	共著	平成 16 年 12 月	明治学院大学 38th Mind and Activity Meeting		
Orientation to "no-gap transition" in an educational setting: English classes in Japanese elementary schools.	共著	平成 17 年 7 月	9th International Pragmatics Conference		
The effects of technology on language learning research in Japanese elementary school English classes	共著	平成 17 年 8 月	The 5th Foreign Language and Technology Conference		
Team teaching in Japanese public elementary schools: Sharing responsibilities in English activity classes	共著	平成 17 年 9 月	9th JALT Hokkaido conference		
Timing and conditions of applause in educational settings: The case of elementary school foreign language classes	共著	平成 18 年 8 月	Organization in Discourse 3: The interactional Perspective		
Orientation to form and meaning in group work	共著	平成 18 年 11 月	JALT 2006		
Teacher orientation to workplan through interactional assessments of L2 learners	共著	平成 19 年 3 月	17th International Conference on Pragmatics and Language Learning		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 6 年 9 月～現在に至る	大学英語教育学会会員
平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター「大学入学試験のアイテム分析」
平成 16 年 3 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 3,400 千円 (全国公立小学校における英会話活動の実情観察研究)(研究代表者)
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	(国内共同研究) 日本学術振興会「公立小学校英会話活動の観察研究」
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学言語研究センター「大学生の英語相互行為能力の考察 - グループワークの会話分析 - 」(70 千円)
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	(国内共同研究) 日本学術振興会「小学校英語活動の長期に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程」(3,780 千円)
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 3,780 千円 (小学校英語活動の長期に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程)(研究分担者)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 鳥越 輝昭	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 外国語学部国際文化交流学科の自己点検評価委員として活動	平成 20 年 3 月 1 日 ～ 現在に至る	自己点検評価を求められた各項目について、学科会議で検討する際の議長を務め、報告書を作成した。	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ヴェネツィア詩文繚乱 - 文学者を魅了した都市 -	単著	平成 15 年 6 月	三和書籍		
表象としての日本 移動と 越境の文化学	共著	平成 21 年 3 月	お茶の水書房	日高昭二他 10 名	
論文					
L・P・ハートリーとヴェ ネツィア(1) ヴェネ ツィアのハートリー	単著	平成 16 年 9 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 153 号		79-106 頁
L・P・ハートリーとヴェ ネツィア(2) ハート リー作品のなかのヴェネツ ィア	単著	平成 17 年 3 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 155 号		217-243 頁
リズム&ブルースとロック ンロール チャック・ベ リーをめぐる異文化交錯 (1)	単著	平成 19 年 3 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 161 集		37-70 頁
シャープレスの位置 『蝶々夫人』の倫理の中心 について	単著	平成 19 年 9 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 162 集		61-85 頁
R&B 曲「ロールオーヴ アー、ベーターヴェン」と 映画『ベーターベン』 チャック・ベリーをめぐる 異文化交錯(2)	単著	平成 19 年 12 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 163 集		1-30 頁
ブルース、ロックンロール へのユダヤ人の貢献 チ ャック・ベリーをめぐる異 文化交錯(3)	単著	平成 20 年 12 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 166 集		1-37 頁
その他					
レガッタは競演	単著	平成 15 年 9 月	大修館書店『英語教育』 第 52 巻第 6 号		5 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
シンポジウム司会「アジア における英語と文化の多様 性」(神奈川県立国際シ ンポジウム)		平成 16 年 11 月	神奈川県立国際シ ンポジウム		
書評『マリオとの五時間』 (ミゲル・デリーベス著、彩 流社)	単著	平成 17 年 3 月	『神奈川県立国際シ ンポジウム』第 50 号		171 頁
公開講座「コーヒー、カフ エとヨーロッパ文化」(越 境する文化のゆくえ)		平成 17 年 10 月			
公開講座「蝶々夫人への路」 (越境する文化のゆくえ)		平成 17 年 12 月			
見ぬ世の人を描くには 『蝶々夫人』のことなど	単著	平成 18 年 11 月	『神奈川県立国際シ ンポジウム』第 55 号		125-128 頁
講演「『蝶々夫人』への路 とシャープレスの位置」	単著	平成 19 年 5 月	大塚フォーラム(大塚英 語教育研究会)2007 年 度 5 月例会		
シンポジウム司会「日本の 文化変容と異文化 近世 から近代へ」(神奈川 大学人文学研究所主催国際 シンポジウム)		平成 19 年 11 月	神奈川大学人文学研究 所主催国際シンポジウ ム		
書評『ヘキュバのために シェイクスピアの主人公 に果たした選択肢』(橋本 侃著、欧友社)	単著	平成 19 年 11 月	『神奈川県立国際シ ンポジウム』(神 奈川大学広報委員会)第 58 号		137 頁
書評『日本人にとって英語 とは何か 異文化理解のあ り方を問う』(大谷泰照 著、大修館書店)	単著	平成 20 年 1 月	『英語教育』(大修館書 店)第 56 巻第 11 号		94 頁
公開講座「蝶々夫人 物 語と神々」		平成 20 年 2 月	神奈川県立国際シ ンポジウム		
国際シンポジウム「日本の 文化変容と異文化 近世か ら近代へ」について(報 告)	単著	平成 20 年 3 月	『人文学研究所報』No. 41		134-161 頁



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
書評『柳模様の世界史 大英帝国と中国の幻想』 (東田雅博著、大修館書店)	単著	平成 20 年 10 月	『英語教育』(大修館書 店) 2008 年 10 月号		94 頁
ヴェンドラミン館	単著	平成 21 年 3 月	ルネサンスニュース(ル ネサンス研究所) No. 28		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 54 年 4 月～現在に至る	上智大学英文学会会員
昭和 54 年 4 月～現在に至る	日本英文学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	ルネッサンス研究所会員
昭和 56 年 4 月～現在に至る	中世英文学談話会（日本中世英語英文学会に発展的解消）会員
昭和 61 年 10 月～現在に至る	日伊協会会員
昭和 63 年 6 月～現在に至る	日本比較文学会会員
昭和 63 年 6 月～現在に至る	International Comparative Literature Association 会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	地中海学会会員
平成 17 年 4 月～現在に至る	（学内共同研究）神奈川大学「表象としての日本」

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 中島 三千男	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例  授業評価に関するアンケートの実施  思考レベルでの授業参加  小テストの実施  講義の聴きかた、ノートの取り方の授業  デイバートの採用	昭和 55 年 4 月 ~平成 16 年 3 月 31 日  昭和 55 年 4 月 ~平成 16 年 3 月 31 日  昭和 55 年 4 月 ~平成 16 年 3 月 31 日  昭和 55 年 4 月 ~平成 16 年 3 月 31 日  平成元年 4 月 ~平成 18 年 3 月 31 日	授業において、学期末に必ず、学生に無署名で授業に関する評価、批判を書いてもらい、それを次年度(学期)の授業に生かすように努力している。毎年、講義内容は概ね好評だが、早口、黒板の字を丁寧にとの要望が出る。  授業において、授業内容に関するアンケート(質問事項)を書いてもらったり、自分の意見を書いてもらったりということを一年で7~8回(半期3~4回)行っている。一回に10~15分の時間をとって書いてもらっているが、その中で良い意見や少数意見については、次回の授業の時にマス・プリして配り、思考能力を高める工夫をしている(回収用紙は出席のチェックにもなっている)。  授業効果をあげるために、3~4回で一まとまりの講義が終わったあと、小テストを行っている。本来は講義の前後に自分で学習することが前提になっているのだが、多くの学生はただ授業の時だけに勉強する形になっている。そこで、次のステップに進む前に、それまでにやったことを、学生自身にまとめさせるのである。したがって小テストというより小まとめといった方が正確である。用紙を配布し、ノート等すべて参照可とし、またこの時だけは学生同志の私語を許し、教員も教室を回って質問に答える等のことをしている。  多くの学生は本来、高校までの間に身につけておかなければならない、講義の聴きかた、ノートの取り方を知らない。これではいくら良い授業をしてもその効果は薄い。そこで、第一回の小テストの時、うまく取っている学生のノートとそうでない学生のノートを借り、またそれぞれの学生の小テストの用紙をコピーして、次の時間に全員に配る。抽象的に話すより、実例で話すので学生はよくわかる。一般にノートを正しくとってれば、小テストの論述も良いものが出来るからである。1で述べた学生の授業評価で、多くの学生が良かったと評価しているのは、実はこの「講義の聴きかた、ノートの取り方」を教えてもらったということである。悲しい事ではあるが。  基礎ゼミナールで、毎月一冊の本をとりあげ、それに関する感想文を書かせ、それをもとにディスカッションやデイバートを行っている。この基礎ゼミナールは本の読み方や感想文・レポートの書き方、またディスカッションの仕方などを学び、物事を深く考える能力を身につけさせることを目的としている。	
2 作成した教科書、教材			

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
概論 日本歴史	平成 12 年 5 月 1 日	吉川弘文館・佐々木潤之介、中島三千男他 4 人で編集（再掲）。最新の学問的成果にもとづき、コンパクトな日本史の概説を行い、大学の一般教養の概論テキストとしてや一般歴史愛好者の参考書ないしテキストとしても利用できるものとした。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
歴史をよむ	共著	平成 16 年 11 月	東京大学出版会		34-37 頁
植民地期中国東北地域にお ける宗教の総合的研究	共著	平成 17 年 3 月	平成 13 年度～平成 16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B - 1) 研究 成果報告書	木場明志他	
山城国大山崎荘の総合的研 究(第二次)	共著	平成 17 年 3 月	2002 年度～200 4 年度日本私立学校振 興、共済事業団「学術研 究振興資金」研究成果報 告書		
日中両国の視点から語る 植民地期満洲の宗教	共著	平成 19 年 9 月	柏書房	木場明志・程舒偉編	
論文					
旧樺太(南サハリン)神社 跡地調査報告	共著	平成 16 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』1 号(神奈川大 学 21 世紀 COE プログ ラム研究推進会議)		126-157 頁
海外神社跡地に見る景観の 変容	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議編『環境と景観の 資料化と体系化に向け て』		161-215 頁
旧南洋群島の神社跡地調査 報告	共著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進 会議『年報 人類文化研 究のための非文字資料 の体系化』第 2 号		239-322 頁
明治天皇の大喪と台湾 - 代 替わり儀式と帝国の形成 -	単著	平成 17 年 3 月	歴史と民俗、神奈川大学 日本常民文化研究所第 21 巻		7-52 頁
近代の皇室儀式における英 照皇太后大喪の位置と国民 統合	共著	平成 17 年 12 月	『人文研究』157 号、神 奈川大学人文学会		65-99 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
旧朝鮮の神社跡地調査とその 検討—全羅南道、和順郡 を中心に—	共著	平成 18 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』3号、神奈川大 学 21 世紀 COE プログ ラム推進会議		285-298 頁
旧満州国の「満鉄附属地神 社」跡地調査からみた神社 の様相	共著	平成 19 年 3 月	『年報 人類文化研究 のための非文字資料の 体系化』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研 究推進会議)(4)	津田良樹、 <u>中島三千男</u> 、堀内寛晃、尚 峰	
「『海外神社』跡地に関す るデータベース」構築につ いて	共著	平成 19 年 12 月	『環境に刻印された人間 活動及び災害の痕跡解 読』(神奈川大学 21 世紀 COE プログラム 研究推進会議 「人類文 化研究のための非文字 資料の体系化」研究成 果報告書	津田良樹 <u>中島三千男</u> 堀内寛晃	
海外神社跡地に見る景観 の変容とその要因(共著)	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム推進会 議編『環境に刻印された 人間活動および災害の 痕跡解読』	<u>中島三千男</u> 津田良樹 富井正憲	55-93 頁
評論の言葉—海外神社の跡 地	単著	平成 20 年 7 月	『神奈川大学評論』創刊 60 号記念号		1 頁
その他					
空襲を記録することの意味	単著	平成 15 年 5 月	『戦争と民衆』第 50 号 (戦時下の小田原地方を 記録する会)		19 頁
講演「みんなで考えよう靖 国神社問題」		平成 15 年 7 月	2003 年度法政平和大学		
招聘講演「Shrines that Crossed the Sea:Shinto Shrines Abroad」		平成 15 年 10 月	Institute of Asian Research,UBC Centre for Japanese Research Conference		
講演「靖国神社と日本人の 未来」		平成 15 年 10 月	法政大学文学部史学科 学生会 2003 年度学術 大会		
副学長就任にあたって	単著	平成 15 年 11 月	『学園ニュースかなが わ』第 77 号		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
講演「<靖国問題>を考える」		平成 15 年 11 月	歴史民俗資料学研究科 開設 10 周年記念講座		
調査プロジェクト紹介 「2003 年度大山崎調査報告」	単著	平成 15 年 12 月	常民研 NEWS22 号		
一年間のゼミ活動を終えて (受験生の感想、抜粋)	単著	平成 16 年 3 月	『The Monad』25 号 (神奈川県外国語学部・ 基本科目部会)		3 頁
第 1 回 スピーチ・フェス テバル」の成功を祝う	単著	平成 17 年 3 月	報告書 『第 1 回神奈川県 大学生による、外国語ス ピーチ・フェスティバル』 (神奈川県経営学部・ 理学部)		1 頁
「総合学術研究推進委員 会」の発足にあたって	単著	平成 17 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 82 号		4 頁
「総合学術研究推進委員 会」の発足	単著	平成 17 年 6 月	『非文字資料研究』8 号(神奈川県 21 世紀 COE プログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議)		3 頁
山城国大山崎荘の総合的研 究	単著	平成 18 年 2 月	『日本歴史』693 号、日 本歴史学会(吉川弘文 館)		20-22 頁
靖国参拝批判の底流ー神大 教授が海外神社研究	単著	平成 18 年 8 月	『神奈川新聞』2006 年 8 月 12 日		
学長就任にあたってー大学 の帰趨を決める三年間を受 身にならず攻勢的にー	単著	平成 19 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 90 号		
父母懇談会における学長挨拶ー 志願者・受験者の確保 に力をお貸し下さいー	単著	平成 19 年 7 月	『後援会報』第 63 号		
成果発信の接続点に/神奈 川大学高大連携協議会会長	単著	平成 19 年 8 月	『神奈川新聞』2007 年 8 月 31 日		
新学長あいさつ	単著	平成 19 年 8 月	『神奈川県フロンティア クラブ会報』第 12 号		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
学長挨拶	単著	平成 19 年 8 月	『宮陵会報』(神奈川大 学校友会)第 84 号		
評価される大学/受験生や 社会が大学に期待するもの とは	共著	平成 19 年 12 月	『朝日新聞』2007 年 12 月 4 日	青山学院大学学長武藤元昭氏ほか 7 大学の学長・総長	
年頭にあってー「改革の 継続」と「入試対策」を車 の両輪にして、確かな地歩 を築こうー	単著	平成 20 年 1 月	『学園ニュースかなが わ』第 9 3 号		
世界に、そして未来へー神 奈川大学 21 世紀 C O E プ ログラムの歩みを振り返 るー	単著	平成 20 年 3 月	『非文字資料研究』(神 奈川大学 21 世紀 C O E プログラム「人類文化研 究のための非文字資料 の体系化」研究推進会議 19 号		
私の宝物ー二つのミニコミ 誌ー	単著	平成 20 年 3 月	『神奈川大学資格教育課 程通信』第 2 5 号		
教学に関わる短期の課題に ついて	単著	平成 20 年 4 月	『学園ニュースかなが わ』第 94 号		
伝統と革新	単著	平成 20 年 5 月	『教育は人を造るにあ りー米田吉盛の生涯ー』 (神奈川大学米田吉盛伝 編集委員会、御茶ノ水書 房)		
神奈川大学創立 80 周年記 念式典挨拶ー創立 80 周年 を迎えてー	単著	平成 20 年 6 月	『学園ニュースかなが わ』第 9 5 号		
大学と人材育成/「新しい 時代を拓く」人材の育て方 とは	共著	平成 20 年 7 月	『朝日新聞』2008 年 7 月 28 日	青山学院大学学長伊藤定良氏他 7 大 学の学長	
植民地時代の神社の碑/蔚 山で発見、保存の声も/佐 賀の学芸員が判読		平成 20 年 7 月	『西日本新聞』2008 年 7 月 21 日		
『非文字資料研究』の発刊 を祝う	単著	平成 20 年 9 月	『非文字資料研究』( 20 )		2 頁
「偏差値」をめぐる複眼的 視点について	単著	平成 20 年 10 月	『学園ニュースかなが わ』第 9 7 号		



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
海外神社語る設計図/奈良 の技師宅から 20 枚		平成 20 年 12 月	『朝日新聞』2008 年 12 月 3 日、夕刊(関西版)		
年頭のあいさつ 「下」か らの力	単著	平成 21 年 1 月	『学園ニュースかなが わ』98 号		
招聘講演 海外神社とは何 か		平成 21 年 3 月			
招聘講演 海外神社とは何 か		平成 21 年 3 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 40 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	史学研究会会員
昭和 40 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会会員
昭和 42 年 4 月～現在に至る	歴史科学協議会会員
昭和 51 年 5 月～現在に至る	日本歴史学協会会員
昭和 51 年 5 月～現在に至る	日本歴史学協会学問思想の自由・建国記念の日問題特別委員会委員
昭和 59 年 1 月～現在に至る	神奈川地域史研究会会員
昭和 59 年 1 月～現在に至る	神奈川地域史研究会運営委員
平成 3 年 4 月～平成 16 年 3 月	社団法人神奈川県高等学校教育会館・教育研究所研究協力委員
平成 4 年 12 月～現在に至る	日本近代仏教史研究会会員
平成 4 年 12 月～現在に至る	日本近代仏教史研究会運営委員
平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (B) (植民地期中国東北地域における宗教の総合的研究)(研究分担者)
平成 14 年 4 月～平成 17 年 3 月	日本私立学校振興・共済事業団(学術研究振興資金) 5,840 千円 (山城国大山崎荘の総合的研究)(研究代表者)
平成 15 年 7 月～平成 16 年 3 月	文部科学省 61,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 15 年 9 月～現在に至る	日本歴史学協会歴史教育問題特別委員
平成 15 年 9 月～現在に至る	日本歴史学協会学会選出委員(日本史研究)
平成 16 年 1 月～平成 17 年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	文部科学省 75,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	文部科学省 95,000 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	文部科学省 88,940 千円 (21世紀COEプログラム 人類文化研究のための非文字資料の体系化)(研究分担者)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 日高 昭二	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ~平成 21 年 2 月 10 日	2008年度前期授業評価アンケート評価を受け、内容をわかりやすく伝えるため、補助テキストを使用するなど、授業運営の改善活動を行った。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
海外新興芸術論叢書(刊本 篇)	共著	平成 15 年 11 月	ゆまに書房		
海外新興芸術論叢書(新聞・ 雑誌篇)	共著	平成 17 年 1 月	ゆまに書房		
文学者の手紙 3 大正の作 家たち	共著	平成 17 年 9 月	博文館新社		
日本文芸史第七巻[現代 I]	共著	平成 17 年 10 月	河出書房新社		77-92 頁
「改造」直筆原稿の研究	共著	平成 19 年 10 月	雄松堂出版		
論文					
通俗小説の修辞学 - 中村武 羅夫の場所	単著	平成 15 年 4 月	文学(隔月刊 4 巻 2 号、 岩波書店)		
アヴァンギャルドの文脈を もとめて	単著	平成 15 年 11 月	海外新興芸術論叢書		
中上健次とアジア - 陰陽五 行と風水思想をめぐって -	単著	平成 15 年 11 月	アジア遊学 57 号		
堀辰雄とアヴァンギャルド - いわゆる「立体派」の詩 脈をもとめて	単著	平成 16 年 2 月	「解釈と鑑賞」別冊		
『真珠夫人』と『ユーディッ ト』	単著	平成 16 年 3 月	近代文学研究 21 号		
情報の修辞学、あるいは 生成されるフィクション - 『ふるあめりかに袖はぬら さじ』論 -	単著	平成 16 年 10 月	『有吉佐和子の世界』 翰林書房		
幽霊と珍獣のスペクタクル - 安部公房の一九五〇年代	単著	平成 16 年 11 月	岩波「文学」岩波書店		
1920 年代日本における表 現主義	単著	平成 17 年 1 月	海外新興芸術論叢書 1 0 巻 ゆまに書房		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
戦時下の満州移民	単著	平成 17 年 1 月	国文学		
通俗小説の修辞学	単著	平成 17 年 3 月	日本近代文学会「東北支 部会報」32号		
座談会「今日の時代と小林 多喜二」	共著	平成 18 年 9 月	国文学解釈と鑑賞・別冊		
構成される<社会> 中 村吉蔵「新社会劇」のドラ マツルギー	単著	平成 18 年 11 月	「國語と國文学」(東京 大学国語国文学会)		
「層々壘々体」のアレゴ リー	単著	平成 19 年 1 月	第二次「芥川龍之介全 集」第1巻月報1		
解説『夫婦善哉 完全版』 について	単著	平成 19 年 10 月	雄松堂出版		
その他					
菊池寛全集 補巻第四	単著	平成 15 年 6 月	週刊読書人		
「通俗小説の修辞学」ほか	単著	平成 15 年 6 月	出版ニュース 1972 号		
米本昌平『知政学のすす め - 科学技術文明の読みと き』	単著	平成 15 年 8 月	国文学		
菊池寛 - 世界観芸術との争 闘	単著	平成 15 年 9 月	文士の友情 芥川龍之介 と菊池寛・久米正雄(山 梨県立文学館)		
『四十女』の遠近法	単著	平成 15 年 9 月	八木書店		
ローマ・バイク・サルティ ンボッカ	単著	平成 15 年 10 月	酒林 66 号		
ナポリとベスピオスとトマ ト	単著	平成 15 年 12 月	酒林 67 号		
『妊娠するロボット』	単著	平成 16 年 3 月	昭和文学研究 48 集		
菊池寛の復活	単著	平成 16 年 7 月	神奈川近代文学館 8 5 号		
ジュリエットの館にて	単著	平成 16 年 11 月	酒林 68 号		
批評的 / 郵便的な先導者	単著	平成 17 年 2 月	北の風土の批評精神		

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
ほろ酔い詩歌紀行 坂口謹 一郎「醜酔」	単著	平成 17 年 4 月	酒林 6 9 号		
夕陽と歓談	単著	平成 17 年 6 月	出版月報 1 0 号		
竹内栄美子著『批評精神の かたち 中野重治・武田泰 淳』	単著	平成 17 年 10 月	日本文学 1 0 月号		
ほろ酔い詩歌紀行	単著	平成 18 年 1 月	酒林 7 0 号		
ほろ酔い詩歌紀行	単著	平成 18 年 4 月	酒林 7 1 号		
評論の言葉 文化の往来	単著	平成 18 年 11 月	神奈川大学評論		
ほろ酔い詩歌紀行	単著	平成 18 年 11 月	酒林 7 2 号		
ほろ酔い詩歌紀行	単著	平成 19 年 1 月	酒林 7 3 号		
<新発見>織田作之助の原 稿「続夫婦善哉」	単著	平成 19 年 2 月	読売新聞		
アンケート	単著	平成 19 年 10 月	「神保町が好きだ」創刊 号		
ほろ酔い詩歌紀行	単著	平成 19 年 11 月	酒林 7 4 号		
鳥羽耕史著『運動体・安部 公房』	単著	平成 19 年 12 月	日本文学(日本文学協 会)		
切り抜き・激情・ホワイト アスパラ 山田昭夫先生 のこと	単著	平成 20 年 2 月	『探求者の魂 山田昭夫 の書齋から』(北海道立 文学館)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 45 年 4 月～現在に至る	早稲田大学国文学会会員
昭和 45 年 4 月～現在に至る	日本近代文学会会員
平成元年 4 月～現在に至る	昭和文学会会員
平成元年 12 月～現在に至る	日本近代文学会評議員
平成 5 年 4 月～現在に至る	昭和文学会幹事
平成 7 年 4 月～現在に至る	日本文学協会会員
平成 9 年 4 月～現在に至る	日本文芸家協会会員
平成 10 年 6 月～現在に至る	財団法人・日本近代文学館評議員
平成 12 年 4 月～現在に至る	財団法人神奈川文学振興会評議員
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	昭和文学会常任幹事
平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月	日本近代文学会理事
平成 17 年 4 月～現在に至る	早稲田大学国文学会理事
平成 17 年 7 月～平成 19 年 3 月	文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金等選定委員選定委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 福井 美保子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
生成文法の企て	共著	平成 15 年 11 月	岩波書店	福井直樹	
The Generative Enterprise Revisited	共著	平成 16 年	Mouton de Gruyter	Noam Chomsky, Riny Huybregts, Henk van Riemsdijk, Naoki Fukui, and <u>Mihoko Zushi</u>	
論文					
Book Review: Movement in language: interactions and architectures	単著	平成 15 年	Journal of Linguistics		405-410 頁
Null Arguments: The Case of Japanese and Romance.	単著	平成 15 年	Lingua (Special Issues, Formal Japanese syntax and Universal Grammar: The Past 20 Years)113, (5-6)		559-604 頁
Deriving the similarities between Japanese and Italian: a case study in comparative syntax	単著	平成 17 年	Linua115		711-752 頁
A Romance Perspective on Tokoro-clauses	単著	平成 20 年	An Enterprise in the Cognitive Science of Language, Hituzi Syobo Publishing		351-363 頁
Approaching the Tokoro-construction from a Romance Perspective	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学言語研究特集号 言語の個別性と普遍性		151-170 頁
Some Remarks on the Lexical Nature of Restructuring Predicates	単著	平成 20 年 6 月	English Linguistics25, (1)		340-363 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本英語学会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本言語学会会員
平成 3 年 9 月～現在に至る	Linguistic Society of America 会員
平成 6 年 4 月～現在に至る	日本ロマンス語学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 福田 アジオ	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業内容の改善	平成 20 年 4 月 7 日 ~平成 20 年 12 月 10 日	( 授業科目：博物館実習 2 ) ごく少数の受講者である現状を有効に活用するための工夫をした。特に、見学実習として訪問する博物館・資料館を、小規模館に絞り、学芸員から直接講話及び案内を得られるように依頼し、実施した。結果的に、学生たちの博物館理解は深まり、実習としての実をあげることができた。	
授業方法の改善	平成 20 年 4 月 15 日 ~平成 20 年 7 月 10 日	( 授業科目：日本民俗学 ) 専門科目であっても受講する学生の基礎的な知識に欠け、講述での講義では理解できない内容は多いことが分かり、ほぼ毎回の授業に、関連資料をプリントして配布し、説明をした。また授業のはじめに前回の授業内容を要約して示して理解が定着するようにした。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
戦う村の民俗誌	単著	平成 15 年 9 月	歴史民俗博物館振興会		
環境・地域・心性－民俗学 の可能性	共著	平成 16 年 9 月	岩田書院		
寺・墓・先祖の民俗学	単著	平成 16 年 10 月	大河書房		
精選日本民俗辞典	共著	平成 18 年 3 月	吉川弘文館		692 頁
中国江南沿海村落民俗誌	共著	平成 18 年 3 月			265 頁
歴史探索の手法－岩船地蔵 を追って	単著	平成 18 年 5 月	ちくま新書、筑摩書房		
結衆・結社の日本史(結社 の世界史 1)	共著	平成 18 年 7 月	山川出版社		
古村落の沈思－中国古村落 保護(西塘)国際高峰論壇 論文集	共著	平成 19 年 6 月	上海辞書出版社(中国)	王恬主編、	
つながる日本海－新しい環 日本海文明圏を築くために	共著	平成 19 年 7 月	現代企画室	武藤誠・北川フラム編、鶴見俊輔、古 厩忠夫、藤本強、水野敬三郎、秋道 智彌、福田アジオ他	1-306 頁
柳田国男の民俗学(歴史文 化セレクション)	単著	平成 19 年 9 月	吉川弘文館		1-282 頁
東西交流の地域史－列島の 境目・静岡	共著	平成 19 年 12 月	(株)雄山閣	青木祐一、加藤理文、北村啓、橋本 誠一、福田アジオ、向坂鋼二、他	1-252 頁
日本近世生活絵引東海道編	共著	平成 19 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム研究推 進会議	富澤達三・中村ひろ子・福田アジオ・ 山本志乃	1-138 頁
Theories and Methods in Japanese Studies : Cur- rent State and Future Developments	共著	平成 20 年 2 月	B o n n University Press	Hans Dieter Olschleger ed, Ronald Dore, Kuwayama Takami, Sepp Linhart, Fukuta Ajo 他	1-358 頁
東アジア生活絵引中国江南 編	共著	平成 20 年 2 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム研究推 進会議	金貞我、佐々木睦、鈴木陽一、福田 アジオ	1-154 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
東アジア生活絵引朝鮮風俗 画編	共著	平成 20 年 2 月	神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推 進会議	金貞我、中野泰、福田アジオ	1-177 頁
日本民俗学講演録	単著	平成 20 年 2 月	成都時代出版社		1-271 頁
論文					
誤読しているのはだれか	単著	平成 15 年 5 月	(日本民俗学会)『日本 民俗学』234 号		145-151 頁
生活画像資料と文献書誌 データベースの作成	単著	平成 16 年 3 月	『年報人類文化研究の ための非文字資料の体 系化』1 号		6-12 頁
画像資料としての素人絵	単著	平成 16 年 12 月	『年報人類文化研究の ための非文字資料の体 系化』2 号(神奈川大学 21 世紀 C O E プログ ラム研究推進会議)		1-16 頁
ニワバとジミョウー和田正 洲学説から学ぶー	単著	平成 18 年 2 月	『民俗』194、195 号(相 模民俗学会)		10-11 頁
市町村合併と伝承母体ーそ の歴史的概観ー	単著	平成 18 年 2 月	『日本民俗学』245 号 (日本民俗学会)		3-17 頁
民俗学と歴史学をつなぐも のー網野善彦の功績ー	単著	平成 18 年 3 月	『神奈川大学評論』53 号		57-64 頁
その他					
村落領域論	単著	平成 17 年 2 月	『民間文化論壇』141 号 (中国民間文芸家協会)		78-89 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 53 年 5 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	日本文化人類学会（日本民族学会）会員
昭和 55 年 4 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 57 年 11 月～現在に至る	比較家族史学会会員
平成 5 年 3 月～現在に至る	日本民俗建築学会会員
平成 13 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会評議員・理事
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (A) 18,600 千円（中国江南沿海村落の民俗誌的研究）(研究代表者)
平成 16 年 4 月～現在に至る	東京都教育委員会 東京都文化財保護審議会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	山梨県教育委員会 山梨県文化財保護審議会委員
平成 16 年 4 月～現在に至る	横浜市教育委員会 横浜市文化財保護審議会委員
平成 17 年 5 月～平成 18 年 4 月	日本文化人類学会（日本民族学会）評議員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 水野 晴光	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例  神奈川大学公開講座『基本語で話すネイティブ発想の英会話』  神奈川大学公開講座「ネイティブ発想の英会話」  神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「日本人の特性を活かした英語の学習法」	平成 17 年 5 月 18 日 ~ 平成 17 年 6 月 29 日  平成 18 年 5 月 17 日 ~ 平成 18 年 6 月 28 日  平成 20 年 3 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 29 日	神奈川大学広報課主催の公開講座で一般市民に日本人に最も適した英会話の学習法について指導し、英語圏の日常会話の約 90 % を占める基本語 1000 語で表現されるベスト・イングリッシュの例文を、母語の日本語の発声法や発想法との違いをよく理解して、毎日欠かさず反復練習して内在化することの重要性等を論じた。  神奈川大学広報課主催の公開講座で、一般市民に意味を重視した英会話の学習法を指導した。この講座では、英語圏の日常生活でとりわけ多用される基本語 1000 語の内在化によって、これまで日本人に最も困難とされてきた英語の発想法をごく自然に身につくように、平易な英語表現で、自分の意思を自由に表現する方法をスライドショーで愉しく段階を追って解説した。  日本人と英米人の認知パターンや、日本語と英語の異なる特性を理解し、最も効果的な英語の学習法を伝授した。	
2 作成した教科書、教材  『基本語英会話 BE,Have,Go!Go!』増進会出版	平成 14 年 1 月 22 日 ~ 平成 15 年 12 月 20 日	ケンブリッジ大学の意味論の先駆者 C.k. オグデンが提唱したベーシック・イングリッシュの精神に基づき、日本人の英会話力改善のために編纂された教材。英語圏の日常コミュニケーションの約 90 % を占める基本語 1000 語で表現されるベスト・イングリッシュの真の意味と英語の表現力を高める用法を容易に理解できるように、基本 50 語のイメージ・概念の説明に対応する豊富な日英対比例文を提示し、学習者にとって適切な毎日の学習量を設定すると共に、ネイティブ吹き込みの CD 版を付した。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価  2008 年度前期学生授業アンケート	平成 20 年 4 月 7 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日	学生によるアンケートの結果、授業の出席率 4.7 や、授業内容の理解度では 3.4 と平均値を上回ったが、特に話し方や教授提示の仕方などは平均値を満たしていなかった。そこでこれらの点に、学生が満足できるよう創意工夫し努力した結果、有益な効果を得た。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項	なし		

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
5 その他		



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
応用言語学事典	共著	平成 15 年 4 月	研究社、JACET 事典賞 受賞	小池生夫、井出祥子、河野守夫、鈴 木博、田中春美、田辺洋二、水谷修、 米山朝二、水野光晴他	20-23, 40, 150-154, 頁
基本語英会話 Be,Have,Go! GO!	単著	平成 15 年 12 月	増進会出版社		1-287 頁
「日英の言語文化のかた ち」『新しい文化のかたち』	共著	平成 17 年 1 月	神奈川大学人文学研究 所編、御茶の水書房	水野晴光秋山勇造、堤正典、湯田豊、 八島雅彦、大須賀史和、ラクエル・ヒ ル、赤坂治績、子馬徹、中本信幸	27-46 頁
世界から見た日本文化 - 多文化共生社会の構築のため-	共著	平成 19 年 3 月	世界から見た日本文化 (御茶の水書房)	伊坂青司、メアリー・ナイトン、王勇、 シュテフィ・リヒター、鈴木彰、川田 順造、ドミトリ・ラゴージン、中本 信幸、ヴェチャスラフ・フセヴォロド ヴィチ・イワーノフ、ドナルド・キ ーン、水野晴光	
論文					
日本人に最適な英語学習法	単著	平成 16 年 3 月	神奈川大学教職課程研 究室「神奈川大学心理・ 教育研究論集」第 23 号		1-8 頁
日本人の特性を活かす英語 習得法	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学心理・教育研 究論集第 27 号		29-49 頁
外国語のコミュニカティブ・ コンピテンスを高める共 生的アプローチ	単著	平成 20 年 11 月	日本言語学会日本言語 学会第 137 回大会予 稿集		
その他					
ことばの意味変化のプロセ ス - 自家撞着の話 -	単著	平成 15 年 11 月	神奈川大学言語研究 センター NEWS LET- TER No.30		2-4 頁
グローバル・イングリッシ ュ - 英語教育への可能性 -	単著	平成 15 年 12 月	神奈川大学「英語教育研 究大会」発表論文集		1-6 頁
ネイティブ発想の英会話 -基本語でしゃべろう-		平成 18 年 5 月			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
第二言語学習の化石化を 解明する中間言語分析アプ ローチ	単著	平成 18 年 11 月	日本心理学会		
英語の運用力を高めるバイ リンガル・センテンス・ア ナリシス	単著	平成 19 年 6 月	日英言語文化研究会		
日本人の特性を活かす英語 の習得法	単著	平成 19 年 12 月	日英言語文化研究会		
日本人の特性を活かした英 語の学習法	単著	平成 20 年 3 月	神奈川大学の生涯学習・ エクステンション講座、 教育・行政		
洗練された第二言語コミュ ニケーションの探求 「中 間言語語用論」研究への誘 い	単著	平成 21 年 1 月	神奈川大学言語研究セ ンター NEWS LET- TER34		3-5 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 57 年 4 月～現在に至る	アメリカ合衆国 "KAPPA DELTA PI 名誉会員
昭和 58 年～現在に至る	(国内共同研究)「応用言語学研究」
昭和 58 年 8 月～現在に至る	大学英語教育学会 (JACET) 会員
昭和 58 年 10 月～現在に至る	日本心理学会会員
昭和 60 年 8 月～現在に至る	日本応用言語学会会員
昭和 63 年 4 月～平成 17 年 5 月	国際応用言語学会 (AILA) 会員
平成元年 4 月～現在に至る	日本言語学会会員
平成 5 年 8 月～現在に至る	日本英語表現学会会員
平成 5 年 12 月～現在に至る	日本英語学会会員
平成 9 年 10 月～現在に至る	AILA 世界大会実行委員
平成 9 年 11 月～現在に至る	JACET 研究企画委員
平成 10 年 5 月～現在に至る	JACET 紀要編集委員
平成 11 年 4 月～現在に至る	JACET 中間言語分析研究会代表
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	(学内共同研究) 神奈川大学人文学研究所「文化のかたち」代表」
平成 15 年 3 月～現在に至る	アメリカ TESOL 会員 (現在に至る) 会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 尹 健次	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 授業改善の努力	平成 19 年 4 月 1 日 ~ 現在に至る	授業では質疑応答を増やした。また学期ごとにレポートを課すが、そのまえにレポートの書き方等を説明するようにした。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 19 年 4 月 1 日 ~ 現在に至る	何回かの授業評価で、話しが難しいときがあるとの指摘を受けた。そこで新聞のコピーなどを多用するとともに、平易な言葉づかい、概念や言葉の説明に力を注いでいる。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
帝国を考える - アメリカ、東アジア、そして日本	共著	平成 16 年 6 月	双風舎		177-213 頁
講座 戦争と現代4 ナショナルリズムと戦争	共著	平成 16 年 6 月	大月書店		183-221 頁
知識人の「親日意識」をどう考えるのか - 「親日派」についての考察を中心に	共著	平成 18 年 2 月	『植民地の日常 支配と亀裂』		593-621 頁
天皇制イデオロギーと植民地	共著	平成 18 年 7 月	『21 世紀天皇制と日本』(ノンヒョン)	尹健次、朴晋雨、高橋哲哉、他	
変わりつつある朝鮮半島情勢 - 六者協議と南北首脳会談	共著	平成 19 年 12 月	『日本はどうなる』株式会社金曜日		
思想体験の交錯 - 日本・韓国・在日 1945 年以後	単著	平成 20 年 7 月	岩波書店		
論文					
在日と日本の思想	単著	平成 15 年 10 月	アソシエ第 12 号		
東アジア、南北朝鮮と日本	単著	平成 15 年 10 月	情況通巻 33 号		
在日同胞の民族体験と民族主義	単著	平成 16 年 3 月	市民と世界第 5 号(ソウル・ハングル)		
日本学研究における脱植民地主義の課題	単著	平成 16 年 8 月	日語日文学第 23 輯		5-17 頁
最近の韓日関係と記憶の問題	単著	平成 16 年 12 月	文化科学第 40 号(ソウル・ハングル)		63-77 頁
日本社会 アジアからの視座	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学評論第 50 号		41-48 頁
帝国化のプロセスと日本・東アジア	単著	平成 17 年 4 月	アソシエ第 15 号		214-225 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<論壇時評> 自己と 他者 - 植民地主義が生 んだ、戦後日本の "病 "	単著	平成 17 年 7 月	『神奈川大学評論』第 51 号		198-203 頁
反省しない暴走機関車日本	単著	平成 17 年 9 月	『黄海文化』第 48 号		33-49 頁
<論壇時評> 右傾化 の 花開く時代	単著	平成 18 年 7 月	神奈川大学評論第 54 号		
あるべきアジア外交とは - 真の歴史認識こそが平和構 築の要	単著	平成 18 年 8 月	週刊金曜日第 618 号		
「大タカ派」登場に危機感 高まるアジア諸国	単著	平成 18 年 10 月	週刊金曜日第 625 号		
「民族」、そして「故郷」 と「革命」- 「在日」の詩 的表現を考える	単著	平成 19 年 1 月	アソシエ(御茶の水書 房)第 18 号		
外国人住民からみた日本と いう国	単著	平成 19 年 3 月	都市問題(東京市政調査 会)第 98 巻第 3 号		
歴史認識を考える - 藤間生 大『民族の詩』を出発点に	単著	平成 19 年 5 月	『韓国学論集』漢陽大学 校韓国学研究所第 41 輯		
変容概念としての在日性 - 在日朝鮮人文学 / 在日文学 を考える	単著	平成 19 年 6 月	『社会文学』日本社会文 学会第 26 号		
論壇時評 日本社会のタ ブー - 「聖」と「邪」	単著	平成 19 年 7 月	『神奈川大学評論』神奈 川大学第 57 号		
歴史認識を考える - 藤間生 大『民族の詩』を出発点に	単著	平成 19 年 8 月	『アソシエ』アソシエ 21 第 19 号		
大統領選挙に揺れる韓国社 会	単著	平成 19 年 12 月	『週刊金曜日』金曜日社 第 683 号		
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 57 年 4 月～現在に至る	日本教育学会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	朝鮮史研究会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	朝鮮史研究会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	国際高麗学会会員
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2,400 千円 (日本と韓国: 思想の断絶と交錯—近代性、植民地性、脱植民主義と関わって)(研究代表者)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 北原 糸子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
日本近世災害情報論	単著	平成 15 年 5 月	塙書房		396 頁
善光寺地震に学ぶ	共著	平成 15 年 7 月	信濃毎日新聞社		117 頁
日本災害史	共著	平成 18 年 10 月	吉川弘文館		196-260,270-304 頁
論文					
地震の痕跡と『名所江戸百景』の新しい読み方	共著	平成 16 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		62-104 頁
災害と写真メディア - 1894 年庄内地震のケース スタディ -	単著	平成 16 年 12 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		75-95 頁
東京府における明治天皇聖 蹟 - 指定と解除の歴史 -	単著	平成 17 年 3 月	「国立歴史民俗博物館研 究報告」121 集		285-338 頁
最近の災害史研究から - 世 界と日本 -	単著	平成 18 年 3 月	「京都歴史災害研究」(5 号)		11-20 頁
メディアとしての災害写真	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推 進会議		75-95 頁
関東大震災の写真(東京都 慰霊堂保管)について	単著	平成 20 年 3 月	立命館大学・神奈川大学 21 世紀 COE プログラ ム研究推進会議		
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 46 年 4 月～現在に至る	地方史研究協議会会員
昭和 46 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 60 年 9 月～現在に至る	歴史地震研究会会員
平成 10 年 10 月～現在に至る	東京都文化財保護審議会委員
平成 17 年 10 月～現在に至る	中央区文化財保護審議委員
平成 19 年 1 月～現在に至る	財団法人地球科学技術総合推進機構主幹研究員
平成 19 年 3 月～平成 20 年 3 月	(国内共同研究)(財)地球科学技術総合推進機構「史的考察から導かれる「避難」の実践と分析に関する研究」
平成 19 年 7 月～現在に至る	中央防災「災害教訓の継承に関する専門調査会」委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 中村 ひろ子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
衣と風俗の100年	共著	平成15年10月	ドメス出版		242-270頁
「日本近世生活絵引」	共著	平成20年3月	神奈川大学COEプログラム研究推進会議		
『実験展示「あるくー身体 の記憶」をつくる』	共著	平成20年3月	神奈川大学COEプログラム研究推進会議		
論文					
博物館資料は誰のもの	単著	平成16年10月	神奈川大学COE研究推進会議「非文学資料研究」6		
博物館資料の現在	単著	平成17年3月	神奈川大学歴史民俗資料学研究科「歴史民俗資料学研究」10		
実験展示の企て	単著	平成19年9月	『非文字資料研究』(神奈川大学COEプログラム研究推進会議)17		
対談「非文字資料研究の 新地平」	共著	平成19年12月	『非文字資料研究』(神奈川大学COEプログラム研究推進会議)18		
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 40 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会会員
昭和 50 年 10 月～現在に至る	日本民具学会会員
平成 4 年 4 月～現在に至る	横浜歴史博物館資料収集委員会専門委員
平成 10 年 4 月～現在に至る	東京都文京区文化財保護審議会会長
平成 11 年 4 月～現在に至る	八王子市文化財保護審議会委員
平成 11 年 4 月～現在に至る	東京都江東区文化財保護審議会委員
平成 12 年 4 月～現在に至る	東京都墨田区文化財保護審議会委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	文化庁文化審議会文化財分科会専門委員
平成 13 年 4 月～現在に至る	相模原市博物館協議会委員
平成 13 年 10 月～現在に至る	日本民具学会理事
平成 16 年 6 月～現在に至る	横浜市文化財保護審議会委員
平成 16 年 10 月～現在に至る	日本民俗学会理事
平成 18 年 4 月～現在に至る	神奈川県文化財保護審議会委員
平成 18 年 4 月～現在に至る	小田原市文化財審議会委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 岩畑 貴弘	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 授業改善について	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	教育においては、私は本学においてこれまで英語学習のための授業および言語学関連の授業を受け持ってきた。これまでに教えた学生は、必ずしも皆が英語の習熟度が高いとは言えないが、学習意欲が旺盛な学生がほとんどで、かつ素直であったため、授業方法についてもいろいろと試す機会があった。自分なりに工夫して行っている実践は数限りないが、まとめていうと、1) なるべく学生の発言の機会を増やすこと、2) ただし、ただ発言させるだけではその場の思いつきや適当な英文の作成になりがちなため、発言の前には準備の時間を設けること、3) 準備は一人でさせると緩慢になりがちなため、数人のグループでさせること、などである。この方法を違った内容の授業で行っている。このほかにも、クラスごとの学生の違いなどに対応し、臨機応変に小テストを追加したり、口頭テストに切り替えたり、ディスカッションや映像などを取り混ぜている。	
2 作成した教科書、教材 教科書ならびに一般英語学習書の作成	平成 14 年 9 月 1 日 ～現在に至る	1) 自分なりにより良いものを目指して英語教科書の作成を行っている。現在までに 2 冊作成。2) 大学で培ってきたものを社会に還元すべく、一般の書店で手に入る英語学習書の作成も行っている。現在までに 3 冊作成。うち 2 冊は台湾で翻訳版も出版されている。* 書名などは「教育研究業績」を参照	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 授業評価アンケート結果について	平成 15 年 9 月 1 日 ～現在に至る	神奈川大学において隔年で実施される「授業評価アンケート」の結果については常に注視し、前任校や非常勤校における同様のアンケートとともにファイルし、授業改善のための資料の一部としている。結果については個々のクラスの特性もあり、多少の差はあるが、満足度を尋ねる質問(神奈川大学においては「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思われますか」という質問)において「強くそう思う」と「そう思う」の回答をあわせると、どの授業においてもほぼ 8 割から 9 割程度以上の学生が満足しているとみられる。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
読点の使用とその決定要素 について	単著	平成 16 年 12 月	『神奈川大学人文研究』 第 154 集		51-82 頁
英語の文頭副詞類の機能に ついて	単著	平成 17 年 3 月	武内道子編『副詞的表 現をめぐって 対照研究 』(ひつじ書房)		89-115 頁
情報のなわ張り理論から見 た「おめでとう」	単著	平成 17 年 9 月	『神奈川大学人文研究』 156 集		105-126 頁
情報のなわ張り理論と英語 の間接表現	単著	平成 18 年 9 月	『神奈川大学人文研究』 第 159 集		103-123 頁
「共有」という概念につい て	単著	平成 19 年 9 月	『神奈川大学人文研究』 第 162 集		45-59 頁
「共有情報」に関わる言語 表現の対照研究	単著	平成 20 年 9 月	『神奈川大学人文研究』 第 165 集		61-76 頁
日本語の終助詞「ね」を通 じてみる「共有」と「コミ ュニケーション」について (第 1 部)	単著	平成 21 年 3 月	『神奈川大学人文研究』 第 167 集		51-114 頁
その他					
情報のなわばり理論から見 た日本語・英語・中国語の 指示詞に関して	単著	平成 15 年 10 月	神奈川大学人文学会		
ふたりで練習 初級英会話 ワークブック	共著	平成 15 年 11 月	ベレ出版		
学校英語をネイティブの英 語に変換する	共著	平成 16 年 12 月	ベレ出版		
その言い方は不自然です	単著	平成 17 年 5 月	『英語教育』54 巻 3 号 (大修館書店)		24 頁



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Step Ahead -Multi-task approach to language production	共著	平成 18 年 1 月	Macmillan Language House		
ネイティブに英語を直して もらいました	共著	平成 18 年 6 月	ベレ出版		
日本語の終助詞ネの考察	単著	平成 18 年 10 月	神奈川大学対照言語学 研究会 口頭発表		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 10 年～現在に至る	日本英語学会会員
平成 10 年～現在に至る	日本言語学会会員
平成 12 年～現在に至る	English Teachers in Japan
平成 13 年～現在に至る	日本語用論学会会員
平成 13 年～現在に至る	関東日本語談話会
平成 16 年 4 月～現在に至る	国際語用論学会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	アメリカ言語学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 E . F . チャーチル	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			
言語センター共同研究	平成 14 年 4 月 1 日 ～ 現在に至る	2003 年度のリスニング試験問題、及び後期英語試験問題の項目分析を行い、その結果を英語試験作成委員会に報告。	
英語部会入試作問委員会における活動	平成 14 年 4 月 1 日 ～ 現在に至る	( ~ 現在 ) 英語の入試問題に関するテキストの選択、問題の作成編集などを行った。またリスニングの問題の録音に参加した。	
英語部会予算委員	平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 3 月 31 日	( ~ 平成 16 年 3 月 31 日 ) 英語部会における予算の管理	
外国語学部改革委員会	平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 4 月 1 日	( 現在に至る ) 新学科開設に向けての討議	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Creating publishing communities. In T. Murphy (ed.), Extending Professional Communities: Professional Development in Language Education Series, Volume 2. Co-authors: Murphy, Connolly, McLaughlin, Schwartz and Krajka	共著	平成 15 年	Alexandria, VA: Teachers of English to Speakers of Other Languages		pp. 105-118 頁
Construction of Language Learning Opportunities for Japanese High School Learners of English in a Short Term Study Abroad Program	単著	平成 15 年 5 月	Unpublished doctoral dissertation Temple University		pp. 472 頁
Variability in the study abroad classroom and learner competence. In Margaret A. DuFon and E. Churchill (eds), Language Learners in Study Abroad Contexts.	単著	平成 18 年 1 月	Clevedon: Multilingual Matters		pp. 203-227 頁
Evolving threads in study abroad research. In Margaret A. DuFon and E. Churchill (eds), Language Learners in Study Abroad Contexts.	共著	平成 18 年 1 月	Clevedon: Multilingual Matters		pp. 1-27 頁
Step Ahead: A multi-task approach to language production	共著	平成 18 年 1 月	Tokyo: MacMillan Languagehouse		pp. 111 頁
Language Learners in Study Abroad Contexts		平成 18 年 1 月	Clevedon: Multilingual Matters		pp. 329 頁
論文					

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Temple University Japan Applied Linguistics Colloquium 2003 Co-editors: Aline, Willis, Kawate-Meirzejewska	共著	平成 15 年 11 月	Temple University Japan		pp. 1-212 頁
Applying Rasch Measurement to the Analysis of Entrance Exam Item Types. Co-author: Aline	共著	平成 16 年	Kanagawa University Studies in Language		27, 85-105 頁
Developing professional identities through a research community of practice. Co-authors: Cornwell, Simon-Maeda	共著	平成 16 年	JALT		184-192 頁
Temple University Japan Applied Linguistics Colloquium 2004. Tokyo: Temple University Japan. Co-editors: Kawate-Meirzejewska, Pielech and Matikainen	共著	平成 16 年 11 月	Temple University Japan		pp. 1-240 頁
Review of The Social Turn in Second Language Acquisition (David Block)	単著	平成 18 年 1 月	International Journal of Bilingual Education and Bilingualism		pp. 146-149 頁
Analyzing Entrance Exam Types with Rasch (Co-authored with David Aline)	共著	平成 18 年 3 月	Kanagawa University Studies in Language 28	David Aline	pp.125-142 頁
Negotiating Academic Practices, Identities, and Relationships in a Doctoral Program: A Case from an Overseas Institution in Japan	共著	平成 18 年 10 月	TESL-Electric Journal 10, (2)	Andrea Simon-Maeda, Eton Churchill, Steve Cornwell	1-25 頁
Selected research on second-language teaching and acquisition published in Japan in the years 2000-2006	共著	平成 19 年 4 月	Language Teaching (Cambridge University Press) 40	Steve Cornwell, Andrea Simon-Maeda & Eton Churchill	119-134 頁
Alignment and Interaction in a Sociocognitive Approach to Second Language Acquisition	共著	平成 19 年 6 月	The Modern Language Journal 91, (ii)	Dwight Atkinson, Eton Churchill, Takako Nishino & Hanako Okada	169-188 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Dynamic Systems Account of Learning a Word: From Ecology to Form Relations	単著	平成 20 年 8 月	Applied Linguistics29, (3)		pp. 339-358 頁
その他					
Developing Professional Identities through a Research Community of Practice	共著	平成 15 年 11 月	全国語学教育学会 (JALT)		
Item Analysis of a Uni- versity Entrance Exam Listening Test	共著	平成 16 年 2 月	Temple University Japan 2004 Collo- quium in Applied Linguistics		
Contrasting Entrance Exam Item Types. Co-Presenter: Aline	共著	平成 16 年 5 月	Paper presented at the 2004 JALT Pan-Sig Conference. Tokyo: Tokyo Keizai Univer- sity.		
Applying Rasch Mea- surements to Entrance Exams. Co-presenter: Aline	共著	平成 16 年 9 月	Paper presented at the 8th Annual Japan Language Testing Association National Confer- ence. Tokyo:Reitaku University.		
Using Item Analysis to Improve Entrance Ex- ams. Co-presenter:Aline	共著	平成 16 年 11 月	JALT National Con- ference. Nara, Tezuk- agawa University		
A case study of gen- dered language learning at home and abroad	単著	平成 17 年 7 月	Paper presented at the 14th World Congress of Applied Linguistics. Madison, Wisconsin.		
Requests, referents and developmental patterns	単著	平成 17 年 10 月	Paper presented in S. Kondo (Chair), Learners' stories and pragmatic de- velopment abroad. Colloquium presented at the annual meeting of the Japan Asso- ciation of Language Teachers, Shizuoka, Japan.		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
A Japanese as a second language learner and a word: From ecology to form relations	単著	平成 19 年 4 月	Paper presented at the Annual Conference of the American Association of Applied Linguistics in Costa Mesa, California on April 21, 2007. Presented in the Colloquium entitled, Toward a Sociocognitive approach to second language acquisition (organized by Dwight Atkinson)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 5 年 6 月～現在に至る	全国語学教育学会会員
平成 11 年 11 月～現在に至る	アメリカ言語学会 (American Association of Applied Linguistics) 会員
平成 15 年～平成 19 年	(学内共同研究) 学内共同研究「英語入試問題の項目分析 (item analysis)」
平成 15 年 6 月～平成 16 年 2 月	「Temple University Japan 2004 Colloquium in Applied Linguistics」実行委員
平成 15 年 9 月～現在に至る	JALT Journal (全国語学教育学会機関誌) 査読委員
平成 16 年 4 月～平成 16 年 5 月	Cultural Diversity and Language Education Conference 大会発表審査委員
平成 16 年 11 月～平成 17 年 2 月	Temple University Japan 2005 Colloquium in Applied Linguistics 実行委員
平成 17 年 12 月～現在に至る	The Modern Language Journal 査読委員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 駒走 昭二	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月 1 日 ～平成 19 年 9 月 30 日	(授業科目:日本語学 F)2006 年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目:日本語学 1)2006 年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、テキスト・補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 10 月 1 日 ～平成 20 年 3 月 31 日	(授業科目:日本語学 E)2006 年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 10 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目:日本語学 2)2006 年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、テキスト・補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2006 年度前期授業評価アンケート結果		平成 18 年 9 月	(授業科目:日本語学 E)学生による授業評価アンケートの「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思いますか」という評価項目において、全体の平均値を大きく上回る評価を得た。
2006 年度後期授業評価アンケート結果		平成 19 年 3 月	(授業科目:日本語学 F)学生による授業評価アンケートの「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思いますか」という評価項目において、全体の平均値を大きく上回る評価を得た。
2006 年度後期授業評価アンケート結果		平成 19 年 3 月	(授業科目:日本語論)学生による授業評価アンケートの「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思いますか」という評価項目において、全体の平均値を大きく上回る評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
		なし
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ふしぎ発見!日本語文法。	共著	平成 18 年 9 月	三弥井書店	石川美紀子 勝又隆 加藤良徳 北 村雅則 駒走昭二 宮地朝子	39-45,53-72,149-154 頁
論文					
『新スラブ・日本語辞典』 の日本語訳	単著	平成 15 年 7 月	『名古屋大学国語国文学』(名古屋大学国語 国文学会)(92)		60-72 頁
動詞「わかる」と格助詞 - 実態と規範意識 -	共著	平成 16 年 1 月	『目白大学人文学部紀 要』(目白大学人文学 部)(11)	山西正子 駒走昭二	55-75 頁
『新スラブ・日本語辞典』 の語彙	単著	平成 16 年 3 月	『語彙研究の課題』 (和泉書院)		277-290 頁
ゴンザ資料の研究	単著	平成 16 年 3 月	名古屋大学大学院文学 研究科		
『露日単語集』に基づく 18 世紀薩隅方言の工列音	単著	平成 16 年 4 月	『国語学』(日本語学会) 55,(2)		45-58 頁
『露日単語集』のイ列音表 記	単著	平成 16 年 12 月	『名古屋大学国語国文学』(名古屋大学国語国 文学会)(95)		60-72 頁
格助詞「へ」と「に」の分 担領域 - 時間と空間 -	共著	平成 17 年 1 月	『目白大学文学・言語学 研究』(目白大学人文学 部)(1)	山西正子 駒走昭二	49-66 頁
ゴンザの出身地に関する一 考察	単著	平成 19 年 12 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会)第 163 集		155-172 頁
その他					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 4 年 4 月～現在に至る	名古屋大学国語国文学会会員
平成 4 年 5 月～現在に至る	日本語学会会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	韓国日本語文学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 鈴木 幸子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 ディベート形式のディスカッション	平成 20 年 4 月 1 日 ~平成 20 年 11 月	(日本文化英語演習) 学生の興味・関心を引き出すための工夫としてディベート形式のディスカッションを授業に取り入れた。学生自身が選んだトピックに関して自主的に調査を行い、自分の意見をまとめ、英語で表現する練習を積むことにより、英語能力の向上につながっている。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項 実務英語(観光)の習得を目標とした演習	平成 20 年 4 月 1 日 ~平成 20 年 11 月	(ゼミナール: インバウンド研究と観光英語) 観光分野で使用される実践的言語をターゲットに、毎回ロールプレイ、シミュレーションを行い、また、問題解決の方法について学生自身に考えさせる授業を行った。実際の外国人案内ツアーをデザインさせ、その中で使用する言語表現(ガイディング)を発表することによる専門的言語の習得を目指した。	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
その他					
代表的な通訳案内業務		平成 15 年			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 4 年 9 月～現在に至る	カナダ、アルバータ州日本語教育研修会「KIMONO」教科書の使い方の研修担当
平成 15 年 3 月～現在に至る	社団法人 日本観光通訳協会会員
平成 16 年 4 月～現在に至る	全日本通訳案内業者(現通訳案内士)連盟会員新人研修委員
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	異文化コミュニケーション学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 坪井 雅史	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 プレゼンテーションソフトとウェブを活用した授業サポート	平成 16 年 4 月 ～現在に至る	(授業科目:倫理学Ⅰ) 学生が講義を聞くことに集中できるよう、板書を極力減らし、プレゼンテーションソフトを用い、その内容をウェブサイトで公開し、学生のノート作成に利用させている。同時に、授業中には紹介できなかったウェブ上の資料にもアクセスできるようにしている。(平成 16 年 4 月～)	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
情報倫理の構築	共著	平成 15 年 5 月	新世社		
医療情報と生命倫理	共著	平成 17 年 2 月	太陽出版		250-276 頁
論文					
初等・中等教育における情報倫理教育のあり方 - 今後の課題 -	単著	平成 16 年 7 月	『画像電子学会誌』 Vol.33 No.4-A		455-460 頁
応用倫理学の方法論をめぐって - WRE と設計問題アナロジーを参考に -	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』第 157 号 (神奈川大学人文学会)		59-80 頁
道徳的認識および推論の様式と物語 ケアの倫理と道徳的行為への思考(2)	単著	平成 19 年 3 月	『人文学研究所報』(神奈川大学人文学研究所) No.40		11-22 頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 2 年 4 月～現在に至る	広島哲学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	日本倫理学会会員
平成 3 年 4 月～現在に至る	日本イギリス哲学会会員
平成 8 年 3 月～平成 18 年 3 月	日本道徳教育方法学会会員
平成 8 年 10 月～現在に至る	日本医学哲学・倫理学会会員
平成 18 年 9 月～平成 18 年 12 月	土地家屋調査士倫理規範検討特別委員会委員
平成 19 年 4 月～現在に至る	(国内共同研究)環境省「地球温暖化に係る政策支援と普及啓発のための気候変動シナリオに関する総合的研究」

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 富谷 玲子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
日本語教育実習	平成 18 年 9 月 1 日 ~平成 19 年 1 月 31 日	日本語教員養成課程における実践的な実習指導	
日本語教員養成課程実習報告書作成	平成 18 年 9 月 20 日 ~平成 19 年 1 月 31 日	学生の原稿による日本語教員養成課程実習報告書を作成し、同課程を有する教育機関との交流を行った	
F Y S におけるディベートの導入	平成 19 年 4 月 10 日 ~平成 19 年 7 月 20 日	意見を述べ根拠を挙げつつ主張するという言語行動の練習のため、F Y S にディベートを導入し、成果を挙げる事ができた。	
F Y S におけるディベートの活用	平成 19 年 4 月 10 日 ~平成 19 年 7 月 20 日	意見を述べ根拠を挙げつつ主張するという言語行動の練習のため、F Y S にディベートを導入し、成果を挙げる事ができた	
日本語教育実習	平成 19 年 9 月 20 日 ~平成 20 年 1 月 31 日		
日本語教員養成課程 日本語教育実習報告書	平成 19 年 9 月 20 日 ~平成 20 年 1 月 31 日	日本語教育実習の報告書を作成し、その成果を国内外の日本語教育機関に報告した。	
メディア教材作成プロジェクト「ドキュメンタリ日本語教育実習」の制作と頒布	平成 19 年 9 月 20 日 ~平成 20 年 1 月 31 日	日本語教員養成課程在籍者 4 年生有志による DVD 教材「ドキュメンタリ日本語教育実習」の制作指導を行った。同教材は、翌年度から、日本語教育実習の事前授業で活用されているほか、国内・海外の日本語教育機関で、日本国内の教師教育の実践例紹介教材として広く活用されている。	
F Y S におけるディベートの導入	平成 20 年 4 月 10 日 ~平成 20 年 7 月 20 日	意見を述べ根拠を挙げつつ主張するという言語行動の練習のため、F Y S にディベートを導入し、成果を挙げる事ができた	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項			

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
		なし
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
「コンテキストのデザイン - 協同学習者の発話データの 分析から - 」	共著	平成 15 年 10 月	『2003 年度日本語教育 学会秋季大会予稿集』日 本語教育学		
その他					
(口頭発表)「学習リソー スの再検討:日本語学習の 多様性を読み解くための フレームワーク作りに向け て」	共著	平成 15 年 6 月	日本言語政策学会第 2 回大会(於成城大学)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 5 年 8 月～現在に至る	立川国際交流協会主催「日本語ボランティア講座」講師
平成 10 年 4 月～現在に至る	国立国語研究所日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会講師（秋田会場）
平成 10 年 7 月～現在に至る	上智大学国文学会会員
平成 10 年 10 月～現在に至る	国立国語研究所日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会講師（旭川会場）
平成 12 年 7 月～現在に至る	国立国語研究所日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会講師（函館会場）
平成 13 年 7 月～現在に至る	日本語教育学会教師研修委員会委員
平成 14 年 6 月～現在に至る	国立国語研究所日本語教育短期研修「学習者の多様性を操る - 学習リソースの再検討 - 」東京会場講師
平成 15 年 1 月～平成 15 年 10 月	国立国語研究所長期研修日本語教育研究プロジェクトコースコーディネーター
平成 15 年 1 月～現在に至る	国立国語研究所日本語教育短期研修「学習者の多様性を操る - 学習リソースの再検討 - 」福岡会場講師
平成 15 年 9 月～現在に至る	日本語教育学会日本語教育研究コースオンライン実践研究コースコーディネーター
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 B 一般 4,700 千円（学術場面での大学生の日本語使用実態の基礎的研究-超級話し言葉コーパスの構築-）(研究代表者)

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 西野 清治	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 フランス語初級クラスにおける聞き取り			フランス語初級クラスにおいて、毎課ごとに聞き取り練習を行った。音節の区切り、強さアクセントの位置を確認して、フランス語のリズムに慣れることを目指した。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期授業評価アンケート結果			どの科目でも、難易レベルでの評価が低かった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他			なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
副詞的表現をめぐって	共著	平成 17 年 3 月	ひつじ書房	佐藤裕美、国広哲弥、堤正典、武内道子、岩畑貴弘、西野清治、Nicolas GAILLARD、浅山佳郎、羽佐田理恵、望月眞澄、岩本典子	
論文					
その他					



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成元年 9 月～現在に至る	日本フランス語学会会員
平成 11 年 1 月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 羽佐田 理恵	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 日本語教育養成課程運営委員 言語研究センター委員 外国語科目教育協議会運営委員 TOEIC 委員 カリキュラム委員	平成 18 年 4 月 1 日 平成 18 年 4 月 1 日 ~平成 16 年 4 月 1 日 ~平成 16 年 4 月 1 日 ~平成 16 年 4 月 1 日	外国語教育改善関連のための委員：外国語学部英語部会より代表者  神奈川大学学生の英語能力把握と意識向上のため TOEIC 制度導入の為の委員会  英語に関するものを中心に他の学科学部のクラス人数調整カリキュラム作成非常勤手配	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	编者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
副詞の視点から見た感情を 表す音象徴語—その分析過 程から導かれた問題点への 取り組み—	単著	平成 17 年 3 月	武内道子(編)『副詞的 表現をめぐって—対照研 究—』 ひつじ書房		175-221 頁
"Cultural Script:Glimpses into the Japanese emotion world" (文化スクリプ ト:日本人の感情世界を 垣間見て) In Cliff God- dard(ed) EthnoPrag- matics:Understanding Discourse in Cultural Context (民族語用論: 文化コンテキストから談 話を理解する)	単著	平成 18 年 6 月	New York/Berlin:Mouton de Gruyter		171-198 頁
"Two Virtuos Emotion in Japanese "in In Cliff Goddard (ed) Cross — Linguistic Semantics (『多言語間意味論』) N.Y./Amsterdam:John Benjamins Publishing Company	単著	平成 20 年	NY/Amsterdam:John Benjamins Publishing CompanyStudies in Language Companion Series 102		329-344 頁
論文					
What is love for Japanese? :Its Se- mantic and Pragmatic analysis	単著	平成 15 年 7 月	International Prag- matics Association Conference		
Grammatical and Lex- ical Characteristics of Japanese Emotion Sen- tences 日本語の感情表現 文の構造及び語彙の特徴— 主に英語と比較して	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』 157 号		99-138 頁
その他					

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
“ What is ‘ love ’ for Japanese: Its Semantic and Pragmatic Analysis ” (英語の love は日本語の愛 とどう違う?: その意味論 的語用論的分析)	単著	平成 15 年 7 月			
”The NSM semantic analysis of joo/nasake, omoiyari,and Jiji” (相 手を思いやる語彙の NSM 意味分析)	単著	平成 19 年 8 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 6 年 1 月～現在に至る	オーストラリア言語学学会会員
平成 6 年 3 月～現在に至る	(国際共同研究) The Australian National University, University of New England 「日本語表現と文化独特の意味論及び現用論的研究(英語 NSM 法で記述)」
平成 6 年 4 月～現在に至る	(受託研究) 審査員シカゴ大教授の強い薦めで出版社にかけあい 3-4 人(覆面) 審査後出版契約「音象徴語の意味論的研究」
平成 10 年 1 月～現在に至る	日本言語学会会員
平成 12 年～現在に至る	広報委員会委員
平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 若手研究 B (日本語の感情を表す擬声語・擬態語の意味の記述 - 日本語学習者への教材化にむけて)(研究代表者)
平成 14 年 4 月～現在に至る	(国際共同研究) The Australian National University, University of England 「Natural Semantic Metalanguage 法の推進研究」
平成 14 年 11 月～現在に至る	国際語用論学会会員
平成 15 年 9 月～平成 16 年 3 月	教職員組合代議員
平成 15 年 11 月～平成 16 年 1 月	図書館に入れる 15 年度外国語学部(英語)の図書リスト作成
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	外国語科目教育協議会運営委員会関連の出版物編集編集委員(一人)
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	T O E I C 委員会委員
平成 17 年 4 月～現在に至る	(国際共同研究) オーストラリア国立大学「言語と文化：異文化間コミュニケーション」
平成 17 年 6 月～現在に至る	日本語用論学会会員
平成 18 年～現在に至る	(国際共同研究) The Australian National University を中心に世界中の言語で展開中「NSM 法で使用される語彙の日本語バージョンの統語的/語彙的解明(翻訳に必須)」
平成 18 年 3 月～現在に至る	日本語教育養成課程運営委員会日本語教育養成課程運営委員会委員
平成 18 年 9 月～平成 19 年 8 月	教職員組合代議員
平成 18 年 11 月～平成 19 年 1 月	学科新設学生室用図書リスト作成 (:2 5 0 万円ほど(単)英語系予算委員ひきつぎの仕事として委託(一人))
平成 19 年 1 月～平成 20 年 2 月	国際交流学部学生室へいれる図書リスト見積もり作成昨年に続いて 2 年目 180 万円ほど(単) 2008 年度英語系予算委員として特別予算申請(一人)
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	予算委員予算委員(学科中英語系の予算主担当)
平成 19 年 11 月～現在に至る	人文学会常任委員常任委員

年月	内 容
平成 20 年 4 月～現在に至る	国際文化交流学科 担任国際文化交流学科 担任

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 廣瀬 富男	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育方法の実践例 CALL システムの活用		平成 20 年 4 月 ～現在に至る	必修英語科目において、各学生の進度に合わせた学習形態の実現、および会話練習における柔軟かつ迅速なペアリング実現のため、CALL システムを活用している。
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価 2006 年度後期授業アンケート結果		平成 18 年 3 月 ～平成 18 年 3 月	学生による授業評価アンケートにおいて、「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思いますか」という評価項目で、英語(理解)IN、英語(表現)AD、英語(Listening)ELの3クラスに関して、英語科目の平均値を上回る評価(4.2-4.4)を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			なし
5 その他 NHK『新・英語スキット大会』一般部門審査員奨励賞(松江高専 ESS)		平成 16 年 3 月 ～平成 16 年 3 月	松江高等専門学校 ESS の顧問として学生を指導し、同 ESS は、NHK 主催の 2003 年度『新・英語スキット大会』一般部門への出場を果たし、審査員奨励賞を受賞する。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Origins of predicates: Evidence from Plains Cree	単著	平成 15 年 7 月	Routledge,New York		272+xiv 頁
論文					
The Syntax of D-linking	単著	平成 15 年 7 月	Linguistic Inquiry34, (3)		499-506 頁
Light heads and derived predication	共著	平成 16 年 3 月	JELS 21(Papers from the Twenty-First Na- tional Conference of The English Linguistic Society of Japan)		31-40 頁
N-Plural vs. D-Plural	単著	平成 16 年 12 月	Proceedings of the 23rd West Coast Conference on Formal Linguistics		332-345 頁
Delayed Merge and the Position of Not	共著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究第 28 号		13-23 頁
Nominal Paths and the Head Parameter	単著	平成 19 年 7 月	Linguistic Inquiry38, (3)		548-553 頁
その他					
N-Plural vs. D-Plural	単著	平成 16 年 4 月	West Coast Confer- ence on Formal Lin- guistics XXIII (Uni- versity of California, Davis)		
Obviation, Number and Movement in Plains Cree	単著	平成 16 年 11 月	日本言語学会第 129 回 大会(富山大学)		
Two Event Arguments in the Syntax	単著	平成 17 年 10 月	The Fifth GLOW in Asia (Jawahar- lal Nehru Univer- sity:Delhi)		
Quantified Phrases with- out NP	共著	平成 19 年 10 月		Takeru Suzuki	



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Asymmetry and Directionality of the X-bar Structure	単著	平成 19 年 11 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 10 年 8 月～現在に至る	日本語学会会員
平成 15 年 3 月～現在に至る	日本英語学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 細田 由利	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Second language learning in casual NS-NNS conversation.	単著	平成 15 年 4 月	学苑 752 号 昭和女子大学		37-53 頁
非母語話者と母語話者の日常コミュニケーションにおける言語学習の成立	単著	平成 15 年 9 月	社会言語科学第 6 巻第 1 号		89-98 頁
Conversation Analysis in applied linguistics I : Fundamental organizations of conversation	単著	平成 15 年 10 月	学苑 757 号 昭和女子大学		25-40 頁
Interaction, grammar, and projectability : Analyzing the iu ka in Japanese interaction.	共著	平成 15 年 11 月	Temple University Applied Linguistics Colloquium 2003 Conference Proceedings. テンプル大学		13-24 頁
相互行為・文法・予測可能性 - 会話における「ていうか」の分析を例にして -	共著	平成 15 年 12 月	語用論研究第 5 号		31-43 頁
Conversation Analysis in applied linguistics II : Application to " asymmetric " interaction and non-english interaction.	単著	平成 15 年 12 月	学苑 759 号 昭和女子大学		103-115 頁
Conversation Analysis in applied linguistics III : Application to nonnative discourse.	単著	平成 16 年 3 月	学苑 762 号 昭和女子大学		43-57 頁
Language socialization in a second language classroom in Japan	単著	平成 16 年 5 月	学苑 764 号 昭和女子大		50-63 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
English activities in Japanese public elementary schools: An observational study.	共著	平成 17 年 1 月	Proceedings of the 9th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics		15-25 頁
Student orientation to grammatical aspects of interaction in group work.	共著	平成 17 年 3 月	神奈川大学言語研究、27 号		45-59 頁
Challenges of group work production in Japan: Solutions via conversation analysis	共著	平成 17 年 4 月	Conference proceedings of PAC5 at FEELTA 2004		195-197 頁
Meeting the challenges of English activities	共著	平成 17 年 4 月	The Language Teacher, 28, 4		15-19 頁
Directives and assessments in Japanese native and nonnative conversation.	単著	平成 17 年 5 月	JALT Journal, 27, 1		5-31 頁
Applying conversation analysis to nonnative and bilingual talk	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of the Japan Association for Language Teaching (JALT), Nara, Japan, 2004		485-499 頁
Observing Japanese public elementary school English activities.	共著	平成 17 年 8 月	Proceedings of the Japan Association for Language Teaching, Nara, Japan, 2004		129-138 頁
Joint utterance construction in Japanese conversation, Makoto Hayashi, John Benjamins, Amsterdam, 2003, XII+249pp	単著	平成 18 年 2 月	Journal of Pragmatics, 38		311-314 頁
Repair and relevance of differential language expertise in second language conversations	単著	平成 18 年 3 月	Applied Linguistics, 27, 1		25-50 頁
Turn-taking timing in English activity classes in Japanese public elementary schools	共著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究 第 28 号		89-105 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Team teaching participation patterns of homeroom teachers in English activities classes in Japanese public elementary schools	共著	平成 18 年 5 月	JALT Journal, 28, 1		5-21 頁
日本語における反応機会場 と第二言語会話への転移	単著	平成 19 年 12 月	「人文研究」163 号		201-226 頁
「第二言語で話す」という こと - カタカナ英語の使用 をめぐって -	単著	平成 20 年 3 月	「社会言語科学」第 10 巻、第 2 号		146-157 頁
その他					
Teaching and learning L2 in NS-NNS interaction: Conversation Analytic perspective.	単著	平成 16 年 5 月	2004 JALT Pan- SIG Conference. 東京、 東京経済大学		
Challenges of group work production in Japan: So- lutions through Conver- sation Analysis	共著	平成 16 年 6 月	FEELTA 2004		
Student management of grammatical problems through self-repair and peer-assistance during group work discussion tasks: A conversation analysis approach.	共著	平成 16 年 7 月	神奈川大学比較言語研 究会		
English activities in Japanese public ele- mentary schools: An observational study.	共著	平成 16 年 8 月	The 9th conference of the Pan-Pacific Asso- ciation of Applied Lin- guistics		
Observing Japanese Public Elementary School English Activi- ties.	共著	平成 16 年 11 月	JALT2004		
Applying Conversation Analysis to nonnative and bilingual talk	共著	平成 16 年 11 月	JALT 2004 奈良		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
Turn-taking in English activity classes in Japanese public elementary schools.	共著	平成 16 年 12 月	明治学院大学 Mind & Activity Meeting		
Orientation to no-gap transition in an educational setting: English classes in Japanese elementary schools	共著	平成 17 年 7 月	9th International Pragmatics Conference (IPrA), Riva del Garda, Italy		
The effects of technology on language learning research in Japanese elementary school English classes.	共著	平成 17 年 8 月	5th Foreign Language Education and Technology Conference (FLEAT 5), Utah, USA		
Team teaching in Japanese public elementary schools: Sharing responsibilities in English activity classes.	共著	平成 17 年 9 月	9th.JALT Hokkaido, Spporo		
Timing and conditions of applause in educational settings: The case of elementary school foreign language classes	共著	平成 18 年 8 月	Organization in Discourse 3: The interactional perspective, Turku, Finland		
Orientation to form and meaning in group work	共著	平成 18 年 11 月	JALT2006		
Teacher orientation to workplan through interactional assessments of L2 learners	共著	平成 19 年 3 月	Pragmatics and Language Learning		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 9 年 1 月～現在に至る	全国語学教育学会会員
平成 10 年 3 月～現在に至る	国際語用論学会会員
平成 11 年 9 月～現在に至る	米国応用言語学会会員
平成 14 年 9 月～現在に至る	日本語用論学会会員
平成 15 年 1 月～現在に至る	社会言語科学会会員
平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	文部科学省（2003 年度私立大学等経常費補助金「私立大学教育研究高度化推進特別補助」研究）（IT 教材の問題点解決と改良を目指す基礎研究）（研究分担者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	（国内共同研究）日本学術振興会（科学研究）「全国公立小学校における英会話活動の実情観察研究」（3,400 千円）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	2004 年度明治学院大学社会学部附属研究所助成金研究（日本語日常会話の会話分析のための基礎づくり）（研究分担者）
平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究（C）課題番号 16520359 3,400 千円（全国公立小学校における英会話活動の実情観察研究）（研究分担者）
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	（学内共同研究）神奈川大学言語教育センター「大学生の英語相互行為能力の考察 - グループワークの会話分析 -」（70 千円）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	（国内共同研究）日本学術振興会「小学校英語活動の長年に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程」（3,780 千円）
平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 C 3,780 千円（小学校英語活動の長年に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程）（研究代表者）



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前川 理子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業評価に関するアンケートの実施	平成 12 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	前期末と後期末に授業評価に関するアンケートを実施した。それを受けて、次年度の授業を改善するように努めた。(平成 12 年 4 月 1 日～)	
演習授業の成果報告書の編集	平成 12 年 4 月 1 日 ～現在に至る	演習形式の授業で学生が発表、議論した成果を小論文にまとめさせ、それを印刷した。(平成 12 年 4 月 1 日～)	
思考レベルでの授業参加	平成 12 年 4 月 1 日 ～現在に至る	授業内容に関する質問、視聴覚教材から読みとった内容等を所定用紙に記入させ、これをもとに次回の授業を進めていく双方向型の授業に努めた。(平成 12 年 4 月 1 日～)	
小論文指導	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 20 年		
2 作成した教科書、教材			
国際文化交流学科基礎演習報告集(2006 年度)	平成 19 年 1 月		
国際文化交流学科基礎演習報告集(2007 年度)	平成 20 年 1 月		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他			
基本科目教育協議会運営委員としての活動	平成 15 年 4 月 1 日 ～現在に至る	とりわけ留学生教育、履修者制限に関する問題を検討した。他大学の視察訪問も行った。(平成 15 年 4 月 1 日～)	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
加藤玄智集(全9巻)	共著	平成16年6月	クレス出版		
岩波講座・宗教<第7巻> 生命	共著	平成16年8月	岩波書店		
現代宗教事典	共著	平成17年1月	弘文堂		
論文					
Syncretism in Japanese New Religion	単著	平成16年12月	『人文研究』154号		
その他					
国際文化交流学科基礎演習 報告集(2006年度)		平成19年1月			
国際文化交流学科基礎演習 報告集(2007年度)		平成20年1月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 5 年 6 月～現在に至る	日本宗教学会会員
平成 7 年～現在に至る	「宗教と社会」学会会員
平成 9 年 10 月～現在に至る	国際コミュニケーション学会会員
平成 11 年 11 月～現在に至る	宗教情報リサーチセンター主催の学術シンポジウム「インターネット時代の宗教」準備・運営研究員
平成 13 年 3 月～現在に至る	(財) 国際宗教研究所主催の学術シンポジウム「生命操作はどこまで許されるのか？」準備・運営研究員
平成 13 年 11 月～現在に至る	(財) 国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター共催の学術シンポジウム「イスラエル原理主義」とその背景」準備・運営研究員
平成 14 年 6 月～現在に至る	Society for the Scientific Study of Religion 会員
平成 15 年 1 月～現在に至る	(財) 国際宗教研究所主催の学術シンポジウム「新しい追悼施設は必要か」準備・運営研究員
平成 15 年 6 月～現在に至る	高校生向け公開講座「いのちの選別はどこまで許されるか」講演講師
平成 16 年 10 月～現在に至る	KU 公開講座「生と死を考える 生命倫理と宗教の視点から」講演講師
平成 17 年 11 月～現在に至る	KU 公開講座「イスラームを知る ムスリムとの対話」講演講師
平成 18 年 4 月～現在に至る	「宗教と社会」学会の各種活動常任委員
平成 18 年 6 月～平成 20 年 6 月	「宗教と社会」学会常任委員
平成 19 年 3 月～平成 19 年 5 月	「宗教と社会」学会学術大会 準備・運営常任委員
平成 19 年 11 月～現在に至る	高校生向け公開講座「異文化交流と宗教」講演講師
平成 20 年 3 月～平成 20 年 5 月	「宗教と社会」学会学術大会 準備・運営常任委員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前田 マーガレット	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月	(Phonetics) I used to use a textbook as the basis for my course, but I have expanded on the textbook and created my own materials, adapted to the students' needs, with phonetic terms provided in both English and Japanese.
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月	(All classes - Teaching materials) I make nearly all my teaching materials myself and give them in the form of printed handouts to all the students.
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月	(All classes - Homework assignments) Last year (平成 19 年) the students said the amount of time they had to spend for preparation and review for my class was a little lower than average. I have stepped up the amount of preparation and review that I make them do.
思考レベルの授業参加		平成 20 年 4 月	(Seminar - British and American Intercultural Studies) The students do presentations on the topics we study in class using materials from newspapers, books and the Internet. In addition, I introduce them to cultural differences which we are not usually conscious of, such as use of space, called "Hidden Culture" by the well-known writer on Culture, E.T. Hall.
2 作成した教科書、教材			なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
学生による授業評価アンケート結果の活用		昭和 19 年 4 月 ~平成 20 年 7 月	(Phonetics) This year (平成 20 年), students' evaluation of my materials has gone up. They liked my lecture notes and said they were easy to understand.
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月 ~平成 20 年 7 月	(All classes - Teaching materials) The students say they find the materials, interesting and useful and they enjoy them very much.
学生による授業評価アンケート結果の活用		平成 19 年 4 月 ~平成 20 年 7 月	(All classes - Homework assignments) I have increased the amount of work they have to do outside class time, and this point has not reappeared on this year's evaluations (平成 20 年前期).

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他		なし

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「韓国語話者による日本語倒置文のイントネーション」上昇の形式とその習得段階をめぐって	共著		国立国語研究所		
論文					
“ Intonation and duration in English questions of Japanese speakers. ”	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究第 28 号		59-88 頁
INTONATION AND DURATION IN ENGLISH QUESTIONS OF JAPANESE SPEAKERS	単著	平成 18 年 3 月	神奈川大学言語研究 No.28 号		
その他					
JAPANESE SPEAKERS OF ENGLISH; “ WORK ”AND“ WALK ”	共著	平成 19 年 8 月		齊藤広子東京外国語大学外国語学部 准教授	

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 63 年 4 月～現在に至る	全国語学教育学会会員
平成 6 年 3 月～現在に至る	東京音声言語研究会
平成 7 年 4 月～現在に至る	日本音声学会会員
平成 8 年 4 月～現在に至る	科学研究費補助金 創成的基礎研究費（国際社会における日本語についての総合的研究）(研究分担者)
平成 9 年 4 月～現在に至る	音声言語研究チーム「音声言語の韻律特徴に関する実験的研究」(代表鮎澤孝子) EXPERIMENTAL STUDIES ON PROSODY (ESOP)
平成 11 年 8 月～現在に至る	日本音響学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前田 禎彦	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業評価に関するアンケートの実施	平成 15 年 4 月 1 日 ～平成 16 年 3 月 31 日	(日本史)前期と後期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望を反映するように授業を改善した。	
授業評価に関するアンケートの実施	平成 16 年 4 月 1 日 ～平成 17 年 3 月 31 日	(日本史)(日本史(教職))前期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望が反映するように授業を改善した。	
授業評価に関するアンケートの実施	平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	(日本史)(日本史(教職))前期の途中で授業評価に関するアンケートを実施し、学生の希望が反映するように授業を改善した。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『氷見市史』1 通史編 古代・中世・近世 第四章 『万葉集』と布勢水海 第 一節、第五章 平安時代の 社会と氷見	共著	平成 18 年 3 月	氷見市史編さん委員会		92-103,118-127 頁
論文					
「看督長見不注進状」(九条 家本『延喜式』紙背文書) に関する基礎的検討	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』157号 (神奈川大学人文学会)		101-121 頁
看督長小考 - 撰関期の官司 と社会集団 -	単著	平成 19 年 3 月	『国史学』第 191 号 (国史学会)		3-26 頁
その他					
書評 佐藤全敏著『東大寺 別当の成立』	単著	平成 17 年 3 月	『法制史研究』54(法 制史学会)54		152-154 頁
二〇〇四年度日本史研究会 大会報告批判 古代支部会 吉川聡報告に関する覚書	単著	平成 17 年 4 月	『日本史研究』512号 (日本史研究会)(512)		25-28 頁
看督長小考 - 官司と社会 集団 - (2005 年度國學院 大学国史学会古代史部会報 告)	単著	平成 17 年 5 月	國學院大学国史学会(於 國學院大学)		
古代地域史研究と出土文字 資料 - 「加賀郡 示札」の 史料性格 -	単著	平成 17 年 9 月	神奈川大学 21 世紀 C OE プログラム「人類 文化研究のための非文 字資料の体系化」研究推 進会議編『非文字資料研 究』9(9)		18-19 頁
書評 長谷山彰著『日本古 代の法と裁判』	単著	平成 18 年 3 月	『法制史研究』55(法 制史学会)55		155-159 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引第2巻(本文編)		平成19年3月	神奈川大学 21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議		
マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引第2巻(語彙編)		平成19年6月	神奈川大学 21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議		
オリジナル版『生活絵引』の編纂とその意義(神奈川大学21世紀COEプログラム 第3回国際シンポジウム「場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新地平」セッション1マルチ言語版『日本常民生活絵引』の編纂刊行)	単著	平成20年2月	神奈川大学 21世紀COEプログラム 第3回国際シンポジウム「場の記憶・からだの記憶」(神奈川大学横浜キャンパス)		
マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引第1巻(本文編)		平成20年2月	神奈川大学 21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議		
マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引第1巻(語彙編)		平成20年2月	神奈川大学 21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 61 年 4 月～現在に至る	日本史研究会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	史学研究会会員
昭和 61 年 4 月～現在に至る	京都民科歴史部会会員
平成 13 年 4 月～現在に至る	古代学協会会員
平成 15 年 5 月～現在に至る	史学会会員
平成 16 年 11 月～現在に至る	続日本紀研究会会員
平成 18 年 4 月～現在に至る	歴史学研究会会員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	科学研究費補助金 奨励研究 ( C ) 250 千円 ( 平安貴族の都市的な居住と住宅の総合分析 )( 研究分担者 )
平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月	科学研究費補助金 奨励研究 ( C ) 250 千円 ( 平安貴族の都市的な居住と住宅の総合分析 )( 研究分担者 )

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 山根 麻紀	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	英語関連科目においては、教材の難易度に関する学生の評価に合わせ、毎回独自の教材を作成し、ハンドアウトとして配布した。教材の英語レベルが「難しい」と感じる学生が多ければ、より平易な構文・単語を用いた読解・英作文問題を作成し、それを実施することで理解を深める努力をした。教材の英語レベルが平易である場合は、関連の話題でさらに難度が高い読解・英作文問題を作成して、英語力の育成に努めた。専門関連科目では、学生のニーズに有用な情報を盛り込むよう努力した。たとえば、「言語習得論」においては、日本語教育関連科目でもあるため、理論的な事項だけでなく、日本語を外国語として習得する人が直面する問題もたびたび引用した。	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 2008 年度前期授業評価アンケート結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	英語関連科目では、「総合的にみた満足度」の項目において、「強くそう思う」(強く満足である)または「そう思う」(満足である)と答えた学生の合計が、約 75 %に達した(2クラス平均値)。専門関連科目では、そのように答えた学生の合計が、約 90 %に達した(3クラス平均値)。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
It's still dark here, flick another switch on: Adult L2 interlanguage grammars in the middle of parameter resetting	単著	平成 15 年 11 月	Proceeding of the Fourth Tokyo conference on Psycholinguistics		
中間言語像の変遷: 生成文法を理論的枠組みとして	単著	平成 17 年 3 月	神奈川大学言語研究		161-171 頁
Disjoint reference of pronominal binding in adult L2 English by Japanese learners	共著	平成 18 年 9 月	The Proceedings of GALA (Generative Approaches to Language Acquisition) 2005	佐野哲也・山根麻紀	
第二言語における動詞の項構造の習得について	単著	平成 20 年	「言語の個別性と普遍性」(神奈川大学言語研究センター)神奈川大学言語研究特集号		
その他					
Variations of WH-movement in L1-Japanese/L2-English interlanguage grammars	単著	平成 16 年 12 月	Generative Approaches to Language Acquisition North America (University of Hawaii)		
Disjoint reference of pronominal binding in adult L2 English by Japanese learners	共著	平成 17 年 9 月	Generative Approach to Language Acquisition 2005 (University of Siena)		

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 11 年 4 月～現在に至る	日本英語学会会員
平成 13 年 5 月～現在に至る	日本第二言語習得学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 尹 亭仁	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 写真などの視聴覚資料の活用 朝鮮語の会話能力の向上	平成 19 年 4 月 平成 20 年 4 月	朝鮮語の会話の授業では、日常関連の多くの写真を取り入れ、日本語を介しての朝鮮語ではなく、すぐ朝鮮語で答えるように働きかけている。 朝鮮語の会話能力の向上のため、CD 教材を作成し、いつでも会話の練習ができるようにした。	
2 作成した教科書、教材 朝鮮語の会話の教材の作成 朝鮮語の会話用辞書の出版	平成 18 年 4 月 平成 20 年 3 月	ワン・フレーズ・コリアン 1 デイリー韓日英会話辞書 (三省堂)	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価アンケート結果の活用	平成 20 年	主に朝鮮語の会話の授業を担当していて、毎回全員の学生と会話ができるように心掛けている。そのために、履修生の名前を全部覚えて、授業中いつでも学生に質問できるような授業を展開している。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
デイリー日韓英3か国語会 話辞典	単著	平成17年8月	三省堂		
デイリー日韓英3か国語会 話辞典 [カジュアル版]	単著	平成20年8月	三省堂		
論文					
日本語と韓国語の受身表現 - 日韓対訳小説データ分析 を中心に	単著	平成16年3月	神奈川大学言語研究セ ンター『神奈川大学言語 研究』26		65-95 頁
韓国語と日本語のヴォイス に関する対照研究 - 動作主 の格標示と構文の生産性を を中心に -	単著	平成17年3月	東京大学大学院総合文 化研究科言語情報科学 専攻博士論文		
韓国語と日本語の使役表 現 使役動詞 < VN-sikida > と < VN-させる > の対 応関係を中心に	単著	平成18年3月	『神奈川大学言語研究』 (神奈川大学言語研究セ ンター)(29)		pp.43-69 頁
韓国語の使役動詞の用法 1類の使役動詞の用法上の 特徴を中心に	単著	平成20年3月	言語の個別性と普遍性 (神奈川大学言語研究セ ンター)		
その他					
日本語と韓国語の受身表現 (韓国語)	単著	平成16年2月	日韓言語対照・韓国語 教育国際学術発表大会、 (於)東京大学		



III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 10 年 10 月～現在に至る	朝鮮語研究会会員
平成 12 年 4 月～現在に至る	朝鮮学会会員
平成 12 年 7 月～現在に至る	韓国日本学会会員
平成 12 年 10 月～現在に至る	日本語教育学会会員
平成 14 年 4 月～現在に至る	国語学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 渡邊 孝	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 詳説世界史研究(共著) 山川出版社	平成 8 年 7 月	木下康彦・木村靖二・吉田寅(編)。[p.568]。最新の学問的成果を踏まえた高校世界史の学習参考書。第 5 章 - 2、第 14 章 - 3、第 15 章 - 3 分担任執筆。現在は『詳説世界史 B 研究』と改題。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
A Re-examination of Re-cruiting System in "Military Provinces" in the Late Tang - Focusing on Composition of Personnel in Ancillary Posts in Huainan and Zhexi.	共著	平成 17 年 6 月	『東洋史研究』64 巻 1 号(東洋史研究会)		1-73 頁
唐後半期の財務三司下における「判案郎官」について	単著	平成 17 年 9 月	『史境』51 号(歴史人類学会)		43-64 頁
唐後半期における財務領使下幕職官とその位相	単著	平成 17 年 12 月	『人文研究』157 号(神奈川大学人文学会)		123-169 頁
その他					
唐後半期における財務領使下幕職官と判案郎官について	単著	平成 16 年 10 月	歴史人類学界 第 25 回大会		
唐後半期における財務領使下幕職官とその位相	単著	平成 16 年 11 月	史学会 第 102 回大会 東洋史部会		
鎮神頭小考	単著	平成 17 年 9 月	『Monad』No.28(神奈川大学外国語学部・基本科目部会)		11-14 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
昭和 55 年 6 月～現在に至る	東洋史研究会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	社会文化史学会会員
昭和 58 年 4 月～現在に至る	歴史人類学会会員
昭和 58 年 8 月～現在に至る	総合歴史教育研究会会員
平成元年 8 月～現在に至る	社会文化史学会常任委員
平成 2 年 4 月～現在に至る	史学会会員
平成 2 年 4 月～現在に至る	東方学会会員
平成 9 年 8 月～現在に至る	社会文化史学会評議員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 助教	氏名 C.ラットクリフ	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 2007-08 年度の授業評価アンケートの結果	平成 20 年 4 月 1 日 ～現在に至る	(授業科目: 日本文化英語演習) この学年の前期・後期授業評価アンケートのコメント記入欄に、配布資料のいずれもが「面白かった」や「役に立った」、「適切だった」などのコメントが多かったです。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Dictionary of Sources of Classical Japan・Dic- tionnaire des Sources du Japon Classique	共著	平成 18 年	College de France	編集者 Joan Piggott, Ivo Smits, In- eke Van Put, Charlotte von Ver- schuer and Michel Vieillard-Baron	
論文					
“ The Traveling Poet as Witness: Established Poets Face New Real- ities in the Kamakura Pe- riod ”(旅路に出た鎌倉時代 の歌人と名所:古来和歌の 風景と実見の風景の調和)	単著	平成 17 年 1 月	Proceedings of the As- sociation for Japanese Literary Studies: 『Landscapes Imag- ined and Remem- bered』(AJLS, Pur- due University)No. 6 (Summer 2005)		99-112 頁
「文化的祇候者である歌人 飛鳥井雅有」	単著	平成 18 年 3 月	フェリス女学院大学編 『和歌の文化学』(フェ リス女学院大学)		128-135 頁
“ Willful Copyists and the Transmission of Sus- pect Narratives of Liter- ary Production ”(意図 的な転写から生まれる文学 史の疑問)	単著	平成 19 年 3 月	Proceedings of the As- sociation for Japanese Literary Studies : 『Reading Material: The Production of Narratives, Genres and Literary Identi- ties』(AJLS, Pur- due University)No. 7 (Summer 2006)		
“ The Cultural Arts in Service: The Careers of Asukai Masaari and his Lineage ”(奉仕手段として の文芸:飛鳥井雅有の経歴 と飛鳥井家の成功) [博 士論文]	単著	平成 19 年 5 月	Yale University		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
“ The Difference between Modern Literature and Literature of Modernity in the Early Meiji Pe- riod: Kubota Hikosaku's Torioi Omatsu kaijo shinwa ”(明治前期におけ る「近代文学」と「近代 の文学」の相違 久保田 彦作 『鳥追阿松海上新話』 考)	単著	平成 20 年 12 月	『人文研究』(神奈川大 学人文学会) 166 号		1-25 頁
その他					
なし					

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 12 年 9 月～現在に至る	アジア研究協会会員
平成 13 年 12 月～現在に至る	和歌文学会会員
平成 16 年 6 月～現在に至る	アメリカ日本文学会会員
平成 17 年 1 月～現在に至る	日本語教員協会会員
平成 17 年 3 月～現在に至る	ヨーロッパ日本研究協会会員



V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 助教	氏名 小松原 由理	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 ドイツ語プロジェクト型授業を導入。ドイツ語全国スピーチコンテスト(獨協大学)に参加、第三位入賞及び審査員特別賞受賞。	平成 20 年 4 月 ~ 平成 21 年 1 月	演劇的テキストを教材にすることにより、ドイツ語の発音学習と解釈可能性の有機的なつながりを習得させた。また、ワーキンググループごとの自主性にまかせたプロジェクト型授業の運営により、教室外へと繋げる外国語学習を実践した。	
2 作成した教科書、教材 自律学習補助教材 Vokabelnheft(語彙ノート)の作成	平成 20 年 4 月 ~ 平成 21 年 1 月	授業外において語彙学習を効果的に習得させるための補助教材である。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
挑発するメディア・アート: ハンナ・ヘーヒ、「騒然た る時代」を調理する	共著	平成 19 年 10 月	『ドイツ文化史への招 待』(大阪大学出版会)	三谷研爾編	
論文					
グロテスクな自己演出 ジョージ・グロスの風刺世 界とダダ的身振り	単著	平成 16 年	『DER KEIM』(東京 外国語大学ドイツ語学 文学研究会)(27)		1-21 頁
「ヒュレー」・性・言葉 ラウル・ハウスマンにお ける 生の造形 をめぐっ て	単著	平成 18 年	『言語・地域文化』(東 京外国語大学大学院刊 行物)(12)		43-61 頁
Die Grenze verwischen oder verschieben?: Zur dadaistischen Grenzüe- berschreitung des „Ich	単著	平成 18 年	『ドイツ文学』(日本独 文学会) 5, (1)		53-69 頁
フォトモンタージュの 可能性:ラウル・ハウス マンの作品展開に見る「ベ ルリン・ダダ」	単著	平成 19 年 2 月	東京外国語大学大学院 地域文化研究科博士課 程提出学位論文		
その他					
Die Grenzüberschre- itung des „Ichs“: Ue- berlegungen der beiden Berliner Dadaisten George Grosz und Raoul Hausmann		平成 16 年 3 月			
ラウル・ハウスマンの造 形作品における「視るこ と」		平成 16 年 6 月			
ラウル・ハウスマンの作 品展開に見る知覚と「語 り」		平成 17 年 1 月			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
「ずれ」が生成する 場、 フォトモンタージュ ラウル・ハウスマンとハ ンナ・ヘーヒにおける「頭」 の表象をめぐって		平成 18 年 11 月			
思考としての フォトモン タージュ ラウル・ハ ウスマンと「ベルリン・ダ ダ」		平成 19 年 1 月			

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 14 年 4 月～現在に至る	日本独文学会会員
平成 18 年 10 月～現在に至る	表象文化論学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任助教	氏名 秋田 歩	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 プレゼンテーション等を利用した授業のとりくみ	平成 18 年 11 月 ～平成 20 年 11 月	朝鮮語中級, 応用朝鮮語, 朝鮮語上級など, 朝鮮語学習歴が 2 年目になるクラスを対象に, プレゼンテーションを利用した授業をとり入れている。具体的には, 後期の授業の期末試験の代わりとして, 中級, 応用のクラスでは 2, 3 人のグループによる劇やゲームなどの発表を, 上級ではそれぞれ興味のあるテーマについて 3 分程度のプレゼンテーションを課し, 韓国語による原稿作成, 発表練習などを通じて, インプット中心になりがちな語学の授業の中で, アウトプットを積極的に行う経験を持たせるようにしている。今まで 2 年間の取り組みの中で学生も楽しみながら積極的に準備をし, 朝鮮語に対する興味もさらに増すなどの効果を上げている。	
2 作成した教科書、教材 授業用テキスト『大学生のための韓国語 初級編』の作成	平成 20 年 4 月 1 日	市販の教科書が価格が高いうえに, 本校の授業数やレベルに合うものが少ないため, 金秀美先生と共同で自作の教科書を作成。「入門朝鮮語」の授業で使用 中である。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
日本語の二格に対応するコ リア語の格助詞について - 学習者が間違いやすい用法 のずれを中心に -	単著	平成 16 年 11 月	「東海大学外国語教育セ ンター所報」東海大学外 国語教育センター第 24 輯		
朝鮮語の格助詞 i/ga の誤 用について	単著	平成 19 年 3 月	神奈川大学言語研究第 29 号		72-84 頁
韓国語の他動性について -格枠組みと動詞の意味 による分類案-	単著	平成 20 年 2 月	東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とこと ば-進化認知科学的展開」 研究報告書「日本語と朝 鮮語の対照研究」		165-183 頁
その他					
日本語の格助詞「-に」に 対応する韓国語の格助詞 - に と lul の対応を中心に -	単著	平成 16 年 2 月	日韓言語対照・韓国語教 育国際学術発表大会 BK21 梨花女大言語学 教育研究団 対比言語 および韓国語教育研究 団 21 世紀 COE プロ グラム「心とことば - 進 化認知科学的展開」(東 京大学)		
日本語の格助詞「-に」と 韓国語の格助詞「- e, ekey」 「- ul/lul」	単著	平成 17 年 3 月	韓日修交 40 年記念国際 韓国言語文化学会日本 学術大開「韓日新時代と 日本における韓国言語 文化」		
翻訳「韓洪九の韓国現代史 II 負の歴史から何を学ぶの か」	共著	平成 17 年 7 月	平凡社		66-102 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 11 年 7 月～現在に至る	朝鮮学会会員
平成 11 年 8 月～現在に至る	国際韓国語教育学会会員
平成 15 年 2 月～現在に至る	韓国日本学会会員
平成 15 年 9 月～現在に至る	朝鮮語研究会会員
平成 16 年 8 月～現在に至る	朝鮮語教育学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任助教	氏名 小林 潔	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例		なし	
2 作成した教科書、教材 複言語のすすめ + Xで世界をひらく 言葉は異文化への扉	平成 20 年 3 月	金田一真澄、森泉、高山緑他との共著。慶應義塾大学外国語教育研究センター、全 8 頁 (A4 換算) A3 版表裏、『教師用資料』全 26 頁。初年時用外国語学習導入教材。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他 日本ロシア文学会ロシア語教育委員会委員	平成 19 年 10 月 ～ 現在に至る	既存の教科書・教材およびロシア語教育関連文献の書誌を作成。ロシア語教育関連用語検討のための準備作業を実施。	



II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ロシアの文字の話	単著	平成 16 年 2 月	東洋書店ユーラシア・ブ ックレット 57		
編訳『『世界のロシア語 2003』ロシア連邦外務省 報告書』上巻	共著	平成 18 年 3 月	東京外国語大学語学教 育研究所・筑波大学外国 語センター	中澤英彦・白山利信編	52-53,71-72,75,82,111- 113 頁
編訳『『世界のロシア語 2003』ロシア連邦外務省 報告書』下巻	共著	平成 19 年 3 月	東京外国語大学語学教 育研究所・筑波大学外国 語センター	中澤英彦・白山利信編	11-12, 33, 39-42, 65- 66,97-98,207-223 頁
ロシア語学と語学教育	共著	平成 19 年 10 月	東京外国語大学	中澤英彦・小林潔編。	83-119 頁
論文					
ローゼンベルクのロシア式 漢字排列法をめぐって	単著	平成 15 年 5 月	“ Travaux du Cer- cle linguistique de Waseda ” Vol.7		14-49 頁
資料と報告「ドイツ・テ ュービンゲン大学のロシア 語コース」	単著	平成 15 年 10 月	『ロシア語研究《木二 会》年報』第 16 号		64-85 頁
翻訳と解説「18 世紀ロシア のある言語論 アントン・ バルソフの 1786 年の論考 」	単著	平成 16 年 10 月	『ロシア語研究《木二 会》年報』第 17 号		83-100 頁
オッター・ローゼンベルク と同時代人たち その 伝記を補う幾つかのトピッ ク	単著	平成 17 年	長與進編『共同研究 ロシアと日本』第 6 集 (2005〔平成 17〕年 3 月) / 『遙かなりわが 故郷 異教に生きる III』(成文社、2005〔平 成 17〕年 4 月)		199-210 頁
研究ノート「ロシア文字を めぐる諸問題 ロシアの 言語と文化の理解に向けて 」	単著	平成 17 年 3 月	『外国語教育論集』(筑 波大学外国語センター) 第 27 号		161-168 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
書体の変化と文化の変化 ロシアの事例から	単著	平成 17 年 6 月	“ Travaux du Cer- cle linguistique de Waseda ” Vol.9		39-58 頁
「外国語としてのロシア 語」が目指すもの 「機能・コミュニケーション 文法」と「文学テキスト の重視」	単著	平成 18 年 3 月	『外国語教育論集』(筑 波大学外国語センター) 第 28 号		15-24 頁
日本学者ローゼンベルクと ロシア式漢字排列法	共著	平成 18 年 10 月	柳富子編著 『ロシア 文化の森へ 比較文 化の総合研究 第二集』 (ナダ出版センター)	柳富子編	503-520 頁
ロシア語の略語をめぐって ソ連期と現代ロシア期 の言語意識	単著	平成 18 年 10 月	『ロシア語研究 《木二 会》年報』第 19 号		9-24 頁
ロシア語教育とヨーロッパ 共通参照枠	単著	平成 19 年 10 月	中澤英彦・小林潔編 『ロ シア語学と言語教育』 (東京外国語大学)		83-119 頁
翻訳 シチェルバ どのよ うに外国語を学ぶべきか	単著	平成 19 年 10 月	『ロシア語研究』(木二 会)(20)		83-101 頁
翻訳 L.V. シチェルバ 「導入コースの意義」	単著	平成 20 年 3 月	堤正典・匹田剛編 『ロ シア語学と言語教育 II』 (東京外国語大学)		29-41 頁
ロシア語教育と情報通信技 術	単著	平成 20 年 3 月	堤正典・匹田剛編 『ロ シア語学と言語教育 II』 (東京外国語大学)		5-10 頁
その他					
学会発表 「18 世紀のある ロシア語案 アント ン・バルソフの歴史史料編 纂計画とその正書法をめぐ って」	単著	平成 15 年 7 月	日本 18 世紀ロシア研究 会第 1 回研究発表会(於 東京大学)		
ドイツ・テュービンゲン大 学のロシア語コーパス	単著	平成 15 年 10 月	木二会 『ロシア語研究』 (16)		64-85 頁
「フランクフルト・ブック フェア ロシア年見学記」	単著	平成 15 年 12 月	『窓』(ナウカ)第 127 号		2-5 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
書評 マイサク 「ハイ ネ・クテヴァ著『世界文法 化事典』の露語書評」	単著	平成 16 年 5 月	“ Travaux du Cer- cle linguistique de Waseda ” Vol.8		66-75 頁
学会発表「日本学者ローゼ ンベルク研究に向けて」	単著	平成 16 年 6 月	来日ロシア人研究会 第 47 回例会(於早稲田 大学)		
報告要旨 「18 世紀のあ るロシア語案 アン トン・バルソフの歴史史料編 纂計画とその正書法をめぐ って」	単著	平成 16 年 8 月	『日本 18 世紀ロシ ア研究会 NewsLetter』 No.1		6-9 頁
学会発表 「ローゼンベル クの伝記を補う幾つかのト ピック」	単著	平成 16 年 9 月	来日ロシア人研究会 長崎合宿(於長崎市稲佐 山観光ホテル)		
18 世紀ロシアのある言語 論 アントン・バルソフの 1786 年の論考	単著	平成 16 年 10 月	木仁会 『ロシア語研究』 (17)		83-100 頁
「ロシア語辞典ガイド」	単著	平成 16 年 10 月	『NHK テレビ ロシア 語会話』(日本放送出版 協会)2004〔平成 16〕 年 10 月号		16-23 頁
「「ロシア語週間 2004」聴 講記」	単著	平成 16 年 11 月	『日本ロシア文学会国 際交流委員会活動報告』 (日本ロシア文学会ホー ムページ)		
報告要旨 「ローゼンベル クの伝記を補う幾つかのト ピック」	単著	平成 16 年 11 月	『異郷』(来日ロシア人 研究会会報)第 20 号		16-18 頁
ロシア文字をめぐる諸問題 ロシアの言語と文化の理 解に向けて	単著	平成 17 年 3 月	筑波大学外国語セン ター『外国語教育論集』 (27)		161-168 頁
授業報告書 慶應義塾大学 総合教育セミナー 「『世 界』の『怪談』を読む」	単著	平成 17 年 8 月	慶應義塾大学理工学部 基礎教室		144 頁

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
連載 「ロシア文字への旅」	単著	平成 18 年	『NHK テレビ ロシア語会話』(日本放送出版協会)第 34 巻第 1 号-12 号(2006〔平成 18〕年 3 月~2007〔平成 19〕年 2 月)全 12 回		
学会発表「「教育文法」について 日本語教育とロシア語教育との対照」	単著	平成 18 年 3 月	科学研究費採択課題「日露新時代の社会的・言語的現状に対応したロシア語教育文法構築に関する総合的研究」第 4 回会合(於東京外国語大学)		
書評 「神奈川大学人文学研究所 『新しい文化のかたち 言語・思想・くらし』(御茶の水書房、2005 年)(人文学研究叢書(21))	単著	平成 18 年 3 月	『神奈川大学評論』第 53 号		190 頁
学界動向 「『文法化』とロシア語学」	単著	平成 18 年 4 月	“Travaux du Cercle linguistique de Waseda” Vol.10		88-97 頁
学会報告 「ロシア語コーパス研究会 2006」	単著	平成 18 年 11 月	『スラヴィアーナ』(東京外国語大学スラブ系言語文化研究会)第 21 号		222-230 頁
連載 「ロシア文字への旅 エクススクールシア」	単著	平成 19 年	『NHK テレビ ロシア語会話』(日本放送出版協会)第 35 巻(2007〔平成 19〕年度)全 12 回		
学会発表「ロシア語教育文法と言語教育スタンダード」	単著	平成 19 年 3 月	科学研究費採択課題第平成 18 年度第 3 回研究会		
学会発表「関口文法と日本に於けるロシア語教育文法」	単著	平成 19 年 3 月	シンポジウム「関口文法と現代言語学」(主催:浜松医科大学総合人間科学講座佐藤清昭研究室 [ベルリン]東西言語文化研究協会、於浜松医科大学)		
シチェルバ「どのように外国語を学ぶべきか」	単著	平成 19 年 10 月	木二会 『ロシア語研究』第 20 号		83-101 頁

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
学会発表 「ワークショップ: ロシア語教育を考える ロシア語学研究の立場 から」 「複言語主義とロ シア語教育」		平成 19 年 10 月	日本ロシア文学会第 57 回定例総会・研究発表会 (於千葉大学)		
書評 「藤沼貴『ロシア語 ハンドブック』(東洋書店、 2007 年)」	単著	平成 19 年 11 月	「日本とユーラシア」 (日本ユーラシア協会) 第 1366 号 2007 年 11 月 15 日発行 6 面		6 頁
追悼文 「ロシア語史とウ ィスキー・グラス 五味 勝義先生を偲ぶ」	単著	平成 20 年 1 月	『早稲田大学ロシア文学 会ニューズレター 』(早稲田大学ロシ ア文学会)(29)		4-6 頁
『《複言語のすすめ》十 X で世界をひらく - 言語は異 文化への扉 - 』	単著	平成 20 年 3 月	慶應義塾大学外国語教 育研究センター		
L.V シチュエルバ「導入コー スの意義」	単著	平成 20 年 3 月	堤正典・匹田剛編『ロ シア語学と言語教育Ⅱ』 (東京外国語大学)		
講演会報告 「同志社大 学京田辺ランゲージ・セミ ナー『CEFR と外国語教 育の実践』を聴講して」	単著	平成 20 年 3 月	『複眼』(神奈川大学外 国語科目教育協議会) (14)		5-6 頁
講演会報告 「神奈川大学 外国語科目教育協議会主 催講演会 境一三氏『ヨー ロッパ共通参照枠の基本理 念と日本における受容の問 題』	単著	平成 20 年 3 月	『複眼』(神奈川大学外 国語科目教育協議会) (14)		1-3 頁
学会報告 「ローゼンベル クとその周辺」	単著	平成 20 年 10 月	来日ロシア人研究会 第 65 回例会(於青山学 院大学)		
書評 「加藤百合著『ロシ ア史の中の日本学』(東洋 書店、2008 年)」	単著	平成 20 年 12 月	『異郷 「来日ロシア人 研究会」会報』(28)		29-31 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 5 年 4 月～現在に至る	早稲田大学ロシア文学会会員
平成 7 年 1 月～現在に至る	早稲田言語研究会会員
平成 7 年 6 月～現在に至る	日本ロシア文学会会員
平成 7 年 7 月～現在に至る	木二会（ロシア語研究会）会員
平成 8 年 12 月～現在に至る	日本トルストイ協会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	日本スラブ東欧学会会員
平成 15 年 4 月～現在に至る	Japanese Society for Slavic and East European Studies 会員
平成 15 年 6 月～現在に至る	ロシア語コーパス研究会会員
平成 15 年 7 月～現在に至る	日本 18 世紀ロシア研究会会員
平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月	科学研究費補助金 基礎研究 (C) (2)15520273 400 千円 (正書法論及び実際の言語運用より見たロシア 18 世紀後半の言語意識と標準語形成の研究)(研究代表者)
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	(国内共同研究) 科学研究費補助金基盤研究 (B) 17320082 「日露新時代の社会的・言語的現状に対応したロシア語教育文法」
平成 18 年 2 月～現在に至る	来日ロシア人研究会その他(同人)
平成 19 年 10 月～平成 21 年 10 月	日本ロシア文学会ロシア語教育委員会委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	(学内共同研究) 科学研究費補助金基盤研究 (C) 20520530 「非専攻課程のための新しいロシア語習得基準とその教育内容に関する総合的研究」
平成 20 年 5 月～現在に至る	日本 e-Learning 学会会員

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任助教	氏名 高木 南欧子	大学院における研究指導当 資格の有無 (有・無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例			
call 教室を利用した授業の実践	平成 11 年 9 月 ~平成 20 年 7 月	( 授業科目：日本語C ) コンピュータリテラシーについての意識と技術を高 め、大学生活に必要な技能の修得を目指す。(平成 11 年 9 月~)	
ディベートの採用	平成 11 年 10 月 ~平成 20 年 7 月	( 授業科目：日本語E ) より正確に意思を伝える表現方法を多角的(構成、内 容、声の大きさや発音、パラ言語など)から学習者が評価(他者評価、自己評 価)を行い、意識を強めることができ、技術を高めることができた。(平成 11 年 10 月~)	
コンテンツベースの語学の研究	平成 19 年 4 月 ~平成 20 年 7 月	( 授業科目：地域言語特講日本語 ) 映像教材を利用し、社会に内在する言語的 位相などの特徴を学習し、分析を行う。(平成 11 年 4 月~)	
2 作成した教科書、教材		なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし	
5 その他		なし	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
場所をあらわす名詞の意味相	単著	平成 17 年 9 月	『人文研究』第 156 巻 神奈川大学人文学会		29-44 頁
コンテキストのデザイン - 協同学習の発話データの 分析から -	共著	平成 18 年 3 月	『神奈川大学言語研究』 第 28 号 (神奈川大学 言語研究センター)		107-124 頁
協同学習におけるメタ認知 活動 大学生の原稿産出プ ロセスから	共著	平成 20 年 3 月	「神奈川大学言語研究」 (神奈川大学言語研究セ ンター)(30)	富谷玲子高木南欧子	pp.79-98 頁
その他					
コンテキストのデザイン - 協同学習の発話データの分 析から -	共著	平成 15 年 10 月	日本語教育学会平成 15 年度 日本語教育学会秋 季大会		
接触場面での協同学習にお けるディベート - 大学学部 留学生を対象とした上級日 本語教育の試み -	共著	平成 16 年 7 月	日本語教育学会平成 16 年度 第 5 回研究集会		
原稿産出過程を支えるメタ 活動 - 協同学習における発 話データの分析から -	共著	平成 16 年 8 月	(日本語教育学会, 国際 交流基金, 国立国語研究 所) 2004 年日本語教育 国際研究大会		
「学術場面における多人数 会話のデータ収集と分析」 (ワークショップ「多人数イ ンタラクションの多様性と ダイナミズム 多人数イン タラクションでは何が多 くなるのか?」)	共著	平成 18 年 8 月	社会言語科学会第 18 回 研究大会発表論文集	榎本美香・高木南欧子・中井陽子・藤 本学・坊農真弓・森本郁代・高梨克 也・伝康晴	



著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所・発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
学術場面における大学生の 日本語運用能力の分析にむ けて「 <u>超級話し言葉コー パス</u> 」の構築と利用	共著	平成 20 年 5 月	『2008 年日本語教育学 会春季大会 大会予稿 集』	高木南欧子・富谷玲子	
ディベート準備における大 学生の発話の分析	単著	平成 20 年 7 月	日本語教育学世界大会 2008 予稿集 3		495 頁

III 学会等および社会における主な活動	
年月	内 容
平成 12 年 5 月～現在に至る	社団法人日本語教育学会会員
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費補助金 基盤研究 ( B ) 4,700 千円 ( 学術場面での大学生の日本語使用実態の基礎的研究 - 超級話し言葉コーパスの構築 )( 研究分担者 )